

平成31年度入学生

授業計画書

- SYLLABUS -

【保育学科】



島根県立大学短期大学部
松江キャンパス



目 次

学修の心得	1
履修ガイド（保育学科の教育内容）	9
開講科目一覧 保育学科	16

基礎科目

心理学	19
文学	19
音楽	20
哲学	20
市民社会と図書館	21
経済学	21
日本国憲法	22
数学	22
生物と栄養	23
人間と自然	23
しまね地域共生学入門	24
キャリアプランニング	25
しまねボランティア研修	25
健康スポーツ概論	26
健康スポーツⅠ	26
健康スポーツⅡ	27
健康スポーツⅢ	27
基礎英語Ⅰ	28
基礎英語Ⅱ	28
基礎英語Ⅲ	29
海外語学研修計画	29
海外語学研修	30

専門科目

保育基礎ゼミナール	33
表現とコミュニケーション	33
読み聞かせの実践	34
保育ボランティア実習Ⅰ	34
保育ボランティア実習Ⅱ	35
保育内容演習Ⅰ	35
保育内容演習Ⅱ	36
保育情報活用法Ⅰ	37
保育情報活用法Ⅱ	38
卒業研究	38
保育原理	39
社会福祉概論	39
子ども家庭福祉	40
子ども家庭支援論	40
社会的養護Ⅰ	41
保育者論	41
教育原理	42

教育制度論	42
発達心理学	43
教育心理学	43
特別支援教育	44
幼児理解と教育相談	44
幼児理解の方法	45
子ども家庭支援の心理学	45
子どもの保健	46
子どもの食と栄養	46
教育保育課程論	47
教育方法論	47
保育内容総論Ⅰ	48
幼児と健康	48
保育内容・健康の指導法	49
幼児と人間関係	49
保育内容・人間関係の指導法	50
幼児と環境	50
保育内容・環境の指導法	51
幼児と言葉	51
保育内容・言葉の指導法	52
幼児と表現	52
保育内容・表現の指導法Ⅰ	53
保育内容・表現の指導法Ⅱ	53
保育内容総論Ⅱ	54
子どもの健康と安全	54
乳児保育Ⅰ	55
乳児保育Ⅱ	55
障害児保育Ⅰ	56
障害児保育Ⅱ	56
社会的養護Ⅱ	57
子育て支援	57
保育教職実践演習	58
教育実習指導	58
教育実習	59
保育実習ⅠA指導	59
保育実習ⅠA	60
保育実習ⅠB指導	60
保育実習ⅠB	61
保育実習Ⅱ指導	61
保育実習Ⅱ	62
保育実習Ⅲ指導	62
保育実習Ⅲ	63
音楽ⅠA	63
音楽ⅠB	64
音楽ⅡA (ピアノ)	64
音楽ⅡB (ピアノ)	65

学修の心得

1. 大学での学修

大学に入学して最初にすべきこと。それは、入学から卒業までの大学生活全体を見通して、学びのイメージを自分なりに描いてみることです。

大学での学修は、高校までの学習スタイルとは大きく異なります。高校までの時間割は各学年、各クラスで定められています。大学では学生一人一人が自分の時間割を作成します。科目数も、高校までと比べて格段に多くなります。学びの関心や取得する資格、卒業後の進路などに基づいて科目を選択し、学期（春学期・秋学期）ごとに週間の時間割を作成し、それに従って大学生活を送ります。つまり、大学では、これまで以上にみずから主体的に学ぶ姿勢が必要となるのです。

各学部・学科においては、それぞれの学びの目的に従ってカリキュラム（教育課程）が編成されています。卒業や資格取得に必要な科目と履修単位数など、履修の仕方にも一定のルールがありますので、そのことをよく理解して計画を立ててください。

松江キャンパスにおける学修の大まかな流れは、学期ごとに以下の1～5のとおりとなります。以下、この順に従って、学修の流れについてポイントを説明します。

1 学修計画 → 2 履修登録 → 3 受講 → 4 期末試験 → 5 成績評価
--

2. 学修計画

(1) ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）とカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

各学部・学科は、大学での学修の到達目標として、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を定めています。その目標に向けて学修の道筋を示したものがカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）です。この2つのポリシーは学修計画の基本となるものですので、よく確認しておいてください。さらに、カリキュラム・ポリシーに基づいた授業科目の編成をわかりやすく示した「カリキュラムマップ」もありますので、参考にしてください。

※ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、カリキュラムマップは授業計画書を参照してください。

(2) 学期と授業

1年間を春学期・秋学期の2つの学期に分けています。

授業の実施方法は、時間割により毎週開講される「通常授業」と、時間割によらず、休業期間などを利用して特定の期間に集中して開講される「集中講義」や各種「学外実習」に区分されます。

春 学 期	秋 学 期
4月1日 ～ 9月30日	10月1日 ～ 3月31日

(3) 授業時間

授業は、通常 1 時限 90 分を基準として行います。本学の基本的な授業時間は次のとおりですが、授業科目によっては集中講義や演習、実習などで授業時間が変動する場合があります。

時限	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
時間	9:00～10:30	10:40～12:10	13:10～14:40	14:50～16:20	16:30～18:00

(4) 単位制

単位制とは、授業科目を履修することで定められた単位数を取得し、卒業、あるいは免許・資格の取得ができる制度のことです。

通常の講義形式の授業（90 分×15 回）を履修することによって、1 科目あたり 2 単位取得できます。

ただし、講義や演習、実技などの授業の形式や授業の時間数によって、取得できる単位数は科目ごとに異なりますので、授業計画書でよく確認してください。

また、単位制の考え方の前提には、授業以外の自主学習（予習・復習）を確実に行うことが求められています。

【単位数と学修時間について】

単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容で構成することを原則とし、科目ごとに定められています。

本学では 1 コマ（1 回）90 分の授業を 2 時間の授業とみなしており、多くの科目において 15 コマ（15 回）30 時間の授業をしています（科目によっては 7.5 コマ 15 時間等もあります）。

1 単位の授業科目においては 45 時間の学修が必要ですから、すなわち 15 時間の授業外での自主学習（予習や復習等）が必要となります（2 単位の科目であれば、30 時間（1 回の授業につき 2 時間）の自主学習が必要ということになります）。

単位が認められるには授業時間だけでなく、自主学習を行う時間が前提としてあることに留意してください。

（参考）卒業に必要な単位数

学 部	学 科	卒業に必要な単位数
人間文化学部	保育教育学科	1 2 4 単位以上
	地域文化学科	1 2 4 単位以上
短期大学部	保育学科	6 2 単位以上
	総合文化学科	6 2 単位以上

(5) 授業科目の区分

本学の授業科目には、必修科目と選択科目があります。

①必修科目：必ず履修しなければならない科目であって、履修して単位を修得しないと卒業できません。

②選択科目：自主的に適宜選択して履修する科目です。

*免許や資格取得のためのカリキュラムも用意していますが、これらの免許・資格取得や受験資格取得のためには、各種免許・資格ごとに履修しなければならない必修科目と選択科目がありますので、必ず、各自で確認してください。

(※各学部・学科の履修規程別表を参照してください。)

3. 履修登録

(1) 授業科目の履修登録・変更

授業科目を履修するにあたっては、「履修登録」が必要です。履修登録・変更の時期は、各学期始めの「履修登録期間」に行います。各学年始めには学科別履修ガイダンスで説明を受けますが、履修登録・詳細については、「情報ネットワークシステム利用の手引き」等を確認してください。不明な点は、担任または教務学生課に相談してください。

履修登録は、学生の自己責任で行うものです。入力ミスや履修登録漏れ等があった場合は、その学期での履修ができず、単位の修得も認められません。入力の際に十分確認を行ってください。

(2) 履修登録上の留意事項

① 必修科目は、翌年度以降、他の必修科目と開講時限が重なり履修できない場合がありますので、指定された年次に、必ず履修しましょう。

② 次の授業科目は履修することができません。

- ・既に単位を修得した授業科目
- ・授業時間が重複する授業科目（集中講義、実習などは除きます）

(3) 履修登録の変更

登録した科目を受講した際、「自分の受講目的と合致しない」などの理由により履修登録を変更したい場合は、履修登録変更期間内に教務学生課に「履修登録変更依頼書」を提出してください。未提出のまま履修を取りやめた場合（放棄）は、「不可」評価となり、不合格となります。

履修変更期間は学期開始後の3週目を目安とし、具体的な期日は教務日程に記載します。

(※人間文化学部履修規程第2条、短期大学部履修規程第3条を確認してください)

(4) 再履修

当該年次で単位の修得ができなかった場合は、翌年次以降、再度、当該科目を履修することができます。なお、必修科目は、卒業要件となりますので、必ず、再履修の登録を行ってください。

4. 受講

(1) 時間割

時間割は、春学期、秋学期の始めに教務学生課から開示します。教室等も表示されていますので確認してください。また変更がある場合がありますので、学生情報システム等で最新版を確認してください。

(2) 出席

履修登録をしている授業には出席しなければなりません。原則として、その授業科目の授業実施時間数の3分の2以上の出席を満たしていなければ試験を受けることができず、単位を修得することもできません。

(3) 欠席

やむを得ず病気等の理由により1週間以上欠席する場合は欠席届を提出してください。次のいずれかに該当する欠席は、願い出によって公欠として扱うことができます。

- ① 法令の規定による出席停止
- ② 本学が定める限度日数の範囲内の忌引
- ③ 風水震火災その他の非常火災及び交通機関の事故等の不可抗力による欠席
- ④ その他学長が認める欠席

(※詳しくは、学生通則第15条を確認してください)

なお、次の①～⑥のいずれかに該当する欠席は公欠とはなりませんが、届け出によって教員による措置が講じられます。

- ① 教職課程の履修登録を行っている学生が教育実習を行う場合（人間文化学部のみ）
- ② 海外渡航を伴う授業の受講者が査証手続きを行う場合
- ③ 学則の規定に基づき留学を許可した学生が査証手続きを行う場合
- ④ 就職活動を行う場合
- ⑤ 進学のために受験する場合
- ⑥ 上記に掲げるもののほか、担当教員が必要と認めた場合

(※詳しくは、授業運営細則第4条を確認してください)

(4) 休講

授業担当教員がやむを得ない理由により授業を休講する場合があります。その場合は担当教員からの連絡または学生情報システム等に掲示しますので、各自で確認をしてください。

なお、授業開始時間10分を過ぎても授業が開始されない場合は教務学生課まで連絡してください。

また、非常変災（異常気象）その他急迫の事情があるときは授業を休講することがあります。

(5) 補講

休講等の理由で、授業時間が不足する場合に補講が行われます。その場合は学生情報システム等に掲示しますので、各自で確認してください。

(6) 集中講義

授業科目によっては、短期的に集中して授業を行う場合があります。土・日、あるいは休業期間を利用して開講する機会が多いので、スケジュール確認をしっかりとってください。

5. 成績評価及び単位認定

登録した授業科目を履修し、試験その他の審査に合格した学生には、所定の単位が与えられます。

(1) 試験等の受験資格

- ① 履修登録を行っていること。
- ② 当該授業科目の授業時間数の3分の2以上出席していること。

(2) 試験等の時期

試験等は、学期末に期間を定めて行うことを基本としますが、授業科目によっては随時行う場合もあります。

(※教務日程を確認してください)

(3) 試験等の方法

試験等は、筆記、実技その他の方法により行われます。また、レポート提出や作品提出などによる方法もありますので、担当教員の指示に従ってください。

(4) 試験等の種類と手続き

① 定期試験

原則として各学期末の指定期間に行います。

なお、病気その他やむを得ない理由で受験できないときは、事前に教務学生課に連絡してください。

② 追試験

病気その他やむを得ない理由で定期試験を受験できず、追試験を希望する者は「追試験願」に診断書など欠席理由を証明する書面を添えて、教務学生課に提出しなければなりません。提出された願に対し、大学が追試験を実施するか否かを決定し結果を通知します。試験方法などは授業の担当教員の指示に従ってください。

③ 再試験

試験等の結果が不合格となったときは、再試験は行いません。ただし、やむを得ず再試験を実施する場合があります。再試験を受けようとする者は、「再試験願」を教務学生課に提出しな

ければなりません。提出された願に対し、大学が再試験を実施するか否かを決定し結果を通知します。

(5) 不正行為

試験の代理受験や試験実施中のカンニング、監督者の注意等に従わない等の不正行為が認められた場合、受験を継続することができず、次の措置がとられます。

- ・当該学期の授業科目の履修が全て無効になります。
- ・学則（人間文化学部 49 条、短期大学部 44 条）の規定に基づき懲戒の対象となります。

また、論文、レポートにおける剽窃行為（他人の作品や論文の成果を、自分のものとして発表すること）についても不正行為となり、同様の措置がとられます。

（※試験を受験する際の注意点については p 11 を確認してください。）

(6) 成績評価及び単位認定

授業科目ごとに、学修の成果を「秀」、「優」、「良」、「可」および「不可」に区分して評価し、「秀」、「優」、「良」、および「可」を合格として所定の単位を認定します。

「秀」、「優」、「良」、「可」および「不可」の評価基準は、100 点満点とする点数で、次のとおりとします。

- ①「秀」 90 点以上
- ②「優」 80 点以上 90 点未満
- ③「良」 70 点以上 80 点未満
- ④「可」 60 点以上 70 点未満
- ⑤「不可」 60 点未満

GPA (Grade Point Average) について

学生の学修意欲を高めるとともに、適切な修学指導に資することを目的とし GPA によるスコアを算出します。GPA は下記に利用します。

- ・成績通知書
- ・編入する大学へ開示する成績情報
- ・成績優秀者奨学金の選定指標
- ・保育教育学科の免許状・資格の追加履修可否基準
- ・地域文化学科の免許状・資格の履修可否基準
- ・その他各種推薦に関する資料として

成績評価	秀	優	良	可	不可
判定基準	90 点以上	80 点以上 90 点未満	70 点以上 80 点未満	60 点以上 70 点未満	60 点未満
G P	4 . 0	3 . 0	2 . 0	1 . 0	0 . 0

(1) 学期G P Aの計算式

$$\frac{\text{当該学期の「秀」の単位数} \times 4 + \text{「優」の単位数} \times 3 + \text{「良」の単位数} \times 2 + \text{「可」の単位数} \times 1}{\text{当該学期の総履修登録単位数}}$$

(2) 累積G P Aの計算式

$$\frac{\text{全期間の「秀」の単位数} \times 4 + \text{「優」の単位数} \times 3 + \text{「良」の単位数} \times 2 + \text{「可」の単位数} \times 1}{\text{全期間の総履修登録単位数}}$$

なお、GPAの対象となる科目については以下のような留意事項があります。

- ・「履修登録の取消」により取り消された科目は GPAの対象外となります。
- ・放棄された科目は、GPAに算定に含めるものとし、当該科目の成績は「不可」とみなします。
- ・累積GPAの算定に当たり再履修科目が含まれている場合は、当初の履修登録による修得単位数及び取得GPを算定から除外します。

この他、認定科目についても対象外となります。

不明な点がある場合は、教務学生課まで確認してください。

●詳しい内容は下記の諸規程で確認してください。

【島根県立大学人間文化学部】

- ・島根県立大学学則
- ・島根県立大学人間文化学部学生通則
- ・島根県立大学人間文化学部履修規程
- ・島根県立大学人間文化学部他の大学等における履修等に関する規程
- ・島根県立大学人間文化学部入学前既修得単位数の認定に関する規程
- ・島根県立大学学位規程

※その他、各種資格取得に関する諸規程

【島根県立大学短期大学部】

- ・島根県立大学短期大学部学則
- ・島根県立大学短期大学部学生通則
- ・島根県立大学短期大学部履修規程
- ・島根県立大学短期大学部学修・修得単位等の単位認定に関する規程
- ・島根県立大学短期大学部学位規程

定期試験受験に際しての注意事項

以下の注意事項をよく読んで試験を受験しましょう。

1. 学生証を机の上に提示すること。
※忘れた場合は教務学生課で仮学生証の発行を申し出ること。
2. 筆記用具、学生証及び教員が認めたもの以外は机の上に置かないこと。
3. 机の中には物を入れないこと。
4. 携帯電話、時計のアラーム等の音を発するものは、スイッチを切って鞆の中に入れること。
5. 授業開始時間に遅れないこと。遅刻した場合の入室については、監督者の指示に従うこと。遅刻時間によっては、受験できない場合もあるので注意すること。
6. 不正行為があったと判断された場合は、その時点で当該科目の受験資格を失い、当該学期の授業科目の履修がすべて無効となるほか、学則の規定に基づいて懲戒されるので不正行為は絶対行わないこと。
7. 試験途中の退室は、監督者の指示に従うこと。
8. 追試験の取り扱いについては次のとおりとする。

次の理由により、定期試験を受けることができなかった場合には、欠席の理由を明らかにした証明書等を添付の上、試験終了後1週間以内に「追試験願」を教務学生課に提出してください。学長の許可を得て、指定された日に追試験を受けることができます。

1. 疾病（⇒医師の診断書が必要）
2. 交通機関の突発事故その他の自然災害（⇒遅延証明書や事故証明書等が必要）
3. 忌引（⇒会葬礼状の写し等が必要）
4. 就職活動、進学のための受験（ただし、就職活動については以下に該当する場合のみ）

- ① 企業等の指定する日時に選考試験（面接を含む）を受ける場合
 - ② 企業等の指定する日時に当該企業等を訪問又は当該企業が開催する説明会に参加する場合
 - ③ 内定企業から呼び出しを受けた場合は、①②に準じて取り扱うものとする
- ※学期末試験と重複しない日時を選択できる余地がある場合は、選考試験や説明会等の日時調整をすること。調整可能であるにも関わらず、選考や説明会等に参加して試験を欠席した場合は、追試験を認めない。

5. その他学長が特に認める欠席

※追試験受験が必要となることが判明した時点で、教務学生課までメールや電話等で事前に連絡をすること。

履修ガイド

【保育学科の教育内容】

1. 保育学科の目的

保育学を中心に、教育学、心理学、社会福祉、音楽、体育、美術、小児保健等の各分野を教育研究対象として、保育士及び幼稚園教諭の養成を行うとともに、現代の子育てを取り巻く社会及び家庭環境の変化等に伴う、より高度で多岐にわたる専門性が求められていることを踏まえ、これら広範囲にわたる分野について総合的に保育学や幼児教育学に関する研究に取り組むこと。

保育学科 学位授与の方針 Diploma Policy

[知識・技能]

- ・ 保育及び関連する諸分野に関する基礎的な知識及び技能を身に付けている。

[思考力・判断力・表現力]

- ・ 学修した基礎知識や技能を用いて課題解決に向けた思考判断ができる。
- ・ 保育をめぐる諸課題を把握し、自らの考えを述べるができる。

[関心・意欲・態度]

- ・ 地域社会において保育者としての役割を果たすことができる人権感覚、倫理観及び職業観を身に付けている。

2. 免許・資格の取得と卒業要件

学則第31条 学科において取得することができる免許状、資格及び受験資格は、次の表のとおりとする。

保育学科	保育士資格、幼稚園教諭二種免許状
------	------------------

学則第28条 学科を卒業するためには、次の各号に掲げる要件をみたさなければならない。

(2) 保育学科

在学期間を2年以上とし、次の表に掲げる単位数を修得すること。

科目	基礎科目			専門科目		関単 連位 科互 目換	合計
	人間と世界の理解・地域と文化の理解・ライフデザイン	保健体育	外国語	必修	選択		
単位数	4単位以上	2単位以上	2単位	5.4単位	—	—	<u>6.2単位以上</u>

3. 保育学科の教育課程

保育学科の学生は、原則として保育士資格および幼稚園教諭2種免許状を取得するものとする。

保育学科 教育課程の編成方針 Curriculum Policy

- ①地域における人間の生き方や文化の様態について価値を見出す能力の育成を目指して、「しまね地域共生学入門」「しまねボランティア研修」を含む、「基礎科目」を編成する。
- ②子どもの発達や保育課題についての実践的専門性の育成を行うために、保育及び関連する諸分野に関する「専門科目」を編成する。
- ③集団での協同的実践力の育成を行うことを目的として、グループによるアクティブラーニングと実習体験活動の科目を配置する。

2年間の学修における4段階のステップ



保育学科においては2年間の教育課程を4段階のステップに分けている。全ての学生が各学期におけるCurriculum Policyに応じた以下の教育内容を修得する。

1年春学期「保育理解の基礎」

子どもの発達や保育者の姿、心がまえ等を学ぶ。

基礎科目とともに、児童福祉や保育とその関連領域の専門基礎科目を中心に履修する。

また、保育内容演習Ⅰを通して保育内容の指導法を総合的に学び、9月の夏季休業中には保育実習Ⅰ(保育所)を経験して、保育士の業務や子どもの様子の実際を学ぶ。

学びのポイント

- 保育・福祉についての基本的な知識及び文化・社会・自然についての教養を学修する
- 他者の意見やアドバイスに耳を傾け、協力して課題に取り組む
- 保育士・幼稚園教諭のあるべき姿や心がまえなどを理解し、それらの職業を目指す学生としての態度やマナーを身につける
- 保育所での実習において、積極的なコミュニケーションを通じ、保育士の業務や子どもの様子の実際を理解する

<必修科目> 保育基礎ゼミナール 保育内容演習Ⅰ 保育原理 子ども家庭福祉 幼児と健康
社会福祉概論 保育者論 発達心理学 子どもの保健 音楽ⅠA 音楽ⅡA(ピアノ)

<選択科目> 表現とコミュニケーション 保育情報活用法Ⅰ 保育内容総論Ⅰ

1年秋学期「保育理解の深化」

1年春学期で経験した保育実習Ⅰ(保育所)の経験をベースとして、さらに保育者として最低限求められる専門的な知識や技能を学ぶ。

また、教科に関する科目の学びや、保育内容演習Ⅱで保育内容の総合的な実践を経験することにより、学生自身の保育力量の向上をめざす。

学びのポイント

- 個々の子どもや子ども集団を理解するために必要な知識を修得する
- 遊びと生活を柱とする保育・幼児教育の基本を理解し、教材や遊具についての知識を広げる
- 音楽・美術・体育の教科に関わる知識、情報機器の活用についての知識を身につける
- 保護者や地域との連携、特別支援教育など、保育・幼児教育をとりまく新たな課題への関心を持つ

<必修科目> 保育内容演習Ⅱ 社会的養護Ⅰ 子どもの健康と安全 幼児と人間関係 幼児と表現
障害児保育Ⅰ 音楽ⅡA(ピアノ)

<選択科目> 保育情報活用法Ⅱ 幼児理解と教育相談 教育方法論 保育内容・人間関係の指導法
音楽ⅠB

2年春学期「専門職務の理解」

学生は、1年次には保育所保育士としての経験が求められたが、その他にも児童福祉施設、保育所(保育実習Ⅱ)、幼稚園等でのさまざまな実習を行う中で、保育士・幼稚園教諭に求められる専門性を学ぶ。

この段階では、読み聞かせを実践的に学び、保育実習Ⅰ(施設)、保育実習Ⅱ、保育実習Ⅲ、教育実習等の実習を経験する。

学びのポイント

- 保育士・幼稚園教諭の役割や教育の理念など、保育・教育職の責務や意義を理解する
- 集団において率先して自らの役割を見つけ、リーダーシップ・フォロワーシップを発揮して課題に取り組む
- 保育所、児童福祉施設、幼稚園等での実習において、これまでの学びを実践に生かし、専門性への理解を深める
- 保育士・幼稚園教諭として必要な自己の課題を認識し、解決に向けて学びつづける姿勢を身につける

<必修科目> 教育原理 子どもの食と栄養 教育保育課程論 乳児保育Ⅰ 障害児保育Ⅱ

<選択科目> 読み聞かせの実践 教育心理学 保育内容・健康の指導法 保育内容・環境の指導法
保育内容・言葉の指導法 保育内容・表現の指導法 子ども家庭支援の心理学
教育制度論 音楽ⅡB(ピアノ)

2年秋学期「実践力向上への展望」

教育実習の後半を終了し、保育教職実践演習を通してこれまで学びを深化させる。

2年次の最後には、これまでの講義や演習、様々な実習によって得られた学習経験の集大成として卒業研究をまとめる。

学びのポイント

- 教材研究、長期的な指導計画の作成、教育課程の編成など、実践力向上に向けた基本的な知識を修得する
- 他者と共同して保育を企画・運営・展開する力を身につける
- これまでに得た知識・態度・技能を統合して学びを深化し、今後の課題や目標を明確にする
- 2年間の講義・演習・実習によって得られた学修の集大成として、卒業研究をまとめる

<必修科目> 子ども家庭支援論 社会的養護Ⅱ 乳児保育Ⅱ 子育て支援 保育教職実践演習

<選択科目> 保育内容・表現の指導法Ⅱ 音楽ⅡB(ピアノ) 保育内容総論Ⅱ 幼児理解の方法
特別支援教育

【履修方法と履修登録】

1. 卒業要件

開講科目一覧 保育学科(平成 31 年度入学生)

備考 1 卒業要件を満たすためには、「単位数」の項に定める必要単位数及び「卒業要件」の項に定める科目区分ごとの単位数を満たし、合計 62 単位以上履修しなければならない。

- ・卒業要件は本学を卒業するために履修すべき単位で、卒業要件が満たされないと卒業できない。
- ・本学保育学科の卒業要件を満たすには、「開講科目一覧 保育学科」の表に示されている、「単位数」欄の必修科目をすべて履修し、「卒業単位」欄に示されている各科目区分ごとの単位数を満たした上で◎がついている科目をすべて履修し、かつ合計 62 単位以上になることが必要となる。
- ・卒業要件を満たしただけでは、保育士資格、幼稚園教諭二種免許状は取得できない。

2. 取得できる資格・免許について

開講科目一覧 保育学科(平成 31 年度入学生)

備考 2 保育学科の学生は、原則として保育士資格及び幼稚園教諭二種免許状を取得するものとする。

- ・保育学科では、学生全員が保育士資格及び幼稚園教諭二種免許状の両方の資格・免許を取得することを目指して 2 年間履修する。
- ・近年は、認定こども園も増えており、採用試験の際には保育士資格と幼稚園教諭免許の両方を持っていることが受験条件となることが多い。現在の保育現場では、保育士資格・幼稚園教諭免許の併有が求められるのが実情。
- ・「原則として」と書いてあるのは、学生によっては保育士資格や幼稚園教諭免許に必要な必修科目・選択必修科目が取得できない場合や、様々な実習に出かけても決められた日数を終えることができない、日誌や指導案などの提出物が提出できずに単位認定がされない場合があるためである。その場合、それらの資格・免許が取得できるまで留年するか、それらの資格・免許は途中で断念し、取得できずに卒業要件を満たして卒業することになるので、資格・免許にかかる授業科目の登録、出席日数や課題提出なども含む履修状況や成績認定などには十分注意して単位を修得する。
- ・過去にさかのぼると、特に幼稚園教諭免許に関する科目や幼稚園実習で単位がとれないケースが生じているため、気を引き締めて履修する。
- ・選択科目は、ギリギリの単位数を履修するのではなく、余裕をもって多めに履修する。
- ・1 年次の必修科目が不可となった(単位を落としてしまった)場合、2 年次の同じ学期にその科目は開講されるため、2 年生の時に 1 年生の授業を 1 年生と一緒に再履修することになる。場合によっては、1 年次の再履修の科目の開講時間と 2 年次の必修科目の開講時間が重なる

ことが起こり、そうなると2年間では卒業できなくなる可能性もあるため、できるだけ必修科目は単位を落とさないように細心の注意を払って履修する。

3. 保育士資格について

備考2(1) 保育士資格を得ようとする者は、児童福祉法施行規則（昭和23年厚生省令第11号）の規定に基づき、卒業要件を満たし、かつ、「資格等の要件」の項に掲げる「保育士」区分に定める◎印を付した指定科目を履修しなければならない。また、△印を付した授業科目群から6単位以上を、▲印を付した保育実習Ⅱあるいは保育実習Ⅲから実習指導を含めて3単位以上を履修しなければならない。

・表の「資格等の要件」の「保育士」区分に示されている◎印の指定科目を履修する。さらに、△印から6単位以上、▲印から3単位以上を（保育所実習を希望する場合は「保育実習Ⅱ指導(1単位)」「保育実習Ⅱ(2単位)」を、児童福祉施設実習を希望する場合は「保育実習Ⅲ指導(1単位)」「保育実習Ⅲ(2単位)」を選択必修で)履修する。

4. 幼稚園教諭免許状について

備考2(3) 幼稚園教諭2種免許状を得ようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）の規定に基づき、卒業要件を満たし、かつ、「資格等の要件」の項に掲げる「幼稚園教諭二種免許状」区分に定める◎印を付した指定科目を履修しなければならない。また、△印を付した授業科目群から3単位以上を、◆印を付した授業科目から1単位以上を履修しなければならない。

・表の「資格等の要件」の「幼稚園教諭二種免許状」区分に示されている◎印の指定科目を履修する。さらに、△印から3単位以上、◆印から1単位以上を履修する。

・表の「科目区分」に示されている「基礎科目」のうち、「人間と世界の理解」の「人間と文化」から2単位以上、「人間と社会」から「日本国憲法」を含む2単位以上、「人間と自然」から2単位以上、かつ合計8単位以上履修しなければならない。これらの区分を満たさずに合計8単位以上履修していても、幼稚園教諭免許は取得できない。

・「基礎科目」の「日本国憲法」は幼児の必修。絶対に単位を落とさないようにする。

5. 必修科目について

・1年春学期「しまね地域共生学入門」は、四大部の学生と共同受講をする科目で、県立大学の複数の教員がしまねや地域の視点から講義を行う授業。卒業必修なので、単位を落とさないように気をつける。

・1年春学期「保育内容演習Ⅰ」と1年秋学期「保育内容演習Ⅱ」は1年を通じて継続して履修する演習科目。子どもたちに歌や劇などの遊びや楽しい時間を提供できるようなプログラムを学生が中心となって考え、実践する授業で、学生の主体性が求められるアクティブラーニングの授業。休まずに意欲的に授業に出席する。火曜日2時限目に開講される科目であるが、初回の授業は指定された講義室に集合する。

・2年秋学期「保育教職実践演習」は保育士資格・幼稚園教諭二種免許状ともに必修の科目。

授業担当教員から事前ガイダンスがあるので、必ず受講する。

6. 選択科目について

・「基礎科目」の「ライフデザイン」に位置づく「キャリア・プランニング」の授業は選択科目として記載されているが、実際は保育学科・総合文化学科ともに全員必修扱いで履修する科目となっている。1年秋学期に開講される科目であるが、就職や進学など、自分の人生におけるキャリアを考える機会となる授業である。具体的には、就職への理解を深め、就職活動に必要な知識や書類作成・面接など就職試験で必要となる技術(履歴書の書き方・作文指導や模擬面接などの実践も含む)を身につける授業なので全員履修する(就職をせず、編入学を希望する学生も小論文や面接などの進学試験対策になるので受講する)。

・1年春学期「表現とコミュニケーション」は、さまざまな表現の方法を体験的に学ぶ授業で、保育者・社会人としての実践的な資質を高める授業。

・2年春学期「読み聞かせの実践」は子どもたちの前で行う読み聞かせの技法を身につけ、幼保園のぎや乃木小学校等での読み聞かせを実際に経験できる授業。読み聞かせについては、保育所実習・幼稚園実習では必ず実習中に学生がすることになる活動で、近年は私立保育所や私立幼稚園での採用試験の際にも「読み聞かせ」の試験を課されることが多くなっている。自信をもって子どもたちの前で読み聞かせができるようになるために、この科目を履修して自分の力を高めることも必要。

・1年春学期・秋学期の「しまねボランティア研修」は、集中講義で実施される科目で、サンレイクでの体験実習を含む授業。

・2年春学期・秋学期通年の「音楽ⅡB(ピアノ)」は、2年次の幼稚園実習でピアノが弾けることが強く求められること(幼稚園実習中、季節の童謡を数曲、子どもたちの前で弾き歌いすることが求められる)、保育現場で必須となるピアノ実技を修得するために、積極的に履修する。特にピアノ初心者・中級者は、短大2年間を通じてピアノレッスンを受け、継続的にピアノに触れる機会を持つことが大事。

7. 履修登録について

・1年春学期は授業開始後すぐに履修登録期間が設定されているので、「履修登録期限」までに1年春学期(半年分)の履修登録を行う。また、その後すぐに履修変更期間が設定されているので、「履修変更期限」までに1年春学期の履修の修正(確定)を行う。

・1年秋学期開始後は、1年秋学期(半年分)の履修登録と修正を行うので、履修登録期限と履修変更期限に注意して登録・修正(確定)を行う。

・2年春学期開始後は、2年秋学期までの1年間の履修登録を行い、2年秋学期開始後に履修科目の修正(確定)を行う機会があるので、その期限を忘れずに履修の登録・修正(確定)を行う。

・履修登録期限や履修変更期限を過ぎて、履修登録の間違いなどに気づいた場合、すぐに担任と教務学生課に相談する。

科目区分	授業科目	担当教員	単位数		週配当時間				卒業単位	資格の要件		備考	
			必修	選択	1年次		2年次			保育士資格	幼稚園免許 教諭状論		
					春学期	秋学期	春学期	秋学期					
基礎科目	人間と文化	心理学	飯塚由美	2	30	2							
		文学	[山根繁樹]	2	30	2							
		音楽	[新倉健]	2	30		2						
		哲学	[瀬古康雄]	2	30				2				
	人間と社会	市民社会と図書館	[石井大輔]	2	30		2					4 大部と共同開講	
		経済学	[大塚茂]	2	30		2					4 大部と共同開講	
		日本国憲法	[谷口智紀]	2	30				2				
		数学	[奥村泰鷹]	2	30	2							
	人間と自然	生物と栄養	[安藤彰朗]	2	30		2						
		人間と自然	[鹿野一厚]	2	30				2				
	地域	しまね地域共生学入門	島根県立大学専任教員	2	30	2						4 大部と共同開講	
	ライフデザイン	キャリア・プランニング	保育学科専任教員	2	30		2						
		しまねボランティア研修	[日次和恵]	1	30		(30)		(30)			4 大部と共同開講	
	保健体育	健康スポーツ概論	[岸本強]	1	15		1			◎	◎	◎	4 大部と共同開講
		健康スポーツⅠ	梶谷朱美	1	30	2				◎	◎	◎	
		健康スポーツⅡ	[原文典]	1	30			2					
		健康スポーツⅢ	[山本ユミ]	1	30				2				
	外国語	基礎英語Ⅰ	[浅香加奈子]	1	30	2				◎	◎	◎	
		基礎英語Ⅱ	[浅香加奈子]	1	30		2			◎	◎	◎	
		基礎英語Ⅲ	[松浦雄二]	2	30		(30)						英米文化特論(へるん)の読替
海外語学研修計画		[Dustin Kidd]	1	15	2								
	海外語学研修	[Dustin Kidd]	2	30	(30)		(30)					4 大部と共同開講	
保育総合科目	保育基礎ゼミナール	保育学科専任教員	1	30	2								
	表現とコミュニケーション	[園山士筆], [有田幸], [田中小百合]	1	15	(15)					△			
	読み聞かせの実践	菊野雄一郎, [岩田裕子], [尾崎智子], [内田梅子]	2	60			4			△			
	保育ボランティア実習Ⅰ	小林美沙子	1	45		(45)							
	保育ボランティア実習Ⅱ	小林美沙子	1	45			(45)						
	保育内容演習Ⅰ	梶谷朱美, 渡邊寛智, 小林美沙子, [小山優子]	1	30	1				△	◎			
	保育内容演習Ⅱ	梶谷朱美, 渡邊寛智, 小林美沙子, [小山優子]	1	30	1				△	◎			
	保育情報活用法Ⅰ	飯塚由美	1	30	2					◎		第66条の6	
	保育情報活用法Ⅱ	飯塚由美	1	30	2					◎		第66条の6	
	卒業研究	保育学科専任教員	2	90			(45)	(45)					
	保育の本質・目的に関する科目	保育原理	渡辺一弘	2	30	2				◎			
	専門科目	教育の基礎理論	社会福祉概論	宮下裕一	2	30	2				◎		
子ども家庭福祉			宮下裕一	2	30	2				◎			
子ども家庭支援論			宮下裕一, [石倉有子]	2	30			2		◎			
社会的養護Ⅰ			宮下裕一	2	30	2				◎			
保育者論			渡辺一弘	2	30	2				◎	◎		
教育の理念・歴史・思想			[時津 啓]	2	30			2		◎	◎		
生徒指導・教育相談等		教育制度論	[牧瀬翔麻]	1	15			1		◎	◎		
		心身の発達及び学習の過程	菊野雄一郎	2	30	2				◎	◎		
		特別支援教育の理解	飯塚由美	2	30			2		△	◎		
		特別支援教育	西村健一	1	15				1	△	◎		
		幼児理解と教育相談	菊野雄一郎, [曾田裕子]	2	30	2				◎	◎		
		幼児理解の方法	菊野雄一郎	1	15				1	△	◎		
領域及び保育内容の指導法に関する科目	子ども家庭支援の心理学	[小村俊美]	2	30			2		◎				
	子どもの保健	[前林英貴]	2	30	2				◎				
	子どもの食と栄養	[長島美保子]	2	30			2		◎				
	教育保育課程論	渡辺一弘	2	30			2		◎	◎			
	教育方法論	渡辺一弘	1	15		1			△	◎			
	保育内容総論Ⅰ	渡辺一弘	1	15	1				◎	◎			
保育の内容・方法に関する科目	幼児と健康	梶谷朱美	1	15	1				◎	◎			
	保育内容・健康の指導法	梶谷朱美, [藤原洋子]	1	15			1		◎	◎			
	幼児と人間関係	小林美沙子	1	15		1			◎	◎			
	保育内容・人間関係の指導法	小林美沙子	1	15		1			◎	◎			
	幼児と環境	小林美沙子	1	15			1		◎	◎			
	保育内容・環境の指導法	小林美沙子	1	15			1		◎	◎			
	幼児と言葉	[中井悠加]	1	15		1			◎	◎			
	保育内容・言葉の指導法	[中井悠加]	1	15		1			◎	◎			
	幼児と表現	渡邊寛智, [福井一尊]	1	15		1			◎	◎			
	保育内容・表現の指導法Ⅰ	渡邊寛智	1	30			2		◎	◎			
保育内容・表現の指導法Ⅱ	[川路澄人]	1	30				2	△	◎				
保育内容総論Ⅱ	渡辺一弘	1	15			1		◎	◎				

54単位以上(必修科目50単位を含む)

科目区分	授業科目	担当教員	単位数		授業時間数	適配当時間				卒業単位	資格の要件		備考		
			必修	選択		1年次		2年次			保育士資格	二幼稚園免許教諭			
						春学期	秋学期	春学期	秋学期						
専 門 科 目	子どもの健康と安全	[前林英貴],[竹原康江]	1		30			2				◎			
		乳児保育 I	[前林英貴]	2		30				2			◎		
		乳児保育 II	[青山啓子]	1		15					1		◎		
		障害児保育 I	[小脇洋],[相原晴美],[門脇志真]	1		15		1					◎		
		障害児保育 II	[曾田裕子]	1		15				1			◎		
		社会的養護 II	[藤原映久]	1		15					1		◎		
		子育て支援	[山尾淳子]	1		15					1		◎		
	総合演習	教職実践演習	渡辺一弘, 梶谷朱美, 渡邊寛智, 小林美沙子	2		30					2		◎ ◎		
	教育実習	教育実習指導	小林美沙子,[青山啓子]		1	15						1		◎	
		教育実習	小林美沙子		4	180				(90)	(90)			◎	幼稚園実習
	保育実習	保育実習 I A指導	菊野雄一郎,[青山啓子]	1		15		1					◎		
		保育実習 I A	菊野雄一郎	2		90		(90)					◎	保育所実習	
		保育実習 I B指導	宮下裕一,[藤原映久]	1		15					1		◎		
		保育実習 I B	宮下裕一,[藤原映久]	2		90					(90)		◎	施設実習	
		保育実習 II指導	渡辺一弘,[青山啓子]		1	15					1		▲		
		保育実習 II	渡辺一弘		2	90					(90)		▲	保育所実習	
		保育実習 III指導	宮下裕一,[藤原映久]		1	15					1		▲		
		保育実習 III	宮下裕一,[藤原映久]		2	90					(90)		▲	施設実習	
	保育の表現技術	音楽 I A	渡邊寛智	1		30	2						△		
		音楽 I B	渡邊寛智		1	30		2					△		
音楽 II A (ピアノ)		[山城裕子],[内田真理子],[田中加菜]	1		30	1	1					△			
音楽 II B (ピアノ)		[山城裕子],[内田真理子],[田中加菜]	1		30				1	1		△			

備考 1 卒業要件を満たすためには、「単位数」の項に定める必修単位数及び「卒業単位」の項に定める科目区分ごとの単位数を満たし、合計62単位以上履修しなければならない。

2 保育学科の学生は、原則として保育士資格及び幼稚園教諭2種免許状を取得するものとする。

(1) 保育士資格を得ようとする者は、児童福祉法施行規則(昭和23年厚生省令第11号)の規定に基づき、卒業要件を満たし、かつ、「資格等の要件」の項に掲げる「保育士」区分に定める◎印を付した指定科目を履修しなければならない。また、△印を付した授業科目群から6単位以上を、▲印を付した保育実習Ⅱあるいは保育実習Ⅲから実習指導を含めて3単位以上を履修しなければならない。

(2) 保育士資格取得に係る単位認定は、学則第27条及び島根県立大学短期大学部学修・修得単位等の単位認定に関する規程及び次に定めるところによるものとする。
 ・他の指定保育士養成施設において履修した科目について修得した単位を、30単位を超えない範囲で、当該科目に相当する科目の履修により修得したものとみなす。
 ・また、指定保育士養成施設以外の学校等(学校教育法(昭和22年法律第216号)による大学、高等専門学校、高等学校の専攻科若しくは養護学校の専攻科、専修学校の専門課程又は同法第56条第1項に規定する者を入学資格とする各種学校)において履修した科目のうち指定保育士養成施設で設定する教養科目に相当する科目について、30単位を超えない範囲で修得したものとみなす。

(3) 幼稚園教諭2種免許状を得ようとする者は、教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び教育職員免許法施行規則(昭和29年文部省令第26号)の規定に基づき、卒業要件を満たし、かつ、「資格等の要件」の項に掲げる「幼稚園教諭2種免許状」区分に定める◎印を付した指定科目を履修しなければならない。

【保 育 学 科】 基 础 科 目

授業科目	心理学						
担当教員	飯塚由美						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M6010010
免許資格 関連事項							

授業の概要	(1)多様な心理学の分野とその歴史や基本理念の理解(2)感覚・知覚、学習、記憶、感情・動機づけ、発達、臨床などの分野(3)性格・パーソナリティ、社会と人間行動・心理、また、地域や社会との関わりなど応用的な心理学の分野についての基礎理論を修得する。
授業の到達目標	心理学的の立場から、個人の心の特性と社会における人間行動を理解し、その基本理論や知識の修得を目指します。 (1) 多様な心理学の分野とその基礎理論が理解できるようになります。 (2) 感覚・知覚、学習、記憶、感情・動機づけ、発達、臨床などの分野の理解が深まります。 (3) 性格・パーソナリティ、社会との関わりの中での人間行動と心理、応用心理学の分野についての基礎が理解できるようになります。
授業計画	第1回 心理学とは(オリエンテーション) 第2回 知覚と認知の世界(1) 感覚器官、図と地、反転図形 第3回 知覚と認知の世界(2) 錯視、奥行き知覚など 第4回 学習と記憶の世界(1) 古典的学習、オペラント学習、社会的学習 第5回 学習と記憶の世界(2) 記憶 感覚記憶、短期記憶、長期記憶 第6回 感情・動機づけの世界 人の感情、欲求、帰属 第7回 発達と成長の世界 ピアジェの理論、分離不安など 第8回 適応と臨床の世界 人の適応、フロイトとユングの理論、心理療法など 第9回 性格・パーソナリティの世界(1) 基礎理論 第10回 性格・パーソナリティの世界(2) 評価と検査法 第11回 社会と人間の世界 社会生活と人間行動、地域と人間 第12回 自己と対人の心理 対人魅力、対人認知、対人関係、コミュニケーション 第13回 社会・集団と組織の心理(1) 集団の特性、社会的影響 第14回 社会・集団と組織の心理(2) 社会的スキル、援助 第15回 応用の心理学と最新の心理学動向
テキスト	開講までに紹介します。 必要に応じ、資料やプリントを配布します。
参考文献	『心理学・入門 ―心理学はこんなに面白い』 サトウ タツヤ・渡邊 芳之(著) 有斐閣アルマ 『イラストレート心理学入門』 第2版 斉藤勇著 誠信書房
評価方法	成績は、小テスト(70%)や課題(20%)、授業への参加姿勢(10%:発表、コメント・質問など)により総合的に評価します。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	文学						
担当教員	山根 繁樹						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M6010020
免許資格 関連事項							

授業の概要	日本の近現代文学はいかなる内実を持ち、そこにいかなる価値を見出せるのか。「文学」では、明治以降の詩歌、小説、童話など具体的な作品を概観しながら、文学の面白さやその価値にふれる。その際、作品個々にアプローチする方法を紹介し、学生自身が文学を主体的に読む姿勢を養う。また、映画やマンガ、アニメーションなども教材として取り上げ、文学が周辺分野といかに関わっているのかも確かめる。それらによって、文学を分析するための観点を具体的に教授する。
授業の到達目標	(1) 文学ジャンルの広がりの説明ができる。 (2) 文学作品について自分の見解を持つことができる。 (3) 文学作品と隣接するジャンルの関わりについて説明することができる。
授業計画	第1回 オリエンテーション「文学」とは何か 第2回 短歌の出発 第3回 俳句の出発 第4回 口語自由詩まで 第5回 現代短歌の世界 第6回 現代俳句の世界 第7回 現代詩の展開 第8回 童話の世界 第9回 言文一致の誕生と展開 第10回 戦前の小説 第11回 戦後の小説 第12回 文学と映画 第13回 文学とアニメ 第14回 文学とマンガ 第15回 文学作品に挑戦 定期試験
テキスト	プリント配布
参考文献	伊藤整『改訂 文学入門』（講談社文芸文庫） 佐々木敦『ニッポンの文学』（講談社現代新書）
評価方法	試験（70%） 作業課題（30%）
自己学習に関する指針	授業で扱った作品については、必ず読んで復習しておいてください。
履修上の指導・留意点	質問は、その内容に応じて、授業時間中・研究室・e-mail に対応します。

授業科目	音楽						
担当教員	新倉 健						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M6010030
免許資格 関連事項							

授業の概要	17世紀のはじめにフィレンツェで誕生したと言われるオペラは、声楽・オーケストラ・合唱など、各種演奏形態の総合であると同時に、舞台美術・衣裳・照明や文学・演劇などを統合した総合芸術である。この授業では、バロックから20世紀のまでの主要なオペラ作品を題材として取り上げ、その音楽史における位置付け、演出や美術の特長などを概説しながらDVDやVIDEOを鑑賞する。
授業の到達目標	(1) 総合芸術としてのオペラに興味関心を持って鑑賞することが出来、鑑賞を通じて17世紀から20世紀に至る西洋音楽史の大きな流れを把握できる。 (2) 演出や舞台美術などが作品の表現とどのように関わっているかを感得できる。 (3) 様々な時代の音楽様式に触れ、オペラと社会とのつながりについて考えることができる。
授業計画	第1回 ガイダンス：オペラの誕生 第2回 バロックのオペラ：モンテヴェルディ作曲「オルフェオ」 第3回 古典派のオペラⅠ：モーツァルト作曲「フィガロの結婚」 第4回 古典派のオペラⅡ：モーツァルト作曲「ドン・ジョヴァンニ」 第5回 古典派のオペラⅢ：モーツァルト作曲「コシ・ファン・トゥッテ」 第6回 古典派のオペラⅣ：モーツァルト作曲「魔笛」 第7回 ロマン派のオペラⅠ：ウェーバー作曲「魔弾の射手」 第8回 ロマン派のオペラⅡ：ビゼー作曲「カルメン」 第9回 ロマン派のオペラⅢ：プッチーニ作曲「ラ・ボエーム」 第10回 ロマン派のオペラⅣ：ヴェルディ作曲「トゥランドット」 第11回 ワグナーのオペラ改革：「トリスタンとイゾルデ」 第12回 20世紀のオペラⅠ：バルトーク作曲「青髭公の城」 第13回 20世紀のオペラⅡ：プロコフィエフ作曲「三つのオレンジへの恋」 第14回 20世紀のオペラⅢ：ベルク作曲「ヴォチェック」 第15回 まとめ：総合芸術としてのオペラ
テキスト	授業毎にプリント資料を配布
参考文献	
評価方法	
自己学習に関する指針	授業で扱った作品などについて、自主的に鑑賞の機会を設けて学習する
履修上の指導・留意点	授業毎にプリント資料を配布し、ミニ・レポートを課す

授業科目	哲学						
担当教員	瀬古 康雄						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M6010040
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>哲学への入門として、最初に西洋哲学を概観し、自分自身への問いや自分の住む世界・宇宙についての哲学的な問いをとりあげ、生と死、孤独、実存など、だれもが直面することがらについて考えます。次いで、仏教のふるさとインドの哲学を取り上げ、東洋ではどんな思索がなされ、その思索を育んだ座禅や瞑想とはどんなものなのか、実際に黙想や呼吸法をやってみたりして、難解そうな哲学をできるだけわかりやすく解説します。</p>
授業の到達目標	<p>この授業では、受講生に毎回、自由に質問や疑問を書いてもらい、Q&Aの形でそれらに答えながら授業を進めます。受講生の目標は次の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・哲学者たちのユニークな冒険を興味深く感じとることができる。 ・自分自身の「わからなさ」、「生きづらさ」を自分なりに理解し表現できるようになる。 ・クラスの皆が、何を思い、どんなことを考えているのか、関心を持てるようになる。 ・西洋の哲学と東洋の哲学を比較しながら自分なりに考えることができるようになる。
授業計画	<p>第1回 哲学の始まり - 古代ギリシア哲学の冒険 第2回 深まる謎 - 人間であるとはどういうことか 第3回 哲学の方法 - ユニークな哲学者たちの「謎」の解き方 第4回 西洋哲学の発展(その1) - 「我思う、ゆえに我あり」 第5回 西洋哲学の発展(その2) - 「不完全性こそが人間の証明である」 第6回 東洋の人間学(その1)「十牛図」 - 「自分探し」に隠された謎 第7回 インドの風土 - インドの街角に見る生老病死と悟り 第8回 インド哲学の核心 - ウパニシャッドの「梵我一如」と仏教の「無我(無心)」 第9回 インド哲学の発展(その1) - 「マハーバーラタ」に見る人生修行 第10回 インド哲学の発展(その2) - 仏陀の慈悲の思想とガンディーの非暴力の思想 第11回 東洋の人間学(その2)「道」 - 「道を極めること」と「無為自然に生きること」 第12回 「存在と無」 - 「無」をめぐる西洋の思索と東洋の思索 第13回 西と東を結ぶ道「シルクロード」の今昔 - 戦乱・テロと平和・寛容の交錯する歴史 第14回 シルクロードから日本へ - 火山列島日本の「震災と無常観(もののあはれ)」 第15回 宮沢賢治の心象世界 - 生命体としての宇宙・地球・人間・生きものたちの「共生」 まとめ・定期試験</p>
テキスト	テキストは使用せず、そのつど資料を配布します。
参考文献	毎回、関連する参考文献を提示します。
評価方法	Q&A(40%)・小レポート(30%)と筆記試験(30%)により総合的に評価します。
自己学習に関する指針	<p>受講生は毎回、質問用紙に質問や意見、自分の答えや考え方などを記入して提出する必要があります。各自のQ&Aは授業テーマに即して匿名で紹介されるので、クラスの人たちの見解も参考にしつつ自分の考え方を吟味していただけます。また、宿題の2～3の小レポートについても、同様に反芻していただけます。</p>
履修上の指導・留意点	授業中のQ&Aの他に、授業後に教室で、あるいは、質問内容に応じて講師控室やe-mail、哲学カフェなどで対応します。

授業科目	市民社会と図書館						
担当教員	石井大輔						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M6010050
免許資格 関連事項							

授業の概要	市民社会における知識情報の蓄積、保存、流通の観点から、民主主義を下支えする社会的なシステムとしての図書館の機能や社会における意義や役割について理解することを目的とする。「図書館の歴史と現状」「図書館の構成要素」「民主主義と図書館」「知識基盤社会と図書館」「生涯学習社会と図書館」「公共図書館の成立と発展」「館種別図書館と利用者のニーズ」「図書館職員の役割と資格」「類縁機関との関係」「知的自由と図書館」「今後の課題と展望」等について解説する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 市民社会における図書館の機能や役割について基礎的な知識を習得する。 「図書館とは何か」という問いに対して、自分なりの解を導き出す。 他人に「図書館とは何か」について説明できるようになる。
授業計画	<p>第1回 「図書館」を学ぶとは</p> <p>第2回 図書館の基礎①：図書館の構成要素と機能</p> <p>第3回 図書館の基礎②：図書館の制度（憲法、教育基本法、社会教育法、図書館法）</p> <p>第4回 図書館の社会的意義①：民主主義と図書館</p> <p>第5回 図書館の社会的意義②：知識基盤社会と図書館</p> <p>第6回 図書館の社会的意義③：生涯学習社会と図書館</p> <p>第7回 図書館の社会的意義④：知的創造と図書館</p> <p>第8回 公共図書館の成立と展開</p> <p>第9回 日本の公共図書館①：明治～戦前の図書館</p> <p>第10回 日本の公共図書館②：戦後の図書館</p> <p>第11回 図書館の種類と利用者①（国立図書館、公共図書館）</p> <p>第12回 図書館の種類と利用者②（大学図書館、学校図書館、専門図書館）</p> <p>第13回 図書館員とライブラリアンシップ</p> <p>第14回 知的自由と図書館、図書館の自由</p> <p>第15回 図書館の課題と展望</p>
テキスト	なし
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 二村健『図書館の基礎と展望』学文社、2011年 1,800円+税 『図書館情報学用語辞典 第4版』丸善、2013年 3,800円+税 『図書館ハンドブック 第6版補訂2版』日本図書館協会、2016年 5,500円+税
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 平常点（50%）、レポート（20%）、試験（30%） 平常点では①オピニオンペーパーの記述、②授業への参加を評価する。授業への参加とは授業内での教員からの問いかけに対する発言のほか、挙手による回答の回数をカウントする。
自己学習に関する指針	本学の図書館ばかりでなく、あらゆる図書館を自主見学して図書館に親しむことが大切です。
履修上の指導・留意点	

授業科目	経済学						
担当教員	大塚 茂						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M6010060
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>具体的で身近な経済事象を取り上げながら経済の基本的な仕組みを理解し、いま私たちが生きている時代はどんな時代なのか、どんな課題を抱えているのか、といった大きな問題を考えていきます。同時に、基礎的な経済用語についての知識を深め、経済関連情報を適切に処理・判断する力を蓄えていきます。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な経済用語について理解を深める。 2. 経済の動きに関心を持ち、何が起きているか考える姿勢を身につける。 3. 重要な経済政策に関して当否を判断できるようになる。
授業計画	<p>第1回 価格と物価 第2回 経済循環 第3回 景気変動 第4回 株式会社 第5回 会社の変容 第6回 格差と貧困 第7回 雇用と労働 (1) 第8回 雇用と労働 (2) 第9回 規制と自由 第10回 資本主義 第11回 財政の役割 第12回 所得税 第13回 消費税 第14回 税の原理 第15回 まとめ (現代の課題) 定期試験</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。毎回、プリントを配布します。 プリントは試験のときに持ち込み可としますので大切に保管してください。</p>
参考文献	<p>神野直彦 『「分かち合い」の経済学』 岩波新書、2010 年</p>
評価方法	<p>定期試験 (70%)、毎回のミニレポート (30%)</p>
自己学習に関する指針	<p>授業で配布したプリントは、次の授業までにもう一度目を通すこと。</p>
履修上の指導・留意点	<p>疑問に思ったことは積極的に質問してください。 逆に、質問されたら積極的に答えてください。</p>

授業科目	日本国憲法						
担当教員	谷口智紀						
科目分類	共通基礎	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M6010070
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>「憲法を学ぶ」ことは、憲法の条文を暗記することではない。法は、社会生活における具体的な問題を解決するためのルールであり、憲法を学ぶことは、その処方箋を見つけることにある。</p> <p>例えば、AI（人工知能）の発達やビッグ・データの活用等により、私たちの生活水準は大きく向上しているが、一方で、プライバシー（個人情報）の問題が指摘されている。憲法は私たちのプライバシーをどのように保障しているのだろうか。</p> <p>また、憲法の条文には、私たちが普段使っている言葉が用いられている。私たちは「平等」という言葉を「みんな同じ」という意味で使うことがあるが、憲法で用いられる「平等」は、「みんな同じ」ということを保障しているのだろうか。</p> <p>本講義では、歴史的な出来事や判例などを素材として、憲法の基本的な考え方を学ぶことを目指す。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 憲法の基本的な考え方を習得する。</p> <p>(2) 法的なものの考え方を身につける。</p>
授業計画	<p>第1回：憲法とは何か、日本国憲法の成立、日本国憲法の基本原理</p> <p>第2回：基本的人権（1） 基本的人権総論、人権享有主体</p> <p>第3回：基本的人権（2） 幸福追求権</p> <p>第4回：基本的人権（3） 法の下での平等</p> <p>第5回：基本的人権（4） 内心の自由</p> <p>第6回：基本的人権（5） 表現の自由とその制限</p> <p>第7回：基本的人権（6） 経済的自由権</p> <p>第8回：基本的人権（7） 人身の自由</p> <p>第9回：基本的人権（8） 社会権</p> <p>第10回：国民主権と選挙</p> <p>第11回：統治機構（1） 国会</p> <p>第12回：統治機構（2） 内閣</p> <p>第13回：統治機構（3） 裁判所</p> <p>第14回：平和主義</p> <p>第15回：日本国憲法のまとめ</p> <p>第16回：定期試験</p>
テキスト	吉田仁美編『スタート憲法 [第2版補訂版]』、成文堂、〇年、〇円
参考文献	講義の中で紹介する。
評価方法	レポート等（20%）、定期試験（80%）
自己学習に関する指針	授業前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。
履修上の指導・留意点	

授業科目	数学						
担当教員	奥村 泰磨						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M6010080
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>数学を「楽しさ」という観点で見つめ、数学の良さ、美しさ、不思議さを知ったり、身近な生活の中に数学を見い出してその有用性について考えたりすることを通して、教養を深めたい。 一方的な受け身な学習とならないよう参加型の学習を適宜取り入れる。</p>
授業の到達目標	<p>(1)「数学」の4つの領域の独自の「楽しさ」を知る。 (2)「数学」という教科とそれ以外の様々なこととのつながりを考える。 (3)「数学」に対して新たなイメージをもつ。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 数について 第2回 数と式 (1) 分数と小数 第3回 数と式 (2) 色々な無限小数 第4回 数と式 (3) 美しさにある「比」 第5回 関数 (1) 「関数」とは何か 第6回 関数 (2) 放物線の力 第7回 関数 (3) 「関数」を使って 第8回 図形 (1) 平面図形 第9回 図形 (2) 空間図形 第10回 図形 (3) 「図形」を使って 第11回 確率・統計 (1) 確率 第12回 確率・統計 (2) 統計 第13回 確率・統計 (3) 「確率・統計」を使って 第14回 数学と音楽 第15回 ふりかえり 定期試験</p>
テキスト	特になし。
参考文献	必要に応じて資料などを配布します。
評価方法	定期筆記試験 (70%)、個人用ふりかえりシート (30%)
自己学習に関する指針	<ul style="list-style-type: none"> ・授業後個人用ふりかえりシート記入します。 ・適宜、予習・復習のための課題を出します。
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では積極的に参加しよう。 ・予習復習の課題には、自分が納得ゆくまで取り組もう。

授業科目	生物と栄養						
担当教員	安藤彰朗						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M6010090
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 私たちヒトも哺乳動物も「食べる」ことなしに生命・生活は成り立ちません。この講義では、哺乳類の一員としてのヒトにおける、食べ物とからだ、栄養素の役割、食べもと健康について理解を深めることを目的とします。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 生物(特にヒトを含む哺乳動物)のからだのつくりを中心に、生物個体から出発して、その内部構造(器官や細胞)へと展開するからだのしくみの基盤となる内容を学ぶ。引き続き、生物・生命のもう一つの特性である「栄養」や「代謝」について理解を進め、からだの構成成分と栄養素、生命維持や活動のエネルギー代謝と栄養素等、からだのしくみと栄養の視点から、食べ物が栄養に変わる旅(過程)を知るとともに、生物と栄養について理解を深める。そして、応用編として「人間(ヒト)と健康」に関わる諸課題についても考察する。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒトや他の哺乳動物の基本的な内臓の構成、特に消化器系の臓器の名称と働きを説明できる。 2. 栄養素の特徴および、からだの中での役割を説明できる。 3. ヒトについて食べ物とからだの関係、食べ物と健康の係りについて認識し、自身の生活を踏まえて、自分の考えを述べることができる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 「生物と栄養」の講義について、ヒトのからだの概要 2 ヒトの消化器系の全体像、口腔の話(口から始まる消化作用) 3 胃の話(主役は3つの細胞)・腸の話(絨毯のような内面) 4 胃と腸のビデオ視聴 5 いろいろな哺乳動物の歯について 6 食性が異なる哺乳動物は、どのような消化管を持っているか 7 糖質の消化・吸収、糖質の栄養 8 タンパク質の消化・吸収、タンパク質の栄養 9 脂質の消化・吸収、脂質の栄養 10 カルシウムの役割、骨と筋肉のビデオ視聴 11 エネルギー代謝について 12 あなた自身はどんな食事をしていますか 13 食事バランスガイドについて 14 食べ物と健康について 15 全体のまとめ <p>定期試験 試験あり</p>
テキスト	テキストは特に用いません。必要に応じて毎回プリントを配布します。
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> ①「イラスト栄養学総論」城田知子ほか著、東京教学社、 ②「新版ヒトと自然」荒井秋晴ほか著、東京教学社、
評価方法	<p>試験は、消化器系や栄養素などについての知識を問う問題と講義で取り上げたテーマについての記述問題を課します。</p> <p>評価基準は、質問感想カードの提出20%、課題レポートの提出30%、試験50%を考慮して総合的に評価します。</p>
自己学習に関する指針	特定のテキストは用いないので、授業中に適宜ノートを取る、配布資料の余白などにメモを取ることを勧めます。復習する際にそれらを役立てて欲しいと考えています。
履修上の指導・留意点	科目名の通り、主として解剖生理学、生物学、化学、栄養学などに関連するいわゆる理系の内容や計算を含みます。また、臓器名、元素記号や化学式、馴染みのないカタカナの物質名なども沢山出てきます。

授業科目	人間と自然						
担当教員	鹿野 一厚						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M6010100
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>現代は、「人類の時代」と呼ばれるほど人間が繁栄している時代である。20世紀の初頭には約17億人だった世界人口は、爆発的に増加していまや70億人を突破している。しかし、地球温暖化や生物多様性の危機などはますます深刻となり、このまま右肩上がりに人口が増え続けることは困難となりつつある。</p> <p>この授業では、生物学と人類学の知見を総合しながら、人間は自然とどのように関わっていくのかについて考えてゆく。具体的には、なぜ人間にとって自然が必要なのか、そして人間は自然に対して何をしてきたのかを学んだうえで、私たちはこれからどうすればよいのかについて考える。</p> <p>授業期間中に2~3回程度、実際に自然と触れ合う機会を設ける予定である。</p>
授業の到達目標	<p>①生態系・生物多様性・生態系サービス・人類の進化に関する基礎的な知識を習得する。</p> <p>②人間は自然に対して何をしてきたのかについて理解し、私たちはこれからどうすればよいのかについて自分なりに考えることができる。</p> <p>③人間と自然との関係から学んだ様々なことを自己の言葉で説明することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 はじめに／野外観察(1)</p> <p>第2回 人間と自然との関係(1)：生態系と人間</p> <p>第3回 人間と自然との関係(2)：生態系と生物多様性</p> <p>第4回 人間と自然との関係(3)：生態系の恩恵</p> <p>第5回 野外観察(2)</p> <p>第6回 人間はどこから来たのか(1)：生物の進化</p> <p>第7回 人間はどこから来たのか(2)：人類進化の見取図(1)</p> <p>第8回 人間はどこから来たのか(3)：人類進化の見取図(2)</p> <p>第9回 人間は何をしてきたのか(1)：生物多様性の危機(1)</p> <p>第10回 人間は何をしてきたのか(2)：生物多様性の危機(2)</p> <p>第11回 人間は何をしてきたのか(3)：人間はなぜ自然を壊すのか</p> <p>第12回 野外観察(3)</p> <p>第13回 人間はどこへ行くのか(1)：地球の限界</p> <p>第14回 人間はどこへ行くのか(2)：私たちはどうすればよいのか(1)</p> <p>第15回 人間はどこへ行くのか(3)：私たちはどうすればよいのか(2)</p> <p>定期試験</p>
テキスト	テキストはとくに使用しないが、授業中にレジュメや資料を配布する。
参考文献	<p>『センス・オブ・ワンダー』 レイチェル・カーソン 1996年 新潮社</p> <p>『〈生物多様性〉入門』 鷲谷いづみ 2010年 岩波ブックレット 785</p> <p>『文明崩壊：滅亡と存続の命運を分けるもの(上・下)』 ジャレド・ダイヤモンド 2012年 草思社文庫</p> <p>その他、授業中に随時紹介する。</p>
評価方法	<p>成績は、授業への取り組み状況(40%)、期末試験(60%)によって総合的に評価する。</p> <p>(到達目標①②③は期末試験によって評価するが、到達目標②③はコミュニケーションカードによっても評価する。)</p>
自己学習に関する指針	* 授業には熱心に取り組むこと。そして、毎回、コミュニケーションカードに自分の考えや疑問・感想などをできるだけたくさん書くこと。
履修上の指導・留意点	

授業科目	しまね地域共生学入門						
担当教員	島根県立大学教員						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M6010110
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>この講義は、各キャンパスにおける専門分野を学習する前の段階において、島根県が数十年来直面している人口減少・少子高齢化・過疎化という地域の諸課題を様々な角度から講義する。そうした課題は、今後のわが国における多くの地域において予期されるが、それぞれの主体の強みを生かした連携と協力を継続させるという、「共生」により解決しなければならない。本講義を通じて、地域課題への対応がいかに困難で複雑なものであるかの再認識を促し、複合的対応の重要性についての理解を深める。</p> <p>また、学問的見地においてもひとつの学問領域から得られる知見のみで解決できるものではない。本講義では、特定の学問領域にとどまらず、複眼的に物事をとらえ分析することの重要性も学ぶ。</p> <p>これらの目的に照らし、さしあたり本講義では3キャンパスの教員がそれぞれの専門分野から島根地域にかかわる諸課題についての解説を平易に行う。また、オムニバス講義ゆえに全体としての体系性が失われぬよう、本講義では人々の人生における代表的なライフステージ(3段階)を共通で用いる。このことを通じて、学生は島根県内の地域課題に関する基礎知識・周辺知識を習得する。</p> <p>本講義を履修したのち、自らの関心あるテーマについて仮説を立てて実証をしたり、地域に出て「実践する」ことが求められるが、その際に関心のあるテーマを自ら発見できるよう積極的な姿勢で受講してもらいたい。</p> <p>※本講義は、原則的に、講義中継システムを活用して3キャンパス同時の遠隔講義形式にて実施する。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 島根県の課題について理解し、日本全体の課題のなかでの位置づけを説明できる。 ・ 地域社会の諸課題の解決に向けて各主体が連携・協力する「共生」により解決にあたることや、自らも複数の学問領域の考え方を学ぶことの重要性について理解できる。 ・ 以降の学生生活を通じて自ら実践的に地域の諸課題に取り組むことの重要性を理解し、そのテーマを設定できる。
授業計画	<p>第1週 島根県立大学へようこそ——開講にあたって(仮題) [清原正義・全学開講責任者] ※オリエンテーションも併せて実施。</p> <p>第2週 データでみる島根のすがた [林 秀司]</p> <p>第3週 しまねの地域課題——幼少年期を題材として 藤原真砂</p> <p>第4週 しまねの地域課題——幼少年期を題材として 三瓶まり</p> <p>第5週 しまねの地域課題——幼少年期を題材として 岩田英作</p> <p>第6週 しまねの地域課題——青壮中年期を題材として 松尾哲也</p> <p>第7週 しまねの地域課題——青壮中年期を題材として 岡安誠子</p> <p>第8週 しまねの地域課題——青壮中年期を題材として 藤原映久</p> <p>第9週 しまねの地域課題——老年期を題材として 久保田典男</p> <p>第10週 しまねの地域課題——老年期を題材として 細川 優</p> <p>第11週 しまねの地域課題——老年期を題材として 前林英貴</p> <p>第12週 島根県の政策展開 [島根県政策企画監室]</p> <p>第13週 地域課題への実践的取組 [未定]</p> <p>第14週 まとめ [全学開講責任者]</p> <p>第15週 松江キャンパスでの学びに向けて [学部長 または 副学長]</p>
テキスト	各週の担当教員が指定することがある。
参考文献	各週の担当教員が紹介する。
評価方法	授業に出席することを前提とし、授業への取り組み姿勢、各週の授業で実施する小テストの結果を総合的に判断して評価を行う。
自己学習に関する指針	

履修上の 指導・留意点	本講義は地域の抱える課題について包括的に概論する講義ではあるが、本講義のみでは大学生が学ぶべき内容を完全にマスターできるわけではない。本講義は1年生を標準履修年次としており、どちらかといえば、これからの修学期間で地域課題への対応に取り組むにあたり、必要となる予備知識や一般知識の習得を目指す、いわば入門科目としての位置づけである。したがって、受講したのち、より専門的な見地から詳細な議論を行う諸科目の履修により補完することが望ましい。具体的には、地域志向科目の履修がひとつの目安となる。
----------------	---

授業科目	キャリアプランニング						
担当教員	保育学科教員						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M7010010
免許資格 関連事項							

授業の概要	卒業後、社会の一員として生活していくための進路指導及びキャリア支援を目的とする。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人になること、働くということをも自分のこととして意識できるようになる。 2. 自分の向き不向きを自覚し、自分に合った職業を選ぶことができる。 3. 企業が求める人材について理解する。 4. 履歴書の書き方、面接の受け方など、就職活動に必要なスキルを身に付ける。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 企業（業界）・職業を知ろう①、就職サイト活用講座</p> <p>第3回 企業（業界）・職業を知ろう②（企業・業界研究の仕方）</p> <p>第4回 企業（業界）・職業を知ろう③</p> <p>第5回 企業（業界）・職業を知ろう④</p> <p>第6回 企業（業界）・職業を知ろう⑤</p> <p>第7回 試験対策1（SPI対策講座）</p> <p>第8回 就活アプローチ1（マナー講習①/Eメール、手紙）</p> <p>第9回 就活アプローチ2（マナー講習②/敬語、電話、身だしなみ）</p> <p>第10回 就活アプローチ3（自己分析、自己理解）</p> <p>第11回 就活アプローチ4（履歴書の書き方①）</p> <p>第12回 就活アプローチ5（履歴書の書き方②）</p> <p>第13回 試験対策2（面接対策）・模擬面接</p> <p>第14回 ライフデザイン講座</p> <p>第15回 就活試験が終わって・まとめ</p>
テキスト	「就職活動の手引き」
参考文献	「Placement Support Book」 適宜紹介、配布する
評価方法	授業態度（発表をよく聞き、質問等積極的に参加できたか）及び授業ノートの記述 50% レポート及び模擬面接（レポート記述内容、模擬面接の準備、態度）50%
自己学習に関する指針	学内企業説明会を企業・業界研究の実践の場として活用する。
履修上の指導・留意点	総合文化学科と合同で実施する授業あり。

授業科目	しまねボランティア研修						
担当教員	目次 和恵						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1・2	配当期	通年
授業形態	講義・演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M6010120
免許資格 関連事項							

授業の概要	ボランティア活動を始めようとする学生に、県立青少年の家における体験学習プログラムを提供することにより、ボランティアの役割を体得し、他者と関わりながら主体的に活動することのできる人間になることを目指す。そのためにボランティア活動を体験し、ボランティア活動の意義及びボランティアの役割を理解したり、体験活動をしながら場に応じて必要な支援について学修したりする。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティア活動の意義及びボランティアの役割を理解できる。 2. 他者との関わり方を考え、協力して活動できる。 3. 体験学習について理解し、場に応じて適切な支援ができる。
授業計画	<p>第1回 事前学習…<4月18日(木)18:10~19:40 1コマ:県立大学松江キャンパス> (青少年の家と主催事業についての理解・授業スケジュールの理解)</p> <p>第2回 実習①「ボランティア(体験活動支援者)養成講座」…<6月15日~16日(土・日):県立青少年の家> ・講義(ボランティア活動について・アイスブレイク・グループワーク・安全講習) ・演習(青少年の家のプログラム体験・振り返り)</p> <p>第3回 実習②「ボランティア(体験活動支援者)実習」(7月~12月で1つを選択:県立青少年の家> 選択事業の例 ・サマーチャレンジ(小5~中3対象) …8月 ・キッズチャレンジ(小3~小4対象) …7月~11月(3回) ・にんにんチャレンジ(年長~小2対象) …11月~12月(3回) ※選択可能な事業の詳細については事前学習において発表する。</p> <p>第4回 事後学習<1月25日(土)AM 3コマ:県立大学松江キャンパス> ・グループワークによるシェア及びグループ発表</p>
テキスト	上記1~3については、参加者ノート、スタッフノート等を配布する。
参考文献	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実習における積極性、参加態度、ならびに、発表の内容、提出課題等で、総合的に判断する。 ・本科目の性質上、1回でも欠席した場合は成績評価の対象外とする。
自己学習に関する指針	第2回の養成講座受講後、第3回のボランティア実習に向けて、青少年の家ホームページから前年度や本年度実施された主催事業の様子について関心をもって、予習をしておくことが望ましい。
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・実習①での施設使用料、食費は各自負担をする。(例年:約2,000円) ・定員は36名とする。 ・履修希望者は、4月12日(金)までに登録の上、第1回事前学習(4/18)に必ず出席すること。(希望者が定員を上回った場合は、抽選・その他の方法で選抜を行う)

授業科目	健康スポーツ概論						
担当教員	岸本 強						
科目分類	基礎科目	授業時間	15	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M6010130
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状《教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目》 ・体育 ○保育士資格						

授業の概要	<p>競技スポーツや健康の保持・増進のためのスポーツ, スポーツを活用した健康生活について学ぶとともに, 大学生として心得ておくべきスポーツ政策についての概要や現代的諸問題について学修する。また, スポーツ活動を通じたパーソナリティー形成や社会性の発達についての知識を修得し, スポーツ活動によってもたらされるプラス面の効果や留意すべきことについて正しく理解し, 競技スポーツ・健康スポーツ・生涯スポーツの見方・考え方についての学修を深める。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 健康スポーツについて基礎的な知識を修得することができる。 (2) 現代的スポーツ事情, スポーツ諸課題について論述することができる。</p>
授業計画	<p>第 1 回 日本のスポーツ政策と現状 (国, 地方自治体のスポーツ推進計画) 第 2 回 スポーツとは? スポーツの高度化, 大衆化について 第 3 回 競技スポーツと健康志向スポーツについて 第 4 回 スポーツのパーソナリティー形成と二面性について 第 5 回 スポーツ集団への関わり方, チームワークのメカニズムと形成の考え方 第 6 回 スポーツのための食と液体補給 第 7 回 運動・休養・栄養と生活リズム 第 8 回 救急処置と救急蘇生法, まとめ 定期試験</p>
テキスト	なし
参考文献	毎回, プリント資料を配付する。
評価方法	毎回クイズ (小テスト) =30% 筆記試験=70%
自己学習に関する指針	配付資料を再読し, 復習に役立てる。
履修上の指導・留意点	毎回, 授業終わりに小テストを行う。

授業科目	健康スポーツ I						
担当教員	梶谷朱美						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	実技	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M6010140
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状《教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目》 ・体育 ○保育士資格						

授業の概要	健康スポーツ I では、各種身体運動の方法を実践学習し、健康の保持増進と体力の向上、運動の意味や効果の理解を図りながら、運動することへの自覚を一層促進する。また、スポーツやダンスを通して、運動や運動技術のみにとどまらず、集団のなかの一員としての役割等から協調性や社会性を身に付ける。内容については、準備運動（ストレッチングを含む）の仕方、集団スポーツの学習、個人スポーツの学習、ダンス（フォークダンス・レクリエーションダンス・日本民謡）からゲームの仕方、ルール、技術、技能を学修し、生涯スポーツ、生涯ダンスの取組を見据えた授業とする。
授業の到達目標	(1) 生涯スポーツ・生涯ダンスの観点から個人種目やチームスポーツ、各種ダンスに取り組み、多種目の技術、技能を身につけることができる。 (2) 自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけ、受講者で協力してゲームを運営したり、ダンスを通して仲間と交流したりすることができる。
授業計画	第 1 回 オリエンテーション、準備運動の方法及びストレッチング、リズム運動 第 2 回 スポーツ種別特性の理解と実践 バasketボールの基礎・基本 第 3 回 スポーツ種別特性の理解と実践 バasketボールのミニゲーム 第 4 回 スポーツ種別特性の理解と実践 バasketボールゲーム（リンク式） 第 5 回 スポーツ種別特性の理解と実践 バドミントン・卓球の基礎・基本 第 6 回 スポーツ種別特性の理解と実践 バドミントン・卓球のゲーム（シングルス） 第 7 回 スポーツ種別特性の理解と実践 バドミントン・卓球のゲーム（ダブルス） 第 8 回 ダンス種別特性の理解と実践 フォークダンスの基礎・基本 第 9 回 ダンス種別特性の理解と実践 フォークダンス入門 第 10 回 ダンス種別特性の理解と実践 レクリエーションダンスの基礎・基本 第 11 回 ダンス種別特性の理解と実践 レクリエーションダンス入門 第 12 回 ダンス種別特性の理解と実践 日本民謡の基礎・基本 第 13 回 ダンス種別特性の理解と実践 日本民謡入門 第 14 回 ダンス種別特性の理解と実践 ダンスの種目選択でのワークショップ型交流会 1 第 15 回 ダンス種別特性の理解と実践 ダンスの種目選択でのワークショップ型交流会 2
テキスト	必要に応じて資料を配付する。
参考文献	必要に応じて資料を配付する。
評価方法	「関心・意欲・態度」=30%、「技術・技能」=30%、「課題レポート」=40%とし、総合的に評価する。
自己学習に関する指針	スポーツやダンスのもつ教育的な価値や文化を享受し、自分自身の生涯にわたっての健康・体力づくりを考える。
履修上の指導・留意点	運動のできる服装、シューズを準備すること。

授業科目	健康スポーツⅡ						
担当教員	原 文貴						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	実技	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M6010150
免許資格 関連事項							

授業の概要	健康スポーツⅡでは、身体組成測定器や血圧・脈拍測定器、エアロバイク（体力・最大酸素摂取量測定可能）など、各種身体及び身体機能測定機器で受講者が自ら計測した各々のデータを蓄積管理し、一人ひとりがこのデータを活用して自らに合った運動（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・各種スポーツ）をプログラムしていく方法を学修する。授業ではスムーズな展開を図るため、取り組む内容毎にグループで活動を展開する。このグループ化は2回行い、複数（異種）の取り組みを経験する。
授業の到達目標	(1) 主体的・計画的に測定機器を使いデータを管理することができる。 (2) 測定データを活用し、機器を用いたトレーニング、エクササイズ、スポーツに取り組むことのできる運動プログラムを確立することができる。
授業計画	第1回 オリエンテーション及び各種測定 第2回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・各種スポーツ）試行 第3回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・各種スポーツ）定着 第4回 測定とグループ化①、運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・各種スポーツ） 第5回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・チームスポーツ）グループ試行 第6回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・チームスポーツ）グループ定着 第7回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・チームスポーツ）グループ応用 第8回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・チームスポーツ）グループ発展 第9回 これまでのデータ処理と中間評価 第10回 測定とグループ化②、運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・各種スポーツ） 第11回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・個人スポーツ）グループ試行 第12回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・個人スポーツ）グループ定着 第13回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・個人スポーツ）グループ応用 第14回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・個人スポーツ）グループ発展 第15回 データのまとめ、授業のまとめ
テキスト	なし
参考文献	必要に応じて資料を配付する
評価方法	実践記録 50%、まとめレポート 50%
自己学習に関する指針	授業外においても取り込むことが好ましい。
履修上の指導・留意点	運動服の指定はないが、運動に適した服装・靴を着用すること。

授業科目	健康スポーツⅢ						
担当教員	山本ユミ						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	実技	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M6010160
免許資格 関連事項							

授業の概要	ダンスの基礎的な身体の使い方を学び、思いきり身体を動かすこと、動きを創作する楽しさ、表現を追求する面白さ、人に伝える喜びなどダンスの醍醐味を身体で経験する。発表を通して、踊る・創る・観るという総合的な視点でダンスを学習する。
授業の到達目標	(1)ダンスの基礎的な身体の使い方を学び、創る、踊る、観るという総合的な視点でダンスの技能を身に付けることができる。 (2)共同作業を通して、互いの表現を認め合い、自己表現力を高め、積極的に取り組む姿勢を身に付けることができる。
授業計画	第1回 ガイダンス、ダンスの種類と特徴 第2回 ダンスの実践レベル1・リズム 第3回 ダンスの実践レベル1・ステップ 第4回 ダンスの実践レベル1・コンビネーション(簡単な振付) 第5回 ダンスの実践レベル1・レベル1のまとめのダンス 第6回 ダンスの実践レベル2・リズム&ステップ 第7回 ダンスの実践レベル2・コンビネーション(振付基礎) 第8回 ダンスの実践レベル2・コンビネーション(振付応用) 第9回 ダンスの実践レベル2・レベル2のまとめのダンス 第10回 ダンスの実践レベル3・リズム&ステップ 第11回 ダンスの実践レベル3・リズム&ステップ&コンビネーション(振付基礎) 第12回 ダンスの実践レベル3・リズム&ステップ&コンビネーション(振付応用) 第13回 ダンスの実践レベル3・フォーメーション(グループ創作ダンス基礎パターン) 第14回 ダンスの実践レベル3・フォーメーション(グループ創作ダンス応用パターン) 第15回 まとめダンス発表会
テキスト	なし
参考文献	必要に応じて資料を配布する。
評価方法	技術・技能30%、実践記録20%、まとめレポート50%
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	基礎英語 I						
担当教員	浅香加奈子						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M7010020
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状《教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目》 ・外国語コミュニケーション ○保育士資格						

授業の概要	英文読解および幼児、保護者との英語でのコミュニケーションをする上で基本となる語彙、文法、構文などの把握を目指します。英語でのコミュニケーションや読解に親しめるように、テキストに加えて簡単な物語などを適宜紹介していきます。
授業の 到達目標	【達成目標】 1. 英文構造を理解し、英文をできる限り正確に理解できるようになる 2. 幼児、保護者と英語でコミュニケーションをとることができる 3. メールや簡単なメモなどを英語で書くことができる 4. 英語音声を理解し、適切な応答をできるようになる
授業計画	1. Introduction 2. The School Year Begins 3. Arrival 4. Playtime in the Classroom 5. In the Sandbox 6. Lunchtime 7. Changing Clothes and Story Time 8. Mid-term Examination 9. Nap Time 10. Blowing Bubbles 11. A Sick Child 12. Preparation for the Sports Day 13. Going for a Walk 14. Discovering Autumn 15. Drawing & Letter Writing 16. Final Examination
テキスト	『新 保育の英語』森田和子（著）、三修社、1,900 円（税抜）
参考文献	
評価方法	中間試験 50%、期末試験 50%
自己学習に 関する指針	単語調べなどは予習の段階でやってくる
履修上の 指導・留意点	

授業科目	基礎英語Ⅱ						
担当教員	浅香加奈子						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M7010030
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状≪教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目≫ ・外国語コミュニケーション ○保育士資格						

授業の概要	英文読解および幼児、保護者との英語でのコミュニケーションをする上で基本となる語彙、文法、構文などの把握を目指します。また、英語でのコミュニケーションや読解をより円滑に活用できるように本文の理解だけではなく、発音や質問と応答などを繰り返し練習して実践的な英語活用方法を学びます。
授業の 到達目標	【達成目標】 1. 音声での英語理解を習得する 2. 幼児、保護者と英語でコミュニケーションをとることができる 3. 日常生活に必要な内容を英語で表現する 4. 簡易なメールや手紙などを英語で書けるようになる
授業計画	1. Introduction 2. Read and Listen (1) 3. Read and Listen (2) 4. Read and Listen (3) 5. Speak and Write (1) 6. Speak and Write (2) 7. Speak and Write (3) 8. Mid-term Examination 9. Read and Listen (4) 10. Read and Listen (5) 11. Read and Listen (6) 12. Speak and Write (4) 13. Speak and Write (5) 14. Speak and Write (6) 15. Review 16. Final Examination
テキスト	A Bear Called Paddington/Michael Bond 著/九頭見一士・H. E. Wilkinson 編注 (金星堂)
参考文献	
評価方法	中間試験 50%、期末試験 50%
自己学習に 関する指針	単語調べは予習の段階でしておくこと
履修上の 指導・留意点	

授業科目	基礎英語Ⅲ						
担当教員	松浦 雄二						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M7010040
免許資格 関連事項							

授業の概要	ラフィカディオ・ハーン（帰化名小泉八雲、松江では親しみをこめて「へるん」と呼ばれている）の紀行文を読むと、英語のさまざまな語り口を楽しむことができる。そこには静逸な情景描写、華麗な詩的高揚、哀愁にみちた素朴な語り口の伝承物語などが盛り込まれ、自在な文体で読者を楽しませてくれる。本講義では、『日本の面影』(Glimpses of Unfamiliar Japan)を中心にハーン作品の和訳を試み、その文体を味わいながら英語力を高め、ハーンの使用する独特の語彙や書きぶりについて、またハーンにとっての松江、ハーンにとっての日本とは何かについて、考察を深めていきたい。授業は、学生諸子に音読・訳読を試みていただき、必要に応じて担当教員が補足するという形態で進めていく。
授業の到達目標	本授業の目標は次の二つである。 1. 英語の読解力を向上させる。 2. ハーン的な英語表現について考察しながら作品鑑賞力を高める。
授業計画	第1回 ハーン作品入門～特徴的な語彙と文体 第2回 『日本の面影』から「神々の国の首都」第1節より 第3回 『日本の面影』から「神々の国の首都」第2節より 第4回 『日本の面影』から「神々の国の首都」第5節より 第5回 『日本の面影』から「神々の国の首都」第19節より 第6回 『日本の面影』から「神々の国の首都」第21節より 第7回 『日本の面影』から「盆踊り」より 第8回 『日本の面影』から「日本海に沿うて」第8節より 第9回 『日本の面影』から「日本海に沿うて」第9節より 第10回 ハーンの怪談（「耳なし芳一」より） 第11回 ハーンの怪談（「雪女より」） 第12回 『日本の面影』、その12 第13回 『骨董』『幽霊滝』より 第14回 ヘルンさん言葉、英語覚書き帳などについて 第15回 ハーンと出雲弁と作品 期末試験
テキスト	プリント教材を用いる。
参考文献	ラフカディオ・ハーン著 池田雅之訳『新編 日本の面影』角川学芸出版 税込842円※ 小泉 時・小泉 凡共編『文学アルバム小泉八雲増補新版』恒文社 本体2500円※。 ※価格は参考価格である。
評価方法	成績は、和訳の担当、毎授業のコメントシート、期末テストの成績により合計100点満点で評価する。
自己学習に関する指針	辞書を丹念に引くこと。音読すること。
履修上の指導・留意点	英語の読解力と作品鑑賞力を高めることに比重を置いている。編入学を希望する受講者も想定している。開講時期は、2月末から3月初めの予定である。

授業科目	海外語学研修計画						
担当教員	ダスティン・キッド						
科目分類	基礎科目	授業時間	15	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M7010050
免許資格 関連事項							

授業の概要	アメリカ合衆国ワシントン州にあるセントラルワシントン大学で行われる語学研修の事前研修を行い、参加する学生に十分な準備ができる機会を与える。アメリカで元気で過ごすために必要な情報を伝え、学生が研修中で交流できるようにプレゼンテーションの準備もさせる。
授業の 到達目標	授業テーマ：語学研修に参加する学生が一人ひとり、アメリカで有意義な時間を過ごせるため、そしてできる限りの英語学習と異文化交流ができるための準備。 到達目標：①自己紹介及びに個人の目標を英語で伝えるようになる、②グループに分かれてアメリカで発表するプレゼンテーションを完成させる、③研修に必要な知識を身に付ける。
授業計画	第1回 オリエンテーション、グループ分け、役割決定 第2回 グループプレゼンテーションの内容決定 第3回 研修プログラム歴史と狙い 第4回 出国・入国審査、税関について 第5回 荷物について(預かり荷物、持ち込み荷物など) 第6回 一回目のプレゼンテーション練習 第7回 旅行代理店の説明 第8回 アメリカのお金(特に硬貨)、チップのルール 第9回 アメリカの日常生活やマナーについて 第10回 ワシントン州とエレンズバーグ市の概要 第11回 二回目のプレゼンテーション練習 第12回 セントラルワシントン大学の概要、寮の生活 第13回 アンダーソン・ヘイ(企業訪問先)の紹介 第14回 行先の気候、体調管理 第15回 グループプレゼンテーション、結団式
テキスト	なし
参考文献	別途プリント配布
評価方法	・自己紹介と個人の目標の発表 - 40% ・グループプレゼンテーション - 40% ・取り組む態度 - 20%
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	海外語学研修						
担当教員	ダスティン・キッド						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1・2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M7010060
免許資格 関連事項							

授業の概要	Language & Culture の授業(3時間/平日)受講、現地大学生との交流、地元主要産業の牧草会社訪問、学長・副学長などとの交流会、日本や島根、大学等を紹介するプレゼンテーションの実施など。その他、地元の美術館・博物館訪問、ドイツ村観光、牧場での乗馬、大リーグ観戦等を通して、アメリカ文化を体験する。
授業の 到達目標	・セントラルワシントン大学で、UESL が提供する約3週間の研修に参加する。語学・文化講座の受講、現地大学生との交流、企業訪問、文化体験などを通して、多文化社会アメリカについての理解を深めるとともに、英語でのコミュニケーション力の向上、および国際的視野の醸成を目的とする。 [到達目標] ①英語でのコミュニケーション能力を、授業の受講、現地での生活に十分なレベルまで向上させる。 ②アメリカでの学びや体験を説明できる。 ③主体的に英語学習に取り組み、異文化理解を深めようとする姿勢を身に付ける。
授業計画	第1回 オリエンテーション、自己紹介 第2回 英会話(好き嫌い、やってみたいこと)、ワシントン州の地理 第3回 英会話(買い物)、開拓時代のアメリカ 第4回 英会話(道の訪ね方)、エレンズバーグ市の歴史 第5回 英会話(趣味)、エレンズバーグ市の散策、歴史館訪問 第6回 英会話(スポーツ)、シアトル市の名所と歴史 第7回 英会話(将来の夢)、レーニア山の自然 第8回 英会話(家族について)、アメリカの原住民の歴史と文化 第9回 英会話(応援の仕方)、アメリカの野球 第10回 英会話(故郷紹介)、乗馬の必要知識 第11回 英会話(大学生の生活)、ロズリン市の歴史と文化 第12回 英会話(アメリカの礼儀)、キティタスバレーの現在企業、地元の企業訪問 第13回 英会話(理想の生活)、レヴェンワース市の歴史とドイツとの関係 第14回 英会話(アメリカの思い出)、ギンコ化石森の歴史 第15回 英会話(別れのスピーチ)、川下りの注意点 課題レポート提出
テキスト	なし
参考文献	別途プリント配布
評価方法	事前研修への出席および事後のレポート提出と報告会実施: 30% (大学での担当者が評価) 現地での研修: 70% (UESL プログラム担当者・授業担当教員が、授業での学びやその他の研修への参加姿勢などを評価)
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	「海外語学研修計画」の受講も必要

【 保 育 学 科 】

專 門 科 目

授業科目	保育基礎ゼミナール						
担当教員	保育学科教員						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M7020010
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 入学後の1年春学期に初年次教育としてのガイダンスを受け、保育学科学生としての学修姿勢、社会人基礎力を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 2年間の学習に向かうために必要な保育学科学習課程について、カリキュラムと卒業までの道程、履修規程等についてのガイダンス、学習案内、大学生活とキャリアなどの“基礎知識の習得”を目指す。また、情報倫理、書く技術等の基本的な知識と技能の獲得を通して本学における2年間の学習意欲を高める。さらには卒業時に目指すべき取得免許・資格を検討し、専門職カリキュラムの全体を理解する。また、キャンパス講習会によって、安全安心のための危機管理等の学習、人権学習を行い、社会人基礎力を養う。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 履修規程等を理解し、履修の計画を立案できる。</p> <p>(2) 情報倫理を身に付け、インターネットを含む多様な媒体の情報を正しく利用できる。</p> <p>(3) 学生としての危機管理、人権学習を行い、社会人基礎力を身に付ける。</p>
授業計画	<p>次の【講習】は、松江キャンパス全体で合同で行われる。日程は、過去の実績に基づくモデルである。全学講習の計画決定後、次の内容の日程・順序を変更することがある。</p> <p>第1回 学則・履修規程の理解 (1) 1年春学期の履修登録 (担任)</p> <p>第2回 保育学科の2年間の学びと実習のステップ (学科実習担当者)</p> <p>第3回 キャンパス講習会1：心と身体の健康 (小村講師、手島主任看護師) 大講義室</p> <p>第4回 インターネット利用・メールマナー・コンプライアンス研修 (学科教員)</p> <p>第5回 キャンパス講習会2：ネット被害・マルチ商法対策 (島根県消費者センター) 大講義室</p> <p>第6回 松江キャンパス進路相談の進め方 (合同※) (担任・教職センター・キャリアセンター)</p> <p>第7回 キャンパス講習会3：交通安全 (松江警察署) 大講義室</p> <p>第8回 図書館利用の方法 (合同※) (松江キャンパス図書館)</p> <p>第9回 キャンパス講習会4：防犯の心構えと護身術 (松江警察署) 体育館アリーナ</p> <p>第10回 情報検索・レポートの書き方 (学科教員)</p> <p>第11回 キャンパス講習会5：人権セミナー (人権啓発推進センター) 大講義室</p> <p>第12回 情報検索・研究倫理・コンプライアンス研修 (学科教員)</p> <p>第13回 キャンパス講習会6：ブラックバイト対策 (島根労働局) 大講義室</p> <p>第14回 2年間の学びと学生生活の設計 (レポート課題) (担任)</p> <p>第15回 情報検索の方法 (松江キャンパス図書館) マルチメディア演習室</p> <p>(「キャンパス講習会」は、松江キャンパス全1年生合同講習。「合同※」は、保育教育学科・保育学科1年生合同講習を示す。)</p>
テキスト	「学生便覧」「授業計画書」「実習の手引き」を参考資料として使用し、適宜、プリント資料を配布する。
参考文献	山田剛史・林創著『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房
評価方法	毎回の小テスト (30%) レポート課題 (70%)
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	表現とコミュニケーション						
担当教員	園山土筆 有田幸 田中小百合						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M7020020
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>【授業の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会での「就業力」育成の準備段階として、対人関係を自ら構築するための土台をつくる。 ・子どもが「集団遊び」(複数の子どもが集まり、一つの遊びを皆で楽しむこと)の中で何を学ぶのかを実体験し、「遊び」の価値を知る。 <p>【授業の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外の劇場で実施されるシアターゲームをワークショップ形式で行う。 ・20名程度のグループに分かれ活動するため、個人個人の力に沿った学びができる。
授業の到達目標	<p>【達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや気持ちを言語化して伝えることができる。 ・自他の言動の「違い」について、なぜなのか、疑問に思い、更によく他者を観察し考えることができる。 ・他者の言動を認め自らの課題に気づくことのできる「批判的思考力」を身につける。 ・指示されなくても、自ら状況判断し、まわりの人と協力して行動できる。 ・子どもの集団遊びの意義を体感できる。
授業計画	<p>「表現とコミュニケーション」力の育成 毎回の授業時間：木曜日 9：45～12：10 (3時間) (体育館アリーナ) 各学生は上記授業を5回(3時間×5回=15時間)体験する。 ゲームの体験は、以下の5段階のステップで進められる。毎回、学びを言語化する。 ステージⅠ：コミュニケーション力と集団遊びの関係性を学ぶ。実際にゲームをやってみる。 ステージⅡ：ゲームを通して、身体の実現、声の表情などを学ぶ。 ステージⅢ：即興的なゲームや、仲間との協働が必要なゲームをくりかえすことで、自ら学ぶ。 ステージⅣ：ゲームの学びを他者と共有する。他者から学ぶ。 ステージⅤ：仲間と協力しあって、表現活動に挑戦する。互いに「観ること」、「聴くこと」から学べたことを共有する。</p> <p>第1回：履修生全員でオリエンテーション(3時間)、ステージⅠの体験、グループ分け(AとB)をして、第2回からは隔週の木曜日に受講する。 第2回：Aグループ(1.5コマ) 第2回目～ステージⅡ 第3回：Bグループ(1.5コマ) 第2回目～ステージⅡ 第4回：Aグループ(1.5コマ) 第3回目～ステージⅢ 第5回：Bグループ(1.5コマ) 第3回目～ステージⅢ 第6回：Aグループ(1.5コマ) 第4回目～ステージⅣ 第7回：Bグループ(1.5コマ) 第4回目～ステージⅣ 第8回：Aグループ(1.5コマ) 第5回目～ステージⅤ 第9回：Bグループ(1.5コマ) 第5回目～ステージⅤ</p>
テキスト	初回に配付。その後、必要に応じてプリントを配付する。
参考文献	特になし
評価方法	日常の授業での体験・取組み(100%)。目標の達成度だけでなく、初回からの成長度合いを評価する。ただし、提出されたレポートを評価の参考資料として考慮する。3名の担当講師により採点、評価する。
自己学習に関する指針	授業で学んだことを、日常生活に応用し、次回の授業時に日常生活での学びを発表してほしい。
履修上の指導・留意点	欠席せざるを得ない場合、事前に担当講師に相談するか、直前・事後の場合は教務学生課に申し出て、講師の指示を仰ぐ。 ポケットに入る小さなメモ帳と筆記具を毎回持参し、気づきを記載できるようにしてほしい。

授業科目	読み聞かせの実践						
担当教員	菊野雄一郎 岩田裕子 尾崎智子 内田絢子						
科目分類	専門科目	授業時間	60	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M7020030
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	学内の絵本専門図書館「おはなしレストランライブラリー」を学習の拠点として、絵本の選定と読みの練習を重ね、おはなしレストランライブラリーでの一般利用者親子向け「おはなしのじかん」、大学近隣の保育園での実践、幼児を対象に読み聞かせを実践する。本科目専用のノートと多面的な評価を取り入れながらPDCAサイクルを生み出し、実践を重ねながら着実に力をつけていけるように工夫する。
授業の到達目標	①絵本の基礎的知識を身に付け、絵本を解釈・鑑賞する力を修得する。 ②絵本の読み聞かせの知識・技能を身に付け、心のこもった読み聞かせができる。 ③実践を通して、挨拶やお辞儀などの基本的なマナーを身に付ける。 ④グループで協力しながら取り組むことができる。
授業計画	第1回 ガイダンス、班編成 第2回 ポイントのまとめ「おはなしレストラン10カ条」の確認 第3回 絵本の選定、絵本の解釈、読み聞かせの練習 第4回 グループ練習 第5回 グループ練習 第6回 保育園のぎでの実践1、待機組はライブラリーで模擬実践 第7回 保育園のぎでの実践2、待機組はライブラリーで模擬実践 第8回 保育園のぎでの実践3、待機組はライブラリーで模擬実践 第9回 保育園のぎでの実践4、待機組はライブラリーで模擬実践 第10回 保育園のぎでの実践5、待機組はライブラリーで模擬実践 第11回 保育園のぎでの実践6、待機組はライブラリーで模擬実践 第12回 保育園のぎでの実践7、待機組はライブラリーで模擬実践 第13回 保育園のぎでの実践8、待機組はライブラリーで模擬実践 第14回 保育園のぎでの実践9、待機組はライブラリーで模擬実践 第15回 保育園のぎでの実践10、待機組はライブラリーで模擬実践 まとめ
テキスト	「おはなしレストラン10カ条」「作品解釈ノート」「実践記録ノート」など、授業で適宜配布する。 絵本は、おはなしレストランライブラリーの絵本を利用する。
参考文献	必用に応じて紹介する。
評価方法	「おはなしレストラン10カ条」に基づく自己評価(20%)、活動記録(作品解釈ノート、実践記録ノートなど)のまとめ(40%)、期末レポート(40%)を総合的に評価する。
自己学習に関する指針	「おはなしレストランライブラリー」に積極的に足を運び、絵本とともに過ごす時間を楽しんでください。
履修上の指導・留意点	◇授業時間以外の実践活動が入ります。 ◇活動用のおはなしレストラン専用ポロシャツ、絵本バッグの代金3,000円程度を徴収します。

授業科目	保育ボランティア実習 I						
担当教員	小林美沙子						
科目分類	専門科目	授業時間	45	配当年次	1	配当期	通年
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M7020033
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>保育や教育及び児童家庭福祉関連の職場となる保育所、幼稚園、認定こども園、児童館、放課後児童クラブ、乳児院、児童養護施設、障害児入所施設、指定発達支援医療機関等において、学生が自ら就職したい職種での自主的なボランティア実習に取り組む機会を通して、保育者・ケアワーカー等としての基本的な資質や能力を高めることを目的とする。</p> <p>学生が自己の進路や就職先を見据えたボランティア実習を体験できるように実習計画を立案し、実習を行うための事務手続きを学生が主体となって進める。単独または複数の保育・教育・福祉（医療的現場も含む）の職場での 45 時間以上の実習を実施し、実習を通じて自己の成長を認識するとともに、その体験を通じて保育教育職に就く者及び児童福祉施設等でケアワーク等に従事する者としての自覚と態度を育成する。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 自己の進路や就職先を視野に入れながら、保育所、幼稚園、認定こども園、児童館、放課後児童クラブ、乳児院、児童養護施設、障害児入所施設、指定発達支援医療機関等において学生が自ら就職したい場所での自主的な実習を計画する。</p> <p>(2) 実習を行うための事務手続きを主体的に進め、ボランティア実習の事前準備をする。</p> <p>(3) ボランティア実習を行い、日々の実習について反省・省察する過程を通して自己の成長を認識し、保育者としての基本的な資質や能力を高めるとともに、保育教育職に就く者及び児童福祉施設等でケアワーク等に従事する者としての自覚と態度を身につける。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 履修ガイダンス <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア実習の手続きの説明など 2. 実習事前指導 <ul style="list-style-type: none"> ・実習の心構えと実施上の注意、実習計画の作成など 3. 45 時間以上のボランティア実習の実施（出勤簿の押印と提出を含む） <ul style="list-style-type: none"> ・実習中の個別の対応状況：担当教員が実習中の個別の相談支援を行う。 ・必要に応じて学科全体で責任をもって対応にあたる。 4. 実習事後指導 <ul style="list-style-type: none"> ・実習のまとめと実習を終えてのレポート課題の作成
テキスト	・必要に応じてプリントを配布する。
参考文献	・必要に応じて適宜、参考文献を紹介する。
評価方法	成績は、45 時間以上の実習を証明する活動記録・出席表、実習を終えてのレポート等を考慮して、総合的に評価する。
自己学習に関する指針	・本授業は、学生の主体的な活動を中心としているため、積極的に自ら情報を収集し、実りのあるボランティア活動を進めてください。
履修上の指導・留意点	

授業科目	保育ボランティア実習Ⅱ						
担当教員	小林美沙子						
科目分類	専門科目	授業時間	45	配当年次	2	配当期	通年
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M7020036
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>保育や教育及び児童家庭福祉関連の職場となる保育所、幼稚園、認定こども園、児童館、放課後児童クラブ、乳児院、児童養護施設、障害児入所施設、指定発達支援医療機関等において、学生が自ら就職したい職種での自主的なボランティア実習に取り組む機会を通して、保育者・ケアワーカー等としての基本的な資質や能力を高めることを目的とする。</p> <p>学生が自己の進路や就職先を見据えたボランティア実習を体験できるように実習計画を立案し、実習を行うための事務手続きを学生が主体となって進める。単独または複数の保育・教育・福祉（医療的現場も含む）の職場での45時間以上の実習を実施し、実習を通じて自己の成長を認識するとともに、その体験を通じて保育教育職に就く者及び児童福祉施設等でケアワーク等に従事する者としての自覚と態度を育成する。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 自己の進路や就職先を視野に入れながら、保育所、幼稚園、認定こども園、児童館、放課後児童クラブ、乳児院、児童養護施設、障害児入所施設、指定発達支援医療機関等において学生が自ら就職したい場所での自主的な実習を計画する。</p> <p>(2) 実習を行うための事務手続きを主体的に進め、ボランティア実習の事前準備をする。</p> <p>(3) ボランティア実習を行い、日々の実習について反省・省察する過程を通して自己の成長を認識し、保育者としての基本的な資質や能力を高めるとともに、保育教育職に就く者及び児童福祉施設等でケアワーク等に従事する者としての自覚と態度を身につける。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 履修ガイダンス <ul style="list-style-type: none"> ボランティア実習の手続きの説明など 実習事前指導 <ul style="list-style-type: none"> 実習の心構えと実施上の注意、実習計画の作成など 45時間以上のボランティア実習の実施（出勤簿の押印と提出を含む） <ul style="list-style-type: none"> 実習中の個別の対応状況：担当教員が実習中の個別の相談支援を行う。 必要に応じて学科全体で責任をもって対応にあたる。 実習事後指導 <ul style="list-style-type: none"> 実習のまとめと実習を終えてのレポート課題の作成
テキスト	・必要に応じてプリントを配布する。
参考文献	・必要に応じて適宜、参考文献を紹介する。
評価方法	成績は、45時間以上の実習を証明する活動記録・出席表、実習を終えてのレポート等を考慮して、総合的に評価する。
自己学習に関する指針	・本授業は、学生の主体的な活動を中心としているため、積極的に自ら情報を収集し、実りのあるボランティア活動を進めてください。
履修上の指導・留意点	

授業科目	保育内容演習 I						
担当教員	梶谷朱美 渡邊寛智 小林美沙子 小山優子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M7020040
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状《教職に関する科目》 ・教育課程及び指導法に関する科目 [保育内容の指導法] ○保育士資格						

授業の概要	<p>保育内容「表現」「言葉」「健康」「人間関係」「環境」の5領域の内容を総合的に取り入れた幼児向けの表現活動を計画・実践するとともに、幼児への適切な指導方法の理解を目的とする。5領域の保育内容を統合した、歌や手遊び、体を動かす遊び、人形劇や人間劇などの子どものための表現活動について、具体的な創造活動を通して学ぶ。「保育内容演習 I」では、幼児の表現活動につながる様々な教材を調べる中で、幼児にとってのよりよい活動や教材を理解する視点を身につける。また、幼児を対象とした発表に向けて活動案を考え、準備をする過程で、教員の指導を受けるとともに、学生相互に改善点を伝え合うことを通して、様々な幼児への指導方法を理解する。</p>
授業の到達目標	<p>幼稚園の教員免許取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」及び保育士資格の取得に必要な「保育の内容・方法に関する科目」に対応する科目である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 幼児の表現活動の具体的な内容を理解し、幼児の発達に合わせた活動内容を知る。 幼児にふさわしい教材を多方面から研究し、学生間で話し合いながら幼児の活動を計画する。 幼児が楽しめる活動案を具体化し、学生間で協力して発表までの準備をする。
授業計画	<p>学生個人やグループ活動の演習を通して教材研究を深め、実際や幼児の活動案を計画し、実践する。発表後は計画や実践についての評価を行い、幼児への適切な指導法の視点を身につける。</p> <p>第1回 授業の目的と展開、幼児の表現活動の意味やその内容の理解 第2回 教材研究に関する資料収集・調査の方法 第3回 教材の具体的探求と発表 第4回 歌あそびの活動と指導法 第5回 手あそびの活動と指導法 第6回 歌あそび・手あそびの表現方法 第7回 ペープサート、人形劇の活動と指導法 第8回 幼児にとっての絵本やお話、昔話、童話の意義(児童文化) 第9回 幼児が理解できるお話や題材とは、台本などの作成方法 第10回 幼児同士で行う対人関係あそびの方法 第11回 幼児の認知的発達とクイズあそびの方法 第12回 表現活動や体を動かす活動と指導法 第13回 身体表現の活動と指導法 第14回 表現にかかわる製作実技の方法 第15回 幼児の表現活動案の計画とまとめ</p>
テキスト	<p>テキストは使用しない。適宜資料を配布する。</p>
参考文献	<p>厚生労働省『保育所保育指針(平成29年告示)』フレーベル館, 160円 文部科学省『幼稚園教育要領(平成29年告示)』フレーベル館, 160円 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)』フレーベル館, 160円</p>
評価方法	<p>授業レポートおよび提出物の内容、発表の内容から総合的に評価する。</p>
自己学習に関する指針	<p>保育内容を総合的に捉えた上で教材研究を行い、学生が主体的に活動を立案・実践することが主となる演習科目であるため、意欲的に授業に参加することが求められる。</p>

履修上の 指導・留意点	
----------------	--

授業科目	保育内容演習Ⅱ						
担当教員	梶谷朱美 渡邊寛智 小林美沙子 小山優子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M7020050
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状《教職に関する科目》 ・教育課程及び指導法に関する科目 [保育内容の指導法] ○保育士資格						

授業の概要	<p>保育内容「表現」「言葉」「健康」「人間関係」「環境」の5領域の内容を総合的に取り入れた幼児向けの表現活動を計画・実践するとともに、幼児への適切な指導方法の理解を目的とする。5領域の保育内容を統合した、歌や手遊び、体を動かす遊び、人形劇や人間劇などの子どものための表現活動について、具体的な創造活動を通して学ぶ。「保育内容演習Ⅱ」では、学生の主体的な教材研究を活かした活動案を考え、リハーサルを繰り返しながら、教員の指導や学生相互に改善点を伝え合うことを通して表現指導の方法を習得する。また、計画した内容を幼児を対象に発表し、実際の子どもの反応から計画案を省察・評価し、幼児への望ましい表現指導の方法を習得する。</p>
授業の到達目標	<p>幼稚園の教員免許取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」及び保育士資格の取得に必要な「保育の内容・方法に関する科目」に対応する科目である。</p> <p>(1) 学生間で話し合いながら幼児の活動を計画し、発表までの準備をする。 (2) 幼児が楽しめる活動案を具体化し、リハーサルを繰り返しながら、学生間で計画案を改善する。 (3) 実際に表現活動の発表を行い、その活動について省察・評価する過程で幼児の指導法を習得する。</p>
授業計画	<p>学生個人やグループ活動の演習を通して教材研究を深め、実際や幼児の活動案を計画し、実践する。発表後は計画や実践についての評価を行い、幼児への適切な指導法の視点を身につける。</p> <p>第1回 幼児の表現活動案の指導計画案の作成 第2回 幼児の表現活動案のねらいや趣旨、指導の要点のまとめと発表 第3回 グループ別活動案の発表(1) 幼児の表現活動の全体構成の検討 第4回 グループ別活動案の製作物の役割とその意義 第5回 グループ別活動案の音響効果の役割とその意義 第6回 グループ別活動案の発表(2) 歌唱や手遊び、人間劇の表現方法の検討 第7回 グループ別活動案の幼児がイメージしやすい表現や手遊びの指導方法 第8回 グループ別活動案の幼児が理解できるお話の展開方法 第9回 グループ別活動案の発表(3) クイズ、運動表現あそび、人形劇の表現方法の検討 第10回 グループ別活動案の幼児の運動表現上の工夫と配慮点 第11回 グループ別活動案の発表(4) 子どもの反応を想定した内容への改善 第12回 グループ別活動案の修正、製作物の改善・準備 第13回 実際の幼児への表現活動の実践発表 第14回 計画案の実践を通じた反省・省察、子どもにとっての活動の意味の評価 第15回 活動のねらいを達成できたかの評価、幼児への指導法のあり方のまとめ</p>
テキスト	<p>テキストは使用しない。適宜資料を配布する。</p>
参考文献	<p>厚生労働省『保育所保育指針〈平成29年告示〉』フレーベル館, 160円 文部科学省『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館, 160円 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館, 160円</p>
評価方法	<p>授業レポートおよび提出物の内容、発表の内容から総合的に評価する。</p>
自己学習に関する指針	<p>保育内容を総合的に捉えた上で教材研究を行い、学生が主体的に活動を立案・実践することが主となる演習科目であるため、意欲的に授業に参加することが求められる。</p>

履修上の 指導・留意点	
----------------	--

授業科目	保育情報活用法 I						
担当教員	飯塚由美						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M7020060
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状《教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目》 ・情報機器の操作						

授業の概要	情報機器の操作（パソコン操作含む）に慣れ、マルチメディア教材の活用（基礎）を理解し、保育と教育の現場に必要な基本的機器の操作技術や活用法を習得する科目です。機器の使い方、Web の利用やワープロソフトや表計算ソフトの基本的な操作などを学びます。
授業の 到達目標	（１）web 利用による保育情報検索・整理の仕方の基礎が理解できるようになります。 （２）パソコンによる文章作成（保護者への連絡文、案内文の作成など）ができるようになります。 （３）表の作成、画像入力・作成（スキャナーの操作、案内地図など）の基礎が理解できるようになります。
授業計画	第 1 回 オリエンテーション：大学の情報機器の使い方、システムの理解、授業概要 第 2 回 情報セキュリティと情報倫理：情報モラル、社会への影響、教育における配慮 第 3 回 情報検索と電子メール：Web の利用とメール操作、情報機器のしくみ 第 4 回 web 利用による保育情報検索・整理の仕方 第 5 回 イラストや地図作成、印刷設定と印刷方法 第 6 回 ワープロソフトの利用：Word の基本操作（簡単な文書作成、書式設定、図表挿入の基本） 第 7 回 ワープロソフトの利用：園だよりを作ろう 第 8 回 写真入力と加工、デジタルカメラ、スキャナーの利用 第 9 回 表計算ソフトの利用：Excel の基本操作 第 10 回 表計算ソフトの利用：Excel によるカレンダー作成 1（テーマ、デザイン決定） 第 11 回 表計算ソフトの利用：Excel によるカレンダー作成 2（表の作成、関数入力） 第 12 回 表計算ソフトの利用：Excel によるカレンダー作成 3（画像入力・加工） 第 13 回 表計算ソフトの利用：データ入力とグラフの作成 第 14 回 プレゼンテーションソフトの理解：PowerPoint の基本操作 第 15 回 総括
テキスト	『保育者のためのパソコン講座』 2014 阿部正平他編 萌文書林 必要に応じ、資料やプリントを配布します。
参考文献	
評価方法	成績は、課題の提出（80%）、取り組む姿勢（20%：発表など）を考慮し、総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	授業前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。 パソコン操作については、学習（経験）したことを自分できちんとメモ（覚え書き）し、記録をすること。
履修上の 指導・留意点	

授業科目	保育情報活用法Ⅱ						
担当教員	飯塚由美						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M7020070
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状≪教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目≫ ・情報機器の操作						

授業の概要	基礎（保育情報活用法Ⅰ）を踏まえ、情報機器の操作（パソコン操作含む）の技術を高め、マルチメディア教材を活用して、保育と教育の現場で必要な基本機器の操作技術や活用法を習得します。
授業の 到達目標	(1) 情報機器を使った教育教材作成と呈示方法がより理解できるようになります。 (2) 資料の整理の仕方、表計算、データのグラフ化がより理解できるようになります。 (3) プレゼンテーションの実際など将来に有益なツールを身につけることができます。 (4) アンケート、調査などで得られるデータの整理（教育統計の理解を含む）の基礎ができます。
授業計画	第 1 回 オリエンテーション：情報機器の使い方とシステムの理解、授業概要 第 2 回 ファイルについての知識と管理の方法；様々な保存形式と整理の仕方 第 3 回 ファイルについての知識と管理の方法；文章や資料データの管理 第 4 回 より複雑な文章の作成（Word） 第 5 回 データ入力と加工の仕方（Excel） 第 6 回 簡単なデータ集計と整理 第 7 回 図表の作成方法の基礎理解 第 8 回 応用：体重測定表、折れ線などの多様なグラフ作成 第 9 回 プレゼンテーションの実際；必要な資料の選定と加工、使用する情報機器の準備 第 10 回 プレゼンテーションの実際；プレゼンテーションの作成 第 11 回 プレゼンテーションの実際；自分でプレゼンしてみよう（発表 1） 第 12 回 プレゼンテーションの実際；自分でプレゼンしてみよう（発表 2）、効果的な呈示方法の学習 第 13 回 基本的なアンケートや質問紙調査法の理解；基礎的な統計、ワーディング 第 14 回 アンケートや質問紙調査の実際；アンケートや質問紙の作成と実施、統計ソフトの利用 第 15 回 総括
テキスト	『保育者のためのパソコン講座』 2014 阿部正平他編 萌文書林 必要に応じ、資料やプリントを配布します。
参考文献	
評価方法	成績は、課題の提出（80%）、取り組む姿勢（20%：発表など）を考慮し、総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	授業前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。 パソコン操作については、学習（経験）したことを自分できちんとメモ（覚え書き）し、記録をすること。
履修上の 指導・留意点	

授業科目	卒業研究						
担当教員	保育学科教員						
科目分類	専門科目	授業時間	90	配当年次	2	配当期	通年
授業形態	講義・演習	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M7020080
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 2年間の学修に基づく課題意識をもって、ゼミ担当教員の指導の下、2年間の学修成果をとりまとめる。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 卒業時に保育に関する諸課題を分析し、課題解決に向けた考察を卒業論文としてまとめ、言葉、文章、図表、身体表現等の的確な表現形式で、その成果を発表することができるように、各研究室ごとの少人数指導により、2年間の学修成果をとりまとめる。ゼミ担当教員の指導の下、研究テーマごとの専門研究に触れつつ研究の完成を目指す。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 保育に関する諸課題を分析し、課題解決に向けて考察する。</p> <p>(2) 研究発表までの卒業研究を完成させ、研究手法とプロセスを身に付ける。</p> <p>(3) 課題解決に向けた論理的な思考により論文を完成させる。</p>
授業計画	<p>2年次の卒業研究は通年で週1.5回ずつ行われ、コマ数は春学期22.5回・秋学期22.5回となる。毎回の進行は、配属された研究室の卒業研究の進行課程により異なる。</p> <p>(春学期 22.5回)</p> <p>第1回 保育学科卒業研究、各研究テーマ別の年度活動計画 第2～22.5回 保育学科卒業研究 各研究テーマ別の春学期活動 毎回の進行は、参加する研究室の卒業研究グループにより異なる。</p> <p>(秋学期 22.5回)</p> <p>第1回 保育学科卒業研究、各研究室の取り組み発表（中間発表） 第2回 保育学科卒業研究、各研究室の取り組み発表のふりかえり 第3～22.5回 保育学科卒業研究 各研究テーマ別の秋学期活動 毎回の進行は、参加する研究室の卒業研究グループにより異なる。</p>
テキスト	適宜プリント資料等を配布する。
参考文献	
評価方法	卒業論文（発表を含む）（100%）
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	保育原理						
担当教員	渡辺一弘						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M7020090
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>本科目は、保育者になるための最低限の知識、理論やスタンスを学習し、保育現場における原理と特性、環境、方法について理解していく。具体的には、特に保育思想とその歴史の変遷についてを中心的に学びながら、現代における様々な保育問題について理解する。そしてその上で、より実践的な視点から、保育者として、現場においてどう活かすのかを個々の学生に考えてもらうことをねらいとしている。さらに、保育の現状と課題や問題点、諸外国の状況についても言及する。</p>
授業の到達目標	<p>保育の意義と目的、保育思想とその歴史の変遷等とおして、保育者になるための最低限の知識や理論を理解し、保育を取り巻く状況の今日的な課題を把握することを目的とする。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、保育原理とはどういう科目か？ 第2回 保育の意義と目的（1） 保育の意義と保護者の協働 第3回 保育の意義と目的（2） 保育所、幼稚園における保育と、保育所保育指針、幼稚園教育要領 第4回 保育所保育指針に基づく保育の基本・理念（1） 養護と教育における一体化と、環境と発達過程 第5回 保育所保育指針に基づく保育の基本・理念（2） 保護者との連携と保育士の倫理観 第6回 保育における目標と方法（1） 具体的な保育活動 第7回 保育における目標と方法（2） 保育における個と集団 第8回 保育における目標と方法（3） 保育の計画と評価 第9回 保育思想とその歴史の変遷（1） 19世紀までの欧米の教育・保育思想 第10回 保育思想とその歴史の変遷（2） 20世紀以降の欧米の教育・保育思想 第11回 保育思想とその歴史の変遷 日本の教育・保育思想 第12回 保育の現状と課題（1） 諸外国の現状と課題 第13回 保育の現状と課題（2） 待機児童とエンゼルプラン 第14回 保育の現状と課題（3） 幼保のボーダレス化と認定こども園 第15回 まとめ 定期試験</p>
テキスト	『実践的保育原理』上野恭裕編、三晃書房、2015年（2,200円＋税）
参考文献	『幼稚園教育要領』文部科学省、フレーベル館、2017年（149円＋税） 『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館、2017年（149円＋税） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府、フレーベル館、2017年（149円＋税） 必要に応じてプリント等を配布する。
評価方法	定期試験50%、小テスト20%、レポート20%、授業中の取り組み等10%
自己学習に関する指針	積極的に授業に参加すること。
履修上の指導・留意点	欠席する場合、できる限り事前に連絡すること。

授業科目	社会福祉概論						
担当教員	宮下裕一						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M7020110
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 現代における社会福祉の意義と社会福祉における子ども家庭福祉の視点について理解する。また、社会福祉の制度、実施体系、相談援助、利用者保護の仕組みと社会福祉の動向及び課題について理解することを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 社会福祉の理念・概念、歴史など、社会福祉の基礎的な学習から始まり、社会福祉の制度や実施体系、社会保障及び関連制度について学ぶ。また、社会福祉における相談援助の対象や方法、技術について学ぶ。さらに、福祉サービスの提供にあたって規定されている利用者保護に関わる制度の背景や法的根拠等を学ぶ。加えて、諸外国を含め、今後の社会福祉の動向と課題を考察する。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭福祉の視点について説明できるようになる。 ・対象、分野別の社会福祉制度や実施体制等や、相談援助、利用者保護の仕組みについて説明できるようになる。 ・社会福祉の動向と課題について理解し、考察できるようになる。
授業計画	<p>第1回 社会福祉をめぐる状況 第2回 社会福祉の理念と概念 第3回 社会福祉の歴史的変遷 第4回 社会福祉の制度と法体系 第5回 社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等 第6回 社会福祉の専門職 第7回 社会保障および関連制度 第8回 相談援助の理論 第9回 相談援助の意義と機能 第10回 相談援助の対象と過程 第11回 相談援助の方法と技術 第12回 利用者保護の仕組み 第13回 少子高齢化社会における子育て支援 第14回 共生社会の実現と障害者施策 第15回 社会福祉の動向と課題（諸外国を含む） 定期試験</p>
テキスト	相澤譲治編『保育士を目指す人の社会福祉』、みらい (2,000円+税)
参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	レポート（小テストを含む）提出（30%）、期末筆記試験（70%）で評価を行う。
自己学習に関する指針	授業前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。 授業後は、テキストや配布資料等を用いて復習をすること。
履修上の指導・留意点	質問は、その内容に応じて、授業時間中・研究室・e-mail に対応します。

授業科目	子ども家庭福祉						
担当教員	宮下 裕一						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M7020113
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。子どもの人権擁護について学び、子ども家庭福祉の制度や実施体制、子どもの人権擁護について学ぶ。また、子ども家庭福祉の現状と課題、今後の展望についての理解を深める。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における子ども家庭福祉の意義及び歴史の変遷について理解できる。 2 子ども家庭福祉における子どもの人権擁護の重要性を理解し、子ども家庭福祉の制度や実施体系について説明することができる。 3 子ども家庭福祉をめぐる現状と課題及び今後の展望に関する基本的事項について理解し、考察できる。
授業計画	<p>第1回 子ども家庭福祉の理念と概念</p> <p>第2回 子ども家庭福祉の歴史の変遷と諸外国の動向</p> <p>第3回 子どもの人権擁護</p> <p>第4回 子ども家庭福祉の制度と実施体制</p> <p>第5回 子ども家庭福祉の施設と専門職</p> <p>第6回 少子化と地域子育て支援</p> <p>第7回 母子保健と子どもの健全育成</p> <p>第8回 多様な保育ニーズへの対応</p> <p>第9回 子ども虐待・ドメスティックバイオレンスの防止について</p> <p>第10回 社会的養護</p> <p>第11回 障がいのある子どもへの対応</p> <p>第12回 少年非行等への対応</p> <p>第13回 貧困家庭・外国籍の子どもとその家庭への対応</p> <p>第14回 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進</p> <p>第15回 地域における連携・協働とネットワーク</p> <p>定期試験</p>
テキスト	流石智子監修『知識を生かし実力をつける子ども家庭福祉』、保育出版社 (2,270円+税)
参考文献	必要に応じて紹介する
評価方法	レポート(小テストを含む)提出(30%)、期末筆記試験(70%)で評価を行う。
自己学習に関する指針	<p>授業前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。</p> <p>授業後は、テキストや配布資料等を用いて復習をすること。</p>
履修上の指導・留意点	

授業科目	子ども家庭支援論						
担当教員	宮下裕一 石倉有子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M7020116
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	子育て家庭に対して、保育士の行う相談等の支援の意義や子ども家庭支援の基本について理解する。また子育て家庭に対する支援体制や、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の実際を、予防的視点に立って、具体的な事例を用いつつ検討を加えることにより、子ども家庭支援の現状や課題について理解を深める。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の家族を取り巻く社会状況の中で子ども家庭支援の意義と必要性について理解できる。 2. 子育て家庭への支援体制について理解できる。 3. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開及び関係機関との連携、子ども家庭支援の課題について理解できる。
授業計画	第1回 子ども家庭支援をめぐる状況 (担当: 宮下) 第2回 子ども家庭支援の意義と必要性 (担当: 宮下) 第3回 子ども家庭支援の目的と機能 (担当: 宮下) 第4回 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 (担当: 宮下) 第5回 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 (担当: 石倉) 第6回 保育士に求められる基本的態度 (担当: 石倉) 第7回 保育の特性と保育士の専門性を生かした子ども家庭支援 (担当: 石倉) 第8回 保護者との相互理解と信頼関係の形成 (担当: 石倉) 第9回 家庭の状況に応じた支援 (担当: 石倉) 第10回 地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力 (担当: 石倉) 第11回 子ども家庭支援の内容と対照 (担当: 石倉) 第12回 保育所等を利用する子どもの家庭への支援 (担当: 石倉) 第13回 地域の子育て家庭への支援 (担当: 石倉) 第14回 要保護児童及びその家庭に対する支援 (担当: 石倉) 第15回 子ども家庭支援に関する課題と展望 (担当: 宮下) 定期試験
テキスト	井村圭壮・相澤譲治編著『保育と家庭支援論』、学文社【2000円+税】
参考文献	必要に応じて紹介します。
評価方法	レポート提出 (50%)、期末筆記試験 (50%) で評価を行います。
自己学習に関する指針	授業前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。 授業後は、テキストや配布資料等を用いて復習をすること。
履修上の指導・留意点	

授業科目	社会的養護 I						
担当教員	宮下 裕一						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M7020133
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	現代社会における社会的養護に関する意義および歴史の変遷について説明をする。そして社会的養護に携わる援助者としての資質や倫理を、子どもの権利擁護との関連で意識化できるようにする。加えて、社会的養護の制度や実施体制についての理解を深め、現状の理解と今後の課題について言及する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的養護の意義と歴史の変遷、社会的養護の制度や実施体系等について学び、基礎的な知識を身につける。 2. 子どもの権利擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解できる。 3. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解できる。 4. 社会的養護の現状と課題を理解し、これからの社会的養護のあり方について自ら考えることができる。
授業計画	第1回 社会的養護の理念と概念 第2回 社会的養護の歴史の変遷 第3回 子どもの権利擁護と社会的養護 第4回 社会的養護の基本原則 第5回 社会的養護における保育士等の倫理と責務 第6回 社会的養護の制度と法体系 第7回 社会的養護の仕組みと実施体系 第8回 家庭養護と施設養護 第9回 社会的養護の対象と支援 第10回 社会的養護の実際 第11回 社会的養護に関わる専門職 第12回 社会的養護に関する社会的状況 第13回 施設等の運営管理の現状と課題 第14回 被措置児童等の虐待防止 第15回 社会的養護と地域福祉 定期試験
テキスト	望月彰編著『改訂 子どもの社会的養護—出会いと希望のかけはし 第3版』建帛社、(1900円+税)
参考文献	必要に応じて紹介する
評価方法	レポート(小テストを含む)提出(30%)、期末筆記試験(70%)で評価を行う。
自己学習に関する指針	授業前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。 授業後は、テキストや配布資料等を用いて復習をすること。
履修上の指導・留意点	

授業科目	保育者論						
担当教員	渡辺一弘						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M7020140
免許資格 関連事項	<p>○幼稚園教諭二種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職の意義等に関する科目 〔教職の意義及び教員の役割〕 〔教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）〕 〔進路選択に資する各種の機会の提供等〕 <p>○保育士資格</p>						

授業の概要	<p>本科目は、保育者という仕事の魅力ややりがい、意義や重要性、役割等様々な側面を理解するために、できるだけ実践の事例を取り上げて、講義を進める。幼稚園教諭、保育士を包括して保育者と理解したうえで、幼稚園教諭と保育士の違い、幼稚園教諭、保育所保育士、施設保育士それぞれにおける保育者の基本的考え方やあり方について学ぶ。保育者の役割と倫理、制度的位置づけ、保育者の専門性、専門職としての成長について学ぶ。加えて、幼稚園、保育所等からゲストスピーカーを招き、現場の保育者の専門性、成長、課題等について学ぶ予定である。</p>
授業の到達目標	<p>授業を通して、保育者になる将来の自分の姿をイメージしながら、保育者になるための目標や意義、専門性を理解することができるようになる。具体的には、保育者の役割と倫理、制度的位置づけ、専門性について理解できるようになる。家庭や地域、専門機関との連携についても理解する。専門職者としての保育者の成長と研修の意義について理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、保育者論とはどういう科目か？</p> <p>第2回 「保育者になる」ということ（1） 「保育者」になりたいと思った理由</p> <p>第3回 「保育者になる」ということ（2） 幼稚園教諭と保育士の免許・資格、魅力的な保育者とは</p> <p>第4回 保育者の一日ー具体的な仕事の流れに見える保育者のまなざしー（1） 一日の流れ</p> <p>第5回 保育者の一日ー具体的な仕事の流れに見える保育者のまなざしー（1） 現場からの声</p> <p>第6回 子どもの思いや育ちを理解する仕事（1） 子ども理解と子どもの育ち</p> <p>第7回 子どもの思いや育ちを理解する仕事（2） 子どもを読み解くということ</p> <p>第8回 子どもと一緒に心と体を動かす仕事</p> <p>第9回 豊かな文化や自然との出会いをつなぐ仕事</p> <p>第10回 保護者や家庭と一緒に歩む仕事（1） 子育て支援、保護者への支援</p> <p>第11回 保護者や家庭と一緒に歩む仕事（2） 親同士の人間関係、地域の子育て支援</p> <p>第12回 学び合う保育者ー保育の場における保育者の成長と同僚関係ー（1） 保育者の専門性</p> <p>第13回 学び合う保育者ー保育の場における保育者の成長と同僚関係ー（2） 学び合う関係</p> <p>第14回 保育者の専門性って何だろうーまとめにかえてー</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>定期試験</p>
テキスト	『保育者論』 汐見稔幸・大豆生田啓友編、ミネルヴァ書房、2010年（2,200円＋税）
参考文献	<p>『幼稚園教育要領』 文部科学省、フレーベル館、2017年（149円＋税）</p> <p>『保育所保育指針』 厚生労働省、フレーベル館、2017年（149円＋税）</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 内閣府、フレーベル館、2017年（149円＋税）</p> <p>必要に応じてプリント等を配布する。</p>
評価方法	定期試験 50%、小テスト 20%、レポート 20%、授業中の取り組み等 10%
自己学習に関する指針	積極的に授業に参加すること。
履修上の指導・留意点	欠席する場合、できる限り事前に連絡すること。

授業科目	教育原理						
担当教員	時津啓						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M7020150
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状《教職に関する科目》 ・教育の基礎理論に関する科目 [教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想] ○保育士資格						

授業の概要	西洋と我が国における教育の理念、教育思想の歴史的、思想的展開を手がかりに、教育思想や学校や家族、社会における教授—学習の本質を理解する。さらにそれをとおして正しい教育観や子ども観、学校観を形成する。さらに、問題解決学習や参加型メディア教育における学びを手がかりに、学習の意義や学校における教授—学習の在り方を具体的に理解する。
授業の到達目標	幼稚園の教員免許取得に必要な「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に対応する科目である。教育の基本的概念を理解し、教育の理念が有する歴史的含意や構成過程を学修する。さらに、教育の目的や目標と学校教育の歴史や学校の捉え方の変化との関連を理解し、それがどのように変化したのか。学校教育の歴史を理解することを通して現代における教育問題や教育思想の特徴を理解する。また問題解決学習や参加型メディア教育を手がかりにして、学校における教授—学習論の在り方を歴史的に理解し、教育思想との関係を理解する。
授業計画	第1回 教育の本質・基本概念—これまでの教育・学習経験から教育とは何かを考える 第2回 教育の目的・目標論(1)—教育の目標・目的の本質とその機能 第3回 教育の目的・目標論(2)—我が国の教育法規における教育の目標とその歴史的意味 第4回 教育における思想(1)—近代以前～近代 (コメニウス、ルターからペスタロッチー、フレーベルへ) 第5回 教育における思想(2)—近代の子ども観を中心に(ルソーとアリエス) 第6回 教育における思想(3)—現代(構造主義、ポストモダン) 第7回 近代における学校の成立と展開(1)—西洋の学校の成立と展開(イギリスを中心に) 第8回 近代における学校の成立と展開(2)—西洋の学校改革(イギリスの新教育を中心に) 第9回 我が国の学校の成立と展開(1)—明治以降の学校教育(修身と近代化) 第10回 我が国の学校の成立と展開(2)—戦後の学校教育の特徴(国民の教育権論を中心に) 第11回 学校の機能、家庭、教員の相互連携(1)—家庭、学校、教員の相互関連 第12回 学校の機能、家庭、教員の相互連携(2)—学校、家族の機能と幼児・児童 第13回 教授—学習理論とその実際(1)—参加型メディア教育と主体的学び 第14回 教授—学習理論とその実際(2)—環境構成と「モノ」としてのメディア 第15回 教授—学習理論とその実際(3)—いじめと子ども観 定期試験
テキスト	小笠原道雄他編『教育学概論』福村出版およびプリント資料
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領』(平成29年3月告示) 文部科学省『幼稚園教育要領解説』(平成30年2月)
評価方法	定期試験(50%)、毎回の授業レポート(50%)
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	教育制度論						
担当教員	牧瀬 翔麻						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M7020153
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状《教職に関する科目》 ・教育の基礎理論に関する科目 [教育に関する社会的、制度的又は経営的事項] ○保育士資格						

授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校をめぐる近年の政策動向や制度改革について理解する。 2. 子どもの生活環境等の変化に応じた指導について理解する。 3. 諸外国の学校教育制度改革等について理解する。 4. 学校教育制度の課題を把握する。 5. 学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、理解する。 6. 学校の管理下で起こる事件、事故及び災害等について学び、関連法令に基づく学校安全の取り組みを理解する。
授業の 到達目標	【目的】 ・子どもの豊かな育ちや学びを支える現行の教育制度がどうなっているのかを知る ・なぜそうした制度が必要とされたのかその背景を理解する 【目標】 ・現行制度に至るまでどのように変化してきたのか、その影響はどうだったのかがわかる ・制度と保育者・教育者、保育・教育実践の関わりを理解し、制度改革の考えを深めることができる
授業計画	第1回 教育制度の目的：公教育制度の成立、原理、改革を学び、教育を受ける権利を理解する 第2回 就学前教育に関する基本的な仕組み：幼稚園・保育所について学ぶ 第3回 義務教育制度：義務教育段階の学校の目的・目標・制度改革について学ぶ 第4回 教員に関する制度：教員に関わる基本制度と教員をめぐる課題について学ぶ 第5回 学級経営：学級経営の仕組みと効果的な方法を理解する 第6回 児童生徒の問題行動と学校制度：不登校と教育機会確保法、いじめ防止対策推進法を学ぶ 第7回 学校・地域・家庭の連携：学校教育への保護者、地域住民の関わりについて学ぶ 第8回 学校安全への対応：学校の管理下で起こる事故への対策、対応について学ぶ
テキスト	適宜資料等を配布する。
参考文献	・内山絵美子・山田知代・坂田仰編『保育者・小学校教員のための教育制度論—この一冊で基礎から学ぶ—(増補版)』教育開発研究所 ・伊藤良高『増補版 幼児教育行政学』晃洋書房
評価方法	期末試験 (50%)、レポート (50%) の結果をもとに評価する。 授業内のフィードバックレポートの評価を成績に加味する。
自己学習に 関する指針	授業内で紹介する文献を積極的に読むことを期待する。 講義で関心を持ったテーマについて、主体的に学ぶ姿勢を求める。
履修上の 指導・留意点	

授業科目	発達心理学						
担当教員	菊野雄一郎						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M7020156
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状《教職に関する科目》 ・教育の基礎理論に関する科目 [幼児、児童又は生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童又は生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）] ○保育士資格						

授業の概要	保育所保育指針の発達項目、幼稚園教育要領、および小学校学習指導要領に関わる子どもの発達の理解を目標として、発達の原理、子どもの知覚、記憶、思考、言語などの側面から、子どもの発達を考える。本講義を通して、子どもとは何か、発達とは何かを考える。
授業の到達目標	(1) 保育実践にかかわる心理学の知識を習得できる。 (2) 子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもの教育と心理について理解できる。 (3) 子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことについて理解できる。
授業計画	第1回 保育と心理学-発達の原理と法則 第2回 子どもの発達の理解 第3回 子どもの育ちを支えるもの 第4回 胎児期-遺伝と子宮内環境での発達 第5回 新生児-新生児の認知能力 第6回 乳児期の感覚・知覚・認知の発達 第7回 運動の発達-運動の発達と認知発達の関係性 第8回 幼児期の認知発達-模倣と象徴機能、遊び 第9回 言語の発達-前言語期と言語の発達段階 第10回 人間関係の発達-社会性の発達と生涯発達 第11回 気質-気質の発達と脳 第12回 児童期の認知発達-概念発達と記憶の発達 第13回 児童期から青年期へ-社会認識の発達 第14回 乳幼児期から児童期までの発達の障害 第15回 発達スクリーニング法の基礎 定期試験
テキスト	菊野春雄編『乳幼児の発達臨床心理学：理論と現場をつなぐ』北大路書房
参考文献	高橋恵子・湯川良三・安藤寿康・秋山弘子編『発達科学入門2 胎児期～児童期』東京大学出版会 バターワース&ハリス著、村井潤一監訳『発達心理学の基本を学ぶ-人間発達の生物学的・文化的基盤-』ミネルヴァ書房
評価方法	到達目標(1)の評価：期末試験(30点) 到達目標(2)の評価：期末試験(20点) 到達目標(3)の評価：期末試験(20点) 授業内容理解の評価：授業レポート10回(3点×10=30点)
自己学習に関する指針	事前学習では、次の講義で行われる内容についてテキストを読んでおくこと。事後学習では、授業で学んだ内容についてノートを読み返しておくこと
履修上の指導・留意点	

授業科目	教育心理学						
担当教員	飯塚由美						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M7020160
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育の基礎理論に関する科目 [幼児、児童又は生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童又は生徒の心身の発達及び学習の過程を含む)] ○保育士資格						

授業の概要	教育の現場に関連する心理学的の基礎知識を理解し、より効果的な保育を展開するための知識や手法の修得を目指します。教育と発達、学習と記憶、動機づけ、パーソナリティ、評価と測定、適応と障害、集団の特性、人間関係の発達などの基本を学びます。
授業の到達目標	(1) 教育に必要な心理学の多様な分野とその基礎理論が理解できるようになります。 (2) 発達、学習や記憶のプロセス、パーソナリティなど、身近な人間行動の理解が進みます。 (3) 保育者として、幼児や児童、保護者への対応のための準備ができます。
授業計画	第1回 イン트로ダクション 教育心理学とは何か 第2～3回 教育と発達 第2回 発達の基礎理論 第3回 認知と情動的発達、社会性の発達 第4～5回 学習と記憶 第4回 学習の基礎理論と教育への応用 第5回 学習方法、記憶のプロセスの理解 第6回 学習と動機づけ 内発的動機づけ、原因帰属と無気力 第7～8回 パーソナリティ理論 第7回 パーソナリティ理論の多様性と変遷 第8回 パーソナリティ・テストの実際、適性 第9回 教育の評価と測定 学習活動の評価、知能と学力、学習不振、測定の基礎 第10～11回 教育と適応 第10回 適応、障がいの理解と特別支援教育 第11回 カウンセリングの基本、こどものストレスとストレス・マネジメント 第12～13回 集団とリーダーシップ 第12回 学級集団の理解、集団の発達、リーダーシップ 第13回 集団指導法 第14回 人間関係の発達 対人関係の理解、仲間、コミュニケーションの発達 第15回 教育と家族・地域社会とのかかわり 社会化、家族や地域社会の役割とネットワーク
テキスト	『やさしい教育心理学』 第4版 鎌原雅彦・竹綱誠一 著 有斐閣アルマ 必要に応じ、資料やプリントを配布します。
参考文献	授業内容に合わせ、講義内で適宜紹介します。
評価方法	成績は、小テスト(60%)、小課題(30%)、授業への参加姿勢(発表、コメント・質問など)(10%)により総合的に評価します。
自己学習に関する指針	授業前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。
履修上の指導・留意点	欠席した場合、配布資料は研究室前ボックス内にあるので、次の授業前までに入手し、事前にみておくこと。

授業科目	特別支援教育						
担当教員	西村 健一						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M7020235
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状《教職に関する科目》 ・教育の基礎理論に関する科目 [特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解] ○保育士資格						

授業の概要	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解をするとともに、特別支援教育における教育課程及び具体的な支援の方法を学ぶ。また、母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援についても理解をする。
授業の 到達目標	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。
授業計画	第1回 特別支援の対象となる幼児、児童及び生徒の理解と教育システムの概要 第2回 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等の障害児・者の生理・心理・病理 第3回 発達障害及び重複障害児・者の生理・心理・病理 第4回 障害はないが特別な教育的ニーズのある児童生徒の実態とその支援及び課題 第5回 教育現場における特別支援教育の支援の実際について 第6回 「通級における指導」と「自立活動」について 第7回 「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」の運用と実際 第8回 地域におけるチーム学校の考え方と実際について 定期試験
テキスト	授業中、適宜印刷資料等を配布する。
参考文献	特別支援学校幼稚園部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領 (文部科学省 HP http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm) 特別支援学校学習指導要領解説(自立活動編・総則編) (文部科学省 HP http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm)
評価方法	毎回提出の授業レポート(40点)、期末課題(60点)
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	幼児理解と教育相談						
担当教員	菊野雄一郎 曾田裕子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M7020240
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状≪教職に関する科目≫ ・生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 [幼児理解の理論及び方法] [教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法] ○保育士資格						

授業の概要	<p>幼児理解の基盤となる発達心理学、臨床発達心理学等の理論を学修し、幼稚園教諭の専門性としての幼児理解のあり方を、行動科学的に学ぶ。保育現場での臨床的な対象理解の具体的な技法として、行動観察法、質問紙法、検査法、面接のあり方、を理解し、教育相談のためのカウンセリングマインドの基礎を学ぶ。さらに、幼児理解の事例検討を通して教育的支援のあり方を学修する。また、特別支援教育、幼小接続における幼児理解のあり方についても検討する。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 幼児期の行動を客観的にとらえて理解するための手法を学ぶ。 (2) 幼児期の気になる行動の理解を通して、教育的支援のあり方を学ぶ。 (3) 幼小接続期の幼児理解と支援のあり方を学ぶ。</p>
授業計画	<p>第1回 幼児期の発達の標準と個人差 (担当：菊野) 第2回 幼児期の心の世界－他者の感情の理解 (担当：菊野) 第3回 幼児期の心の世界－うそやだまし (担当：菊野) 第4回 幼児期の心の世界－幼児の性格特性 (担当：菊野) 第5回 行動からの子ども理解－行動観察の手法 (担当：菊野) 第6回 行動からの子ども理解－保育者の質問紙法 (担当：菊野) 第7回 行動からの子ども理解－発達検査法の理解 (担当：菊野) 第8回 幼児の行動観察と発達検査法の実例 (担当：菊野) 第9回 幼児理解の意義(観察の視点と記録の意義) (担当：曾田) 第10回 幼児の生活や遊びから読み取る発達や学び (担当：曾田) 第11回 幼児の気になる姿とその要因・課題に対する支援 (担当：曾田) 第12回 家庭との連携・保護者支援 (担当：曾田) 第13回 園内体制づくり・専門機関との連携 (担当：曾田) 第14回 事例を通しての模擬ケース会議Ⅰ(グループワーク、発表) (担当：菊野・曾田) 第15回 事例を通しての模擬ケース会議Ⅱ(グループワーク、発表) (担当：菊野・曾田) 定期試験</p>
テキスト	<p>宮本信也監修、園山繁樹、下泉秀夫、三角輝見子、宮本信也著、『発達障害のある子の理解と支援 DSM-5 改訂対応版』母子保健事業団刊</p>
参考文献	<p>文部科学省『幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価』ぎょうせい 文部科学省『幼稚園教育指導資料第5集 指導と評価に生かす記録』チャイルド本社 富田久枝・杉原一昭 編著『保育カウンセリングへの招待』北大路書房</p>
評価方法	<p>・レポート(2回分)＝20% ・定期試験＝80%</p>
自己学習に関する指針	<p>事前学習では、次の講義で行われる内容についてテキストを読んでおくこと。事後学習では、授業で学んだ内容をノートを読み返しておくこと</p>
履修上の指導・留意点	

授業科目	幼児理解の方法						
担当教員	菊野雄一郎						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M7020243
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状《教職に関する科目》 ・生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 [幼児理解の理論及び方法] [教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法] ○保育士資格						

授業の概要	保育所保育指針の発達項目、幼稚園教育要領、および小学校学習指導要領に関わる子どもの発達の理解を目標として、気になる子どもの理解と教育相談・教育的支援のあり方を考える。本講義を通して、発達理論と教育相談との関連を考える。
授業の 到達目標	(1) 教育相談の理論と手法を学ぶ。 (2) 幼児期の気になる子どもの理解と、教育的支援のあり方を学ぶ。 (3) 保護者支援のあり方を学ぶ。
授業計画	第1回 教育相談の意義 第2回 教育相談の理論 第3回 カウンセリングの姿勢と態度 第4回 発達理論と幼児理解 第5回 問題行動と観察 第6回 問題行動の兆候 第7回 保護者支援 第8回 専門機関との連携 定期試験
テキスト	特になし
参考文献	文部科学省『幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価』 ぎょうせい
評価方法	・レポート（2回分）＝20% ・定期試験＝80%
自己学習に 関する指針	講義で習った部分について復習し、質問や疑問等がある場合は、次の授業で質問するようにしてください。
履修上の 指導・留意点	

授業科目	子ども家庭支援の心理学						
担当教員	小村俊美						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M7020245
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	最近の保育所、幼稚園では保育、幼児教育はもちろんだが、それ以上に家庭問題や保護者対応が重要な位置を占めるようになった。現場職員にとってはその対応が大きなストレスになりつつある。この授業では要保護児童や発達障がいの子どもの児童、保護者に対する心理的アプローチを学ぶ。また演習を通して相談の技術的なスキルを身に付け、家族や本人への支援に役立てる基礎を学ぶ。
授業の到達目標	2年次の授業でもあり、より実践的な内容が必要と考えられるので次の3点を目標とする ①傾聴、共感等の基礎的な面接スキルを学ぶ ②そのスキルを応用できるようになる ③虐待、貧困、DV等に対する家族支援をソーシャルワーク的視点での相談を経験する
授業計画	第1回 子どもと家庭の支援の方法 第2回 要保護児童と家族の心理 第3回 発達障がいの子どもの家族支援（模擬支援会議） 第4回 自分の対人関係スキルの傾向を理解する 第5回 面接技術について 第6回 傾聴訓練 第7回 災害後の心理と試験要点整理 第8回 試験
テキスト	その都度講師の方から資料提供する
参考文献	必要に応じて講師から紹介する
評価方法	出席、試験で評価する
自己学習に関する指針	授業期間の中で、話題になっている児童福祉系の社会的事象について新聞記事から選び、レポートの提出を求める
履修上の指導・留意点	全てグループ形式での授業とする。授業回数が少ないので特に出席については評価に大きくかわるので留意されたい

授業科目	子どもの保健						
担当教員	前林英貴						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M7020247
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	現在の小児保健の現状と子どもの心身の健康増進を図る保健活動について学ぶ。保育専門職として、子どもの健康と評価方法を理解し、様々な疾患や障害、子どもの病気に特徴的な症状と保育者としての対応について知識を深める。そのために、成人とは違う子ども特有の生理機能・運動機能を学習しながら、現代社会における子どもの健康に関する現状と課題を踏まえ、母子保健・地域保健活動を通して、保育士の役割について考えていく。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解することができる 2. 子どもの身体発育、生理機能、運動機能の発達について理解することができる 3. 子どもの健康状態の把握と疾患の特徴や予防、適切な対応について理解することができる 4. 保健活動における地域連携と、多職種間の協働について理解することができる
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健活動の意義（母子保健の統計より） 2. 子どもの健康とその評価 3. 地域における保健活動（現状と課題）と児童虐待 4. 子どもの身体発育と計測方法 5. 生理機能の発達 「代謝・免疫」 6. 生理機能の発達 「呼吸・循環」 7. 生理機能の発達 「睡眠・排泄」 8. 運動機能の発達 9. 予防接種について 10. 子どもの疾患の症状とその対応（その①） 11. 子どもの疾患の症状とその対応（その②） 12. 子どもに多くみられる疾患「先天性疾患、神経系疾患」 13. 子どもに多くみられる疾患「心臓疾患、呼吸器疾患」 14. 子どもに多くみられる疾患「血液疾患、腎疾患、内分泌疾患」 15. 保健活動における連携 <p>定期試験</p>
テキスト	「子どもの保健 第7版 追補」 巷野悟郎編 診断と治療社
参考文献	講義に必要な資料を授業の中で紹介する
評価方法	期末試験 80%、レポート提出 20%で評価する
自己学習に関する指針	授業前にテキストの該当箇所を予習しておくこと
履修上の指導・留意点	

授業科目	子どもの食と栄養						
担当教員	長島美保子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義・演習・ 実習	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M7020220
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	子どもの健康な生活と食生活の意義や栄養に関する基本的知識を理解する。子供の発育・発達を踏まえた食生活について理解を深め、栄養教育（食育）の在り方について体験的に学ぶ。さらに、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題（食物アレルギー対応など）について学ぶ。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供の健康と食生活の意義を理解し、妊娠期・授乳期・乳児・離乳期・幼児期等ライフステージにおける成長発達に必要な栄養の摂り方を学ぶ。 ・ 保育所における食育の重要性を理解し、指導媒体を作成し実践する力をつける。 ・ 保育所給食の役割及び特別な配慮を要する子どもへの対応に関する知識と対処法を体得する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・子どもの健康と食生活の意義 (講義)</p> <p>第2回 小児の発育・発達と食生活 (講義・演習)</p> <p>第3回 栄養に関する基礎知識（基本的概念・栄養素・代謝） (講義・演習)</p> <p>第4回 栄養に関する基礎知識（食事摂取基準・献立作成・調理の基本） (講義・演習)</p> <p>第5回 妊娠期・授乳期の食生活 (講義・演習)</p> <p>第6回 乳児期の食生活（乳児期の栄養・離乳・食生活） (講義)</p> <p>第7回 幼児期の食生活（幼児期の栄養・食生活のあり方） (講義)</p> <p>第8回 学童期・思春期の心身の発達と食生活 (講義)</p> <p>第9回 食育の基本と内容（1）課題の把握と食育媒体作成 (演習)</p> <p>第10回 食育の基本と内容（2）食育媒体の作成 (演習)</p> <p>第11回 幼児期の食生活の問題への対応（食育の実際・演習） (演習)</p> <p>第12回 幼児期の食生活の問題への対応（食育の実際・演習） (演習)</p> <p>第13回 家庭や児童福祉施設における食事と栄養（1）保育所給食・おやつ・弁当等 (講義)</p> <p>第14回 家庭や児童福祉施設における食事と栄養（2）各自実習を発表・評価 (演習)</p> <p>第15回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (講義)</p> <p>定期試験</p>
テキスト	最新 子どもの食と栄養 出版社 学建書院 価格 2,400円＋税 編集 飯塚美和子・瀬尾弘子・曾根眞理枝・濱谷亮子
参考文献	必要に応じてプリントなどを配布する。 保育所における食事の提供ガイドライン（厚労省）・保育所におけるアレルギー対応ガイドライン（厚労省）
評価方法	レポート・ワークシート及び演習（50％） 定期筆記試験（50％）
自己学習に関する指針	子ども・保護者への食育の担い手となる保育士をめざす立場から、自分の食生活に関心を持ち、講義内容を日々の生活に生かそうとすること。次時の講義内容の予告に対する準備を心がけること。
履修上の指導・留意点	毎回、講義のまとめにミニレポートの提出を求める。班活動で食育指導媒体を作成して、模擬食育を行う。簡単な調理を課題として家庭で行い、レポートを提出する。

授業科目	教育保育課程論						
担当教員	渡辺一弘						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M7020260
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状《教職に関する科目》 ・教育課程及び指導法に関する科目 [教育課程の意義及び編成の方法] ○保育士資格						

授業の概要	幼稚園の教員免許取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」及び保育士資格の取得に必要な「保育の内容・方法に関する科目」に対応する科目である。本科目は、幼稚園・保育所の教育（保育）がどのような道筋をたどって進められるかを、全体的な計画を示す教育課程（保育課程）と、それを具体化した指導計画について、具体例を示しながら講義を行い、各自指導計画の内容を理解し、作成方法を学ぶことを目的とする。また、保育の省察および記録、保育者の自己評価についても理解し、保育専門職の実践力を学ぶ。
授業の到達目標	幼稚園における教育課程と、保育所における保育課程の意義と編成を理解し、教育課程と保育課程を具体化した指導計画を自分で作成できるようになり、保育の省察や記録、保育者の自己評価についても理解する。
授業計画	第1回 オリエンテーション、保育・教育課程の意義・基礎理論 第2回 保育の計画と評価の意義 第3回 PDCAサイクルによる保育の質の向上 第4回 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領にみる保育の計画 第5回 保育・教育課程と指導計画－母性的な保育者と子どもの主体性 第6回 指導計画の基本的視座 第7回 保育・教育課程の考え方 第8回 指導計画の考え方 第9回 保育・教育課程の編成と展開 第10回 指導計画の作成と展開 第11回 保育の省察および記録 第12回 保育者および保育施設における自己評価 第13回 保育の計画の再編成 第14回 入園から修了までの生活と発達の連続性をふまえた要録作成－未来を担う子ども達の育成 第15回 これからの教育保育課程と指導計画：保育の専門職化を目指して 定期試験
テキスト	『子どもの心によりそう保育・教育課程論 改訂版』佐藤哲也編、福村出版、2018年（2,268円）
参考文献	『幼稚園教育要領』文部科学省、フレーベル館、2017年（149円＋税） 『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館、2017年（149円＋税） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府、フレーベル館、2017年（149円＋税） 必要に応じてプリント等を配布する。
評価方法	定期試験 50%、小テスト 20%、レポート 20%、授業中の取り組み等 10%
自己学習に関する指針	積極的に授業に参加すること。
履修上の指導・留意点	欠席する場合、できる限り事前に連絡すること。

授業科目	教育方法論						
担当教員	渡辺一弘						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M7020250
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状《教職に関する科目》 ・教育課程及び指導法に関する科目 [教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む)] ○保育士資格						

授業の概要	本講義においては、先ず、学校教育の構造把握、教授・学習論、子ども理解、といった教育方法の基本的な部分を学ぶ。そしてそのことをふまえて、評価の問題、授業研究、学習指導案、教材づくり、学習形態といった実践的な部分を理解し、学校教育におけるコンピュータ活用の問題に関して、情報教育の理念や、学びの「参加」といった、学ぶことの権利について検討する
授業の到達目標	「学ぶ」とはどういうことなのか、またそのことによって、人間として成長・発達することをどのように捉えるのか、といった問題意識をもって、学習を指導するための方法・技術を学ぶ。
授業計画	第1回 オリエンテーション、学校教育の構造と教育方法学の課題 第2回 教育実践における子ども理解の方法 第3回 共感的要求としての指導的評価活動 第4回 授業研究の課題と構造 第5回 学習指導案の構想 第6回 学習形態の展開と教育的タクトの形成 第7回 情報活用能力の育成とコンピュータ利用授業の課題 第8回 「参加」としての学び 定期試験
テキスト	『教育方法の基礎と展開』岩垣攝、深澤広明編、コレール社、2005年(2,000円+税)
参考文献	必要に応じてプリント等を配布する。
評価方法	定期試験 60%、レポート 30%、授業中の取り組み等 10%
自己学習に関する指針	積極的に授業に参加すること。
履修上の指導・留意点	欠席する場合、できる限り事前に連絡すること。

授業科目	保育内容総論 I						
担当教員	渡辺一弘						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M7020343
免許資格 関連事項	<p>○幼稚園教諭二種免許状《教職に関する科目》 ・領域及び保育内容の指導法に関する科目 〔保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）〕</p> <p>○保育士資格</p>						

授業の概要	幼稚園の教員免許取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」及び保育士資格の取得に必要な「保育の内容・方法に関する科目」に対応する科目である。本科目は、先ず「保育内容」の概要を説明し、その後、基本的な「保育内容」についての状況や問題点等を講義、グループディスカッションなどを通して検討する。なるべく、最新の保育内容の現状についても取り上げる。
授業の到達目標	保育の目標である人間形成の基盤を培うために、必要とされる乳幼児生活の「保育内容」の概要と基本的な部分を理解することができるようになる。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、保育内容と保育の基本－幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領－</p> <p>第2回 保育内容の歴史的変遷</p> <p>第3回 子どもの発達の特徴と保育内容</p> <p>第4回 個と集団の発達と保育内容</p> <p>第5回 保育における観察と記録</p> <p>第6回 養護と教育が一体的に展開する保育</p> <p>第7回 環境を通して行う保育</p> <p>第8回 まとめ</p> <p>定期試験</p>
テキスト	『子どもの心によりそう保育内容総論 改訂版』佐藤哲也編、福村出版、2018年（2,100円＋税）
参考文献	<p>『幼稚園教育要領』文部科学省、フレーベル館、2017年（149円＋税）</p> <p>『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館、2017年（149円＋税）</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府、フレーベル館、2017年（149円＋税）</p> <p>必要に応じてプリント等を配布する。</p>
評価方法	定期試験 60%、レポート 30%、授業中の取り組み等 10%
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	幼児と健康						
担当教員	梶谷朱美						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M7020265
免許資格 関連事項	<p>○幼稚園教諭二種免許状《教職に関する科目》</p> <p>・領域及び保育内容の指導法に関する科目 〔領域に関する専門的事項（健康）〕</p> <p>○保育士資格</p>						

授業の概要	<p>保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「健康」領域を理解し、健康な心と体を育てるために子どもの心身の発達、運動発達、健康・安全管理について学修する。健康管理や安全教育に関する内容では、健康で安全な生活を営む力を身につける保育・教育のあり方を学修すると共に、子どもの生活リズムと睡眠、生活習慣の形成や病気の予防、安全への配慮、子どもの事故の対応について理解を深める。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「健康」領域についてのねらいと内容について理解することができる。</p> <p>(2) 子どもの身体発達、運動発達等について特徴と意義を理解することができる。</p> <p>(3) 子どもの健康管理や安全教育に関わる指導の観点について理解することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 保育指針・教育要領・教育保育要領にみる、領域「健康」のねらいと内容</p> <p>第2回 子どもの健康をめぐる現状と課題や健康の定義、意義</p> <p>第3回 子どもの体の諸機能発達と特徴</p> <p>第4回 子どもの遊びの意義と運動遊び</p> <p>第5回 子どもの生活リズムと睡眠、食、排泄</p> <p>第6回 子どもの生活習慣の形成及び病気の予防</p> <p>第7回 子どもの事故、事故とその処置及び安全への配慮とけがの予防</p> <p>第8回 子どもの健康に関する課題と展望 家庭との連携（保護者理解と支援） まとめ</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省「幼稚園教育要領」 ・厚生労働省「保育所保育指針」 ・内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 ・梶谷朱美編著『学生と保育者のための運動遊びハンドブック』今井出版、2019年、1200円
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてプリントなどを配付
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート（100%）：毎回課題レポートを実施し、授業内容の理解、修得度を評価する。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	保育内容・健康の指導法						
担当教員	梶谷朱美・藤原洋子						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M7020273
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状《教職に関する科目》 ・領域及び保育内容の指導法に関する科目 ○保育士資格						

授業の概要	<p>保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「健康」領域を理解し、子ども自ら多様な活動に意欲的に取り組み、健康で安全な生活をつくり出し、生活を営む力を身につけていく保育・教育のあり方を学ぶ。授業では模擬保育とその振り返りを通して保育を構想する方法を身に付ける。また、模擬保育に必要な指導案作成や保育指導で有効な情報機器及び教材の活用法も理解し、授業内のみならず教育実習や就職後を見据えた活用の仕方について理解を深める。</p>
授業の 到達目標	<p>(1) 保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「健康」についてのねらい及び内容を理解し、子どもが経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を修得することができる。</p> <p>(2) 子どもの発達や学びの過程を理解し、領域「健康」について具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につけることができる。</p>
授業計画	<p>第1回 子どもの健康をめぐる現状と課題 (担当：藤原) 第2回 領域「健康」のねらいと内容理解と 運動遊びの理論と指導法及び評価の考え方(教材研究含む) (1) (担当：藤原) 第3回 子どもの基本的な生活習慣の形成(教材研究を含む) 生活リズムと睡眠、食など(担当：藤原) 第4回 子どもの健康と安全(教材研究を含む) 安全への配慮と指導・援助(担当：藤原) 第5回 運動遊びの理論と指導法及び評価の考え方(教材研究・指導案作成含む) (2) 保育者の観点を中心として(担当：梶谷) 第6回 運動遊びの実践と指導援助の検討(模擬保育を含む) (1) 鬼あそび・伝承あそび(担当：梶谷) 第7回 運動遊びの実践と指導援助の検討(模擬保育を含む) (2) 大型遊具・固定遊具(担当：梶谷) 第8回 運動遊びの実践と指導援助の検討(模擬保育を含む) (3) 歩、走のあそび・手具 及び、子どもの健康に関する課題・展望とまとめ(担当：梶谷)</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省「幼稚園教育要領」 ・厚生労働省「保育所保育指針」 ・内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 ・池田裕恵編『子どもの元気を取り戻す 保育内容「健康」』杏林書院、2011年、2000円 予定
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてプリントなどを配付
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート(100%)：毎回課題レポートを実施し、授業内容の理解、修得度を評価する。
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	幼児と人間関係						
担当教員	小林美沙子						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M7020276
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状 ・領域及び保育内容の指導法に関する科目 〔人間関係〕 ○保育士免許						

授業の概要	領域「人間関係」の指導の基盤となる関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団の中で幼児期の人とかかわる力が育つことを理解させる。そのため、幼児期の人間関係の発達の姿が具体的にイメージしやすい様に、協同性の育ち、道徳性・規範意識の育ち、など具体的な事例を基に理解を深めていく。
授業の到達目標	現代の幼児の人間関係に影響を与えている社会的要因について関心をもち、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識への理解を深める。特に、領域「人間関係」の指導の基盤となる他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。
授業計画	第1回 現代社会と幼児の人間関係 第2回 3歳未満児における人とかかわり ー身近な大人との関係を基盤として育つ姿 第3回 3歳児の発達と人とかかわり ー保育者との関係を基盤として 第4回 4歳児の発達と人とかかわり ー友だち関係の広がり 第5回 5歳児の発達と人とかかわり ー友だち関係の深まり 第6回 幼児期の協同性の育ち 第7回 幼児期の道徳性・規範意識の育ち 第8回 幼児期に育みたい資質・能力と人間関係 定期試験
テキスト	・「社会情動的スキルを育む「保育内容人間関係」：乳幼児期から小学校へつなぐ非認知能力とは」無藤隆・古賀松香（著），北大路書房，2016年 ・「幼稚園教育要領解説 平成30年3月」文部科学省（著），フレーベル館，2018年
参考文献	・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月」内閣府・文部科学省・厚生労働省（著），フレーベル館，2018年
評価方法	①授業内課題（50%） 提出物：毎授業終了後に提出するミニットペーパー，ワークシート等 取り組み姿勢：グループワークへの積極的な参加等 ②定期試験（50%）：筆記試験
自己学習に関する指針	・配布資料および授業中に紹介した参考文献を読み、復習に役立てること。
履修上の指導・留意点	

授業科目	保育内容・人間関係の指導法						
担当教員	小林 美沙子						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M7020283
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状 ・領域及び保育内容の指導法に関する科目 [保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)] ○保育士免許						

授業の概要	幼稚園教育要領において育みたい資質・能力について理解し、乳幼児が人との豊かなかかわりを育ていくための保育のあり方について学びを深める。そのため、幼稚園教育要領の内容を把握するとともに、乳幼児期における人間関係の発達の道筋を理解することを目指す。また、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を構想する方法を習得することを目指す。
授業の到達目標	幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、幼稚園教育において育みたい資質・能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。また、背景となる専門領域と関連した内容について理解を深め、幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」にかかわる様々な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。
授業計画	第1回 領域「人間関係」のねらい及び内容 第2回 自立心を育む援助 第3回 ルールのある遊びと保育者の援助 第4回 いざこざを通して育つ人とのかかわりと保育者の援助 第5回 人とのかかわりや遊びを広げる保育の環境 —デジタルカメラを活用したポートフォリオを中心に 第6回 協同的な遊びの中で育ちあう長期的な保育の展開を考える 第7回 小学校以降の生活や学習で活かされる力 —「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を軸に幼小接続期を考える 第8回 領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題
テキスト	・「幼稚園教育要領解説 平成30年3月」文部科学省(著), フレーベル館, 2018年
参考文献	・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月」内閣府・文部科学省・厚生労働省(著), フレーベル館, 2018年 ・「社会情動的スキルを育む「保育内容人間関係」: 乳幼児期から小学校へつなぐ非認知能力とは」無藤隆・古賀松香(著), 北大路書房, 2016年
評価方法	①授業内課題(60%) 提出物: 毎授業終了後に提出するミニットペーパー, 授業内製作課題(発表資料等) 取り組み姿勢: グループワーク, 製作活動への積極的な参加等 ②期末課題(40%): 期末レポート
自己学習に関する指針	・配布資料および授業中に紹介した参考文献を読み、復習に役立てること。
履修上の指導・留意点	

授業科目	幼児と環境						
担当教員	小林 美沙子						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M7020286
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状 ・領域及び保育内容の指導法に関する科目 〔保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）〕 ○保育士免許						

授業の概要	領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、幼児期の発達に合わせた教育内容を考える上で必要な知識・技能を身に付けることを目指す。特に領域「環境」の指導の基盤となる、現代の幼児を取り巻く環境とその現代的課題、幼児と身近な環境との関わりの発達等について理解することを目指す。
授業の 到達目標	領域「環境」の指導の基盤となる、幼児を取り巻く環境と幼児の発達におけるそれらの重要性について理解する。また、幼児期の思考・科学的概念の発達や標識・文字等の関わりの発達について理解する。
授業計画	第1回 現代社会の幼児を取り巻く環境とその課題 第2回 乳幼児期の発達における環境との関わり 第3回 乳幼児期・児童期の認知的発達 第4回 乳幼児の自然との関わり① ー身近な自然との関わり 第5回 乳幼児の自然との関わり② ー自然物を取り入れた遊び 第6回 乳幼児期の標識・文字等との関わり① ー生活の中の標識・文字を探そう 第7回 乳幼児期の標識・文字等との関わり② ー環境マップの作成 第8回 乳幼児期の標識・文字等との関わり③ ー環境マップの発表
テキスト	・「幼稚園教育要領解説 平成30年3月」文部科学省（著），フレーベル館，2018年
参考文献	・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月」内閣府・文部科学省・厚生労働省（著），フレーベル館，2018年 ・「乳幼児教育・保育シリーズ 保育内容・環境」神長美津子・掘越紀香・佐々木晃（編著），光生館，2018年
評価方法	①授業内課題（60%） 提出物 ：毎授業終了後に提出するミニットペーパー，授業内製作課題（環境マップ等） 取り組み姿勢：グループワーク，製作等の積極的な参加 ②期末課題（40%）：期末レポート
自己学習に 関する指針	・配布資料および授業中に紹介した参考文献を読み、復習に役立てること。
履修上の 指導・留意点	

授業科目	保育内容・環境の指導法						
担当教員	小林美沙子						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M7020293
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状 ・領域及び保育内容の指導法に関する科目 [保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)] ○保育士免許						

授業の概要	幼稚園教育要領において育みたい資質・能力について理解し、幼児が自ら環境と関わり成長していくための保育のあり方について学びを深める。そのため、幼稚園教育要領の内容を把握するとともに、幼児を取り巻く環境への理解、幼児が環境と関わる中で深い学びが実現する過程について理解することを目指す。また、幼児の発達に即し、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を習得することを目指す。
授業の到達目標	現代の幼児を取り巻く環境を踏まえ、幼稚園教育要領に示される領域「環境」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解する。また、領域「環境」にかかわる様々な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身に付ける。
授業計画	第1回 領域「環境」のねらい及び内容 第2回 幼児期にふさわしい環境と環境構成の実際 —デジタルカメラやテレビなど情報機器を活用した環境構成の実際を含む 第3回 標識・文字等に関わる保育の実際 第4回 数量・図形等に関わる保育の実際 第5回 身近な素材や自然環境を用いた保育の実際① —計画の立案 第6回 身近な素材や自然環境を用いた保育の実際② —模擬保育 第7回 身近な素材や自然環境を用いた保育の実際③ —保育の評価・改善 第8回 環境にかかわる現代的課題
テキスト	・「幼稚園教育要領解説 平成30年3月」文部科学省(著), フレーベル館, 2018年
参考文献	・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成30年3月」内閣府・文部科学省・厚生労働省(著), フレーベル館, 2018年 ・「乳幼児教育・保育シリーズ 保育内容・環境」神長美津子・掘越紀香・佐々木晃(編著), 光生館, 2018年
評価方法	①授業内課題(60%) 提出物 : 毎授業終了後に提出するミニットペーパー, 授業内製作課題 取り組み姿勢: グループワーク, 製作活動への積極的な参加 ②期末課題(40%): 期末レポート
自己学習に関する指針	・配布資料および授業中に紹介した参考文献を読み、復習に役立てること。
履修上の指導・留意点	

授業科目	幼児と言葉						
担当教員	中井 悠加						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M7020296
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状《教職に関する科目》 ・領域及び保育内容の指導法に関する科目 ○保育士資格						

授業の概要	<p>幼児教育において扱う絵本、童話、昔ばなし、紙芝居などの児童文化財の意義について理解を深めた上で、実践することで絵本選定および読み聞かせの方法や昔ばなしの語り方を学ぶ。また、わらべうた・口頭詩・詩創作を通じて言葉の楽しさや美しさに気づき、幼児期の言語発達を踏まえた豊かな実践を考案し、実施する。</p>
授業の到達目標	<p>(1)人間にとっての言葉の意義と機能について理解している。(2)子どもの言葉を育む実践についての基礎的な知識を身に付け、実践を考案できる。 (3)子どもにとっての児童文化材についての理解を深め、実践考案に活用できる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：人間と言葉について 第2回 乳幼児の言葉の発達過程について 第3回 絵本の選定と読み聞かせ・ブックトーク 第4回 口頭詩とわらべうた：ことばあそびと詩的機能 第5回 絵本にかわる物語体験：ペープサート 第6回 創作絵本の読み聞かせ実践 第7回 創作紙芝居の実践 第8回 創作ペープサートの実践</p>
テキスト	<p>文部科学省・厚生労働省・内閣府編 2017, 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』フレーベル館。</p>
参考文献	<p>小田豊・芦田宏編著 2009, 『新 保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る 保育内容 言葉』北大路書房 無藤隆監修 2017, 『イラストたっぷり やさしく読み解く 幼保連携型認定こども園教育・保育要領ハンドブック』学研 無藤隆監修 2017, 『イラストたっぷり やさしく読み解く 幼稚園教育要領ハンドブック』学研 汐見稔幸監修 2017, 『イラストたっぷり やさしく読み解く 保育所保育指針ハンドブック』学研 その他、授業中に随時紹介する</p>
評価方法	<p>到達目標(1)の評価：期末課題(15%)、演習課題・小レポート(20%) 到達目標(2)の評価：期末課題(15%)、演習課題・小レポート(20%) 到達目標(3)の評価：期末課題(20%)、演習課題・小レポート(10%)</p>
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	保育内容・言葉の指導法						
担当教員	中井 悠加						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M7020313
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状《教職に関する科目》 ・領域及び保育内容の指導法に関する科目 ○保育士資格						

授業の概要	<p>幼稚園教育要領と保育所保育指針における領域「言葉」の内容に基づき、「環境を通して行われる保育」の原理をふまえ、乳幼児期の言葉の発達についての知識、集団生活や遊びを通じて言葉を育むうえでの保育者の役割、小学校の国語教育との接続のあり方、児童文化財の特徴や活用方法など、子どもの言葉を育むために実践される保育内容の指導法を理論や実践事例から学び、教材研究を行う。</p> <p>そして、授業で学んだ知識を総合して、子どもの発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた保育指導案を作成した上で模擬授業を行う。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 領域「言葉」の内容に基づき、子どもの言葉を育む保育のあり方を考え、そこでの保育者の役割や子どもへの援助・指導の方法を具体的に考えられるようになる。(2) 子どもの言葉を育む活動の考案や保育指導案の検討/作成ができるようになる。</p> <p>(3) 小学校「国語」への接続のあり方など、子どもの言葉の育ちをめぐる課題についての理解を深め、保育者に求められる視点を身につける。</p>
授業計画	<p>第1回 領域「言葉」について 第2回 幼児の言葉の発達と保育 第3回 幼児の言葉をどのように見るか 第4回 幼児の言葉を育むことと小学校「国語科」との接続 第5回 保育における絵本の活用：教材研究① 第6回 保育における児童文化財の活用：教材研究② 第7回 領域「言葉」の指導計画と模擬保育 第8回 授業のまとめ：言葉の育ちに関わる諸問題</p>
テキスト	<p>文部科学省・厚生労働省・内閣府編 2017, 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』フレーベル館。</p>
参考文献	<p>小田豊・芦田宏編著 2009, 『新 保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る 保育内容 言葉』北大路書房 無藤隆監修 2017, 『イラストたっぷり やさしく読み解く 幼保連携型認定こども園教育・保育要領ハンドブック』学研 無藤隆監修 2017, 『イラストたっぷり やさしく読み解く 幼稚園教育要領ハンドブック』学研 汐見稔幸監修 2017, 『イラストたっぷり やさしく読み解く 保育所保育指針ハンドブック』学研 その他、授業中に随時紹介する</p>
評価方法	<p>到達目標(1)の評価：期末課題(15%)、演習課題・小レポート(20%) 到達目標(2)の評価：期末課題(15%)、演習課題・小レポート(20%) 到達目標(3)の評価：期末課題(20%)、演習課題・小レポート(10%)</p>
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	幼児と表現						
担当教員	渡邊寛智、福井一尊						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M7020316
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状《教職に関する科目》 ・領域及び保育内容の指導法に関する科目 ○保育士資格						

授業の概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針、及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の中の領域「表現」の位置と意義及び歴史的経緯、発達に即した援助の具体的な方法、子どもの表現活動への発達の・特質的・心理的アプローチ、幼児教育における表現指導の課題など、現場における「幼児と表現」の専門的事項に直結する内容を扱う。その際、豊かな人間性の基盤となる創造する喜び、表現活動を愛好する心情を養う。
授業の到達目標	(1) 子どもの表現活動の発達段階について理解する。 (2) 保育環境と表現活動を結びつけて捉える力をつける。 (3) 子どもの表現活動の多様性を観る目を育てる。
授業計画	第1回 幼児教育における専門的事項「表現（音楽）」について（担当：渡邊） 第2回 表現と発達―「話す」、「聴く」、「歌う」、「身体表現」（担当：渡邊） 第3回 保育環境と音楽的表現活動（担当：渡邊） 第4回 音楽的表現活動の多様性（担当：渡邊） 第5回 幼児教育における専門的事項「表現（造形）」について（担当：福井） 第6回 子どもの表現活動へのアプローチ（担当：福井） 第7回 保育環境と表現活動（担当：福井） 第8回 幼児教育における表現指導の課題（担当：福井） 定期試験
テキスト	特になし（適宜資料を配布するので、保存用A4クリアファイルを準備すること。）
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領』 厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 『平田智久他編著 保育内容「表現」』ミネルヴァ書房 他授業の中で適宜紹介する。
評価方法	授業ノート40%、提出物40%、定期試験20%
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	保育内容・表現の指導法 I						
担当教員	渡邊 寛智						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M7020333
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状《教職に関する科目》 ・領域及び保育内容の指導法に関する科目 ○保育士資格						

授業の概要	<p>人はコミュニケーションを行動や言葉により行っている。子どもは日常生活の中において常に表現者である。しかし、その表現は大人の表現とは違い、自由で創造的なものである。保育者はその子どもの表現をどう受け止めるのが重要である。子どもの表現を理解し、共有することで自身の表現の豊かさや子どもの表現の多様性に繋がっていく。</p> <p>以上のことから、保育内容における5領域の中のひとつ「表現」について、音楽に関わる内容を通して年齢や地域、文化などによる多様な「表現」の相違についての理解を深める。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 子どもの多種多様な表現行動を理解することで「表現」の多様性を理解する。 (2) 子どもの表現を共有し、その表現の意図を理解することができる。 (3) 自己表現力を高めることで、子どもの音楽的発達を助け、表現活動の教材研究を考えることができる。</p>
授業計画	<p>第1回 表現とは何かー5領域の中の理解と位置づけ 第2回 表現と発達①ー「話す」 第3回 表現と発達②ー「聴く」 第4回 表現と発達③ー「歌う」 第5回 表現と発達④ー「身体表現」 第6回 グループによる音楽的表現活動の実践演習に向けたグループワーク① 第7回 グループによる音楽的表現活動の実践演習に向けたグループワーク② 第8回 グループによる音楽的表現活動の実践演習に向けたグループワーク③ 第9回～第11回 グループによる音楽的表現活動の実践演習/ディスカッション ◎実践演習では、グループメンバーが保育者となり受講生を子どもに見立てて約15分程度のロールプレイ活動を行います。 第12回 音楽表現の子どもの事例ーディスカッション 第13回～第15回 創作 うた遊びの実践 ※毎回、子どもの歌や手遊びの紹介を行う ※時期や内容が若干異なる場合もあります</p>
テキスト	その他、適宜資料プリントを配布
参考文献	『音楽する子どもをつかまえないー実践研究者とフィールドワーカーの対話』 小川容子、今川恭子 共著 ふくろう出版
評価方法	実技課題 (50%)、定期筆記試験 (50%)
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	保育内容 表現の指導法Ⅱ						
担当教員	川路澄人						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M7020336
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状《教職に関する科目》 ・教育課程及び指導法に関する科目 [保育内容の指導法] ○保育士資格						

授業の概要	<p>本講義では幼稚園教育要領における表現領域（造形）の内容について体験的に理解するとともに、造形表現の支援方法や教材作り及び保育構想の方法について解説を行う。受講生は様々な造形活動への基礎的理解を実際の素材体験や造形活動を通して学び、その経験を活かして保育構想を演習形式で検討していく。基礎理解の実習や演習課題に対しては相互鑑賞と相互評価を行い、実際の幼児の造形に対する評価の仕方やその基盤となる考え方について理解を深める。演習の中では情報機器を、幼児にとって興味関心のわく、分かりやすい教材の提示や教師側にとっては造形活動の記録をとることに活用する。</p>
授業の 到達目標	<p>【到達目標】以下の3点を目標とする。</p> <p>a. 幼児教育における造形表現（色と形、立体と平面、多様な素材、視覚と触覚等）の重要性について理解する。（幼児・児童の発達理解、保育内容に関する基礎知識と指導法）</p> <p>b. 表現活動を支援する為のスキル、環境づくり、働きかけ、評価の方法を習得する。（保育環境構成力、問題意識・探求）</p> <p>c. 仮設定保育の中で、幼児に表現するために必要な造形への興味・関心・意欲を高める保育構想と模擬保育を行う力、さらに情報機器を使った教材開発力を身につける。（保育構想力・保育実践力）</p>
授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション 幼稚園教育要領における造形表現の概要について解説</p> <p>第2回 幼児の造形活動①（身近な素材を扱った造形活動）新聞紙遊び</p> <p>第3回 幼児の造形活動②（粘土を使った造形活動）土ダンゴづくりとダンゴ遊び</p> <p>第4回 幼児の造形活動に対する基礎理解①（色紙を使った見立てについて）ちぎって、はって、見立てて</p> <p>第5回 幼児の造形活動に対する基礎理解②（子どもの描画表現と発達）</p> <p>第6回 幼児の造形活動③（絵具を使った表現活動）フィンガーペインティング</p> <p>第7回 造形表現演習課題①-1 動くオモチャ作り（オモチャの動力を考えた教材開発）</p> <p>第8回 造形表現演習課題①-2 動くオモチャ作り（オモチャの動力を考えた教材開発）</p> <p>第9回 造形表現演習課題①-3 フィンガーペインティングで作った大きな模造紙を使った衣装作り</p> <p>第10回 造形表現演習課題①-4 ファッションショー（写真+VTR撮影）</p> <p>第11回 造形表現演習課題②-1 タブレットやプロジェクターを活用した指人形劇の企画・保育案作成</p> <p>第12回 造形表現演習課題②-2 指人形づくり（粘土による造形）</p> <p>第13回 造形表現演習課題②-2 指人形づくり（粘土への着色）</p> <p>第14回 造形表現演習課題②-3 指人形劇の発表・鑑賞会</p> <p>第15回 講義のまとめ 課題のデジタルポートフォリオ作りと子どもの造形表現に関するまとめ 定期試験</p>
テキスト	<p>幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）</p> <p>保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成26年4月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）</p>
参考文献	
評価方法	<p>講義中に制作する課題やその活動内容（80%）</p> <p>レポート（20%）</p>
自己学習に 関する指針	<p>講義中に出された課題については、各自で次時まで完成させて出席すること。</p>
履修上の 指導・留意点	<p>グループでの保育案作成、表現活動の実践があるので、積極的に参加すること。</p>

授業科目	保育内容総論Ⅱ						
担当教員	渡辺一弘						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M7020345
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状≪教職に関する科目≫ ・領域及び保育内容の指導法に関する科目 ○保育士資格						

授業の概要	幼稚園の教員免許取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」及び保育士資格の取得に必要な「保育の内容・方法に関する科目」に対応する科目である。本科目は、1年次の「保育内容Ⅰ」を受けて行うものである。「保育内容」の基本的な部分を基に、応用的な部分を説明し、その全体像を理解させる。その後、現場における、具体的な「保育内容」についての状況や問題点等を講義、グループディスカッションなどを通して検討する。なるべく、最新の保育内容の現状についても取り上げる。
授業の到達目標	保育の目標である人間形成の基盤を培うために、必要とされる乳幼児生活の「保育内容」の基本的な部分を基に、応用的な部分と、その全体像を理解することができるようになる。
授業計画	第1回 オリエンテーション、遊びによる総合的な保育 第2回 生活や発達の連続性に考慮した保育 第3回 家庭・地域・小学校との連携を踏まえた保育 第4回 乳児保育 第5回 長時間保育と保育の現代的な課題 第6回 特別な支援を必要とする子どもの保育 第7回 多文化共生の保育、いのちを大切に作る心をはぐくむ保育 第8回 まとめ 定期試験
テキスト	『子どもの心によりそう保育内容総論 改訂版』佐藤哲也編、福村出版、2018年(2,100円+税)
参考文献	『幼稚園教育要領』文部科学省、フレーベル館、2017年(149円+税) 『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館、2017年(149円+税) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府、フレーベル館、2017年(149円+税) 必要に応じてプリント等を配布する。
評価方法	定期試験 60%、レポート 30%、授業中の取り組み等 10%
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	子どもの健康と安全						
担当教員	前林英貴・竹原康江						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M7020347
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>子どもの保健で学習した知識や理論を踏まえ、実際の保育現場や保健活動の場において活用するための基礎的知識と技術を習得する。また、乳幼児の基本的な健康及び成長発達の観察方法と評価方法についても習得する。子どもの疾病や事故の特徴とその予防、災害時の備えについての基礎知識をもとに、適切に対応するための技術を習得し、保健活動の計画及び評価、子どもの心とからだの健康問題や地域保健活動等について、グループワークを通して理解を深める。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価することができる 2. 子どもの健康や心身の発育・発達を促す保健活動や環境について説明することができる 3. 子どもの疾病とその予防及び適切な対処方法やアセスメント方法を実施することができる 4. 保育現場における救急時の対応や事故防止、安全管理について説明することができる 5. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動について理解することができる
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育における保健活動 (1) 保健計画と評価、安全・衛生管理 【前林】 2. 保育における保健活動 (2) 健康診断、身体計測と発達評価 【前林】 3. 保育における保健活動 (3) バイタルサインの測定と健康状態の観察・評価 【前林】 4. 生活習慣と養護 (1) 抱き方、衣服の着せ方、寝かせ方、排泄方法等 【前林】 5. 生活習慣と養護 (2) 乳首の選び方、調乳と授乳、排気、離乳食の進め方 【前林】 6. 生活習慣と養護 (3) 沐浴、保清、スキンケア、口腔ケア 【前林】 7. 実技評価 【前林】 8. 地域連携の取組 【竹原】 9. 子どもの疾病とその対応 (1) 感染症の予防と対応 【前林】 10. 子どもの疾病とその対応 (2) 保育における看護、薬の投与方法 【前林】 11. 子どもの疾病とその対応 (3) 個別に配慮を必要とする子どもへの対応 【前林】 12. 子どもの事故防止と応急処置 (1) 救急への要請、心肺蘇生法とAED 【前林】 13. 子どもの事故防止と応急処置 (2) 事故防止、傷害時の応急処置 【前林】 14. 実技評価 【前林】 15. 地域保健活動 災害時への備え 【前林】 <p>定期試験</p>
テキスト	「これならわかる！子どもの保健演習ノート 改訂第3版」 榊原 洋一 診断と治療社
参考文献	演習に必要な資料を授業の中で紹介する
評価方法	期末試験 60%、実技テスト 20%、課題レポート 20%で評価する
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	乳児保育 I						
担当教員	前林英貴						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M7020353
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	乳児期は人間形成の基礎ができる重要な時期である。乳児を取り巻く環境を踏まえ、乳児保育の歴史の変遷や母子保健の統計から現状を理解する。保育所や乳児院で乳児保育（3歳未満児）を担当する保育士として、必要な保育の理論や知識、技術的な基本スキルについて学ぶ。乳幼児期（3歳未満児）の成長や発達、生活、遊び、環境、保健等についての基本的な知識を身に付けるとともに、低年齢児の保育の概念と意義、発達段階に応じた保育者としての関わりについて学びを深める。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の理念と変遷及び役割について理解することができる 2. 3歳未満児の発育・発達について学び、3歳未満児の生活や遊びについて理解することができる 3. 保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解することができる 4. 乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、観察や記録について理解することができる 5. 乳児保育における保護者や関係機関との連携について理解することができる
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の理念と歴史の変遷及び役割 2. 乳児保育の現状と課題 3. 新生児の特徴 4. おおむね6ヵ月未満の保育 5. おおむね6ヵ月から1歳3ヵ月未満の保育 6. おおむね1歳3ヵ月から2歳未満の保育 7. おおむね2歳の保育 8. 乳児保育の環境 (1) 家庭における子育て 9. 乳児保育の環境 (2) 保育所における乳児保育 10. 乳児保育の環境 (3) 乳児院等 11. 乳児保育の計画 12. 乳児保育における保健活動 (乳児の病気と事故) 13. 乳児保育における連携 14. 乳児保育の内容 (グループワーク 手作りおもちゃの企画) 15. 乳児保育の内容 (グループワーク 手作りおもちゃの作成) 定期試験
テキスト	「やさしい乳児保育」 早川悦子・池田りな・伊藤輝子編 青踏社
参考文献	「保育所保育指針」 その他適宜プリント資料を配布
評価方法	期末試験 80%、グループワーク 20%で評価する
自己学習に関する指針	授業前にテキストの該当箇所を予習しておくこと
履修上の指導・留意点	

授業科目	乳児保育Ⅱ						
担当教員	青山啓子						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M7020356
免許資格 関連事項	保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 乳児期は、人間形成の基礎ができる重要な時期である。乳児を取り巻く環境を踏まえ、乳児期（3歳未満児）の成長や発達、生活、遊び、環境、保健等についての基本的な知識を身に付けるとともに、乳児保育の歴史の変遷や母子保健の統計から現状を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 保育所やこども園や乳児院での乳児保育（3歳未満児）を担当する保育士として、必要な保育の理論や知識、技術的な基本スキルについて学ぶ。低年齢児の保育概念と意義、保育者としての関わりについて演習を通して学ぶ。</p>
授業の到達目標	<p>[達成目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の理念と変遷及び役割について理解することができる。 2. 保育所、こども園、乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解することができる。 3. 3歳未満児の発育・発達について学び、3歳未満児の生活や遊びについて理解することができる。 4. 乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、観察や記録について理解することができる。 5. 乳児保育における保護者や関係機関との連携について理解することができる。
授業計画	<p>第1回 乳児保育の現状と課題 第2回 子どもの体験と学びの芽生え 第3回 子どもの1日の流れと保育の環境 第4回 1歳3ヶ月未満の保育 第5回 1歳3ヶ月から3歳未満の保育 第6回 保育の計画（グループワーク） 第7回 乳児保育における保健活動（健康状態の把握） 第8回 乳児保育における保健活動（乳児の病気と事故） 定期試験</p>
テキスト	「やさしい乳児保育」早川悦子・池田りな・伊藤輝子編 青踏社
参考文献	「保育所保育指針」 その他適宜プリント資料を配布
評価方法	期末試験 80%、グループワーク 20%で評価する
自己学習に関する指針	授業前にテキストの該当箇所を予習しておくこと
履修上の指導・留意点	演習時は動きやすく清潔な服装、身だしなみ（髪型、服装、化粧、爪等）に配慮して参加すること。備品の取り扱いに注意し、汚したり破損しないようにする。準備、洗浄、後片付けは各自責任を持って行うこと。

授業科目	障害児保育 I						
担当教員	小脇洋 相原晴美 門脇志真						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M7020360
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	「障害児保育 I」では、幼児期から就学前までの障がい児保育について、保育現場における具体的支援方法を概説する。また、「障がい」があるなしにかかわらず、なんらかの支援を必要とする子どもの実態や支援の実際、及び松江市の取り組みなどを知り支援体制の在り方や関係機関との連携の仕方等基本的なことを学習する。
授業の 到達目標	○「障がい」の概要を学ぶ。 ○障がい児保育の実態や問題を知り、より良い支援を学ぶ。 ○松江市の特別支援教育の流れや支援体制を知る。
授業計画	第1回 「障がい」について 概要と演習 第2回 保育所(園)、幼稚(保)園における「気にかかる子ども」の困りについて 第3回 保育所(園)、幼稚(保)園における支援の在り方について 第4回 保育所(園)、幼稚(保)園における支援の具体的な方法について 第5回 松江市の特別支援教育について 第6回 小学校への移行について 第7回 発達・教育相談支援センター[エスコ]について(見学と講話) 第8回 授業のまとめ及び筆記試験 ※第2～7回の順番については、講師・会場の都合により変更の可能性あり
テキスト	テキストは使用せず、適宜プリントを配布する。
参考文献	必要に応じてプリントなどを配布
評価方法	演習課題(出席・態度等含む)(50%) 筆記試験(50%)
自己学習に 関する指針	配布資料を復習に役立てる。
履修上の 指導・留意点	欠席する場合、できるかぎり事前に連絡をする。

授業科目	障害児保育Ⅱ						
担当教員	曾田裕子						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M7020370
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	様々な障がいの基本的な知識や支援内容、方法について学習する。その上で、事例を通して一人一人の特性や育ち、困り感について理解を深め、個に応じた支援について考える。同時に、障がいのある子どもと周りの子どもとの関わり方、育ち合いに目を向け、保育者に求められる姿勢、支援のあり方について理解を深める。また、子どもの実態や困り感を基に、個別指導計画の立て方、家庭や関係機関との連携の仕方について学び、一人一人の子どもの特性やニーズに応じた支援のできる実践者を目指す。
授業の到達目標	<p>(1) 障がい児保育を支える理念と基本について理解する。</p> <p>(2) 様々な障がいの特性や支援内容、方法について理解する。</p> <p>(3) 障がいのある子どもと周りの子どもの育ち合いを促す保育者の姿勢、支援について考える。</p> <p>(3) 個別指導計画の作成に当たって、様々な要因を考慮し総合的な視点から目標や支援内容について検討することができる。</p> <p>(4) 保護者支援や連携、関係機関との連携・協働について理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 障がい児保育を支える理念と基本</p> <p>第2回 障がいの理解と支援 ～肢体不自由について～</p> <p>第3回 障がいの理解と支援 ～知的障がいについて～</p> <p>第4回 障がいの理解と支援 ～自閉症スペクトラム障がいについて～</p> <p>第5回 障がいの理解と支援 ～ADHD、LDについて～</p> <p>第6回 保護者の思いに寄り添う支援、園内体制、専門機関との連携について</p> <p>第7回 個別指導計画の作成</p> <p>第8回 個別指導計画の発表、まとめ</p>
テキスト	「障害児保育」 鯨岡 峻 編 ミネルヴァ書房 (2014)
参考文献	<p>○「発達障害のある子の理解と支援」 宮本信也 監修 園山繁樹、下泉秀夫、三隅輝見子、宮本信也執筆 母子保健事業団</p> <p>○「発達が気になる子の個別の指導計画」 監修・執筆 酒井幸子、田中康雄 学研</p> <p>○「保育者のための障害児保育—理論と実践」 尾野明美 編著 萌文書林</p>
評価方法	課題レポート(60%)、小テスト(40%)で評価する。
自己学習に関する指針	事前学習では、次の講義で行われる内容についてテキストを読んでおくこと。 事後学習では、テキストや配布資料等を用いて復習すること。
履修上の指導・留意点	授業にはグループワークを取り入れるので、自分の考えをもち積極的に協議に参加すること。

授業科目	社会的養護Ⅱ						
担当教員	藤原映久						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M7020136
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 社会的養護の場における子どもたちの安心・安全の確保に必要な考え、知識、技術を理解することを目的とする。具体的には、権利擁護の考えや養護の専門的な知識、技術を学び、社会的養護の現場で生じている実際的な課題とその対処法に関して理解することをねらう。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 社会的養護の実際は、児童福祉施設に勤務する職員や里親が提供する具体的な援助方法に支えられている。本科目では、愛着(アタッチメント)、子どもとのコミュニケーション、暴力の防止などをキーワードとしながら、社会的養護の現場における児童の安心・安全の確保を重要な視点とする。そして、その視点に立った上で、社会的養護を実践する上で必要とされるケアワーク、ソーシャルワークの知識・技術について学び、その理解と認識を深めることを目的とする。また、児童福祉施設職員または里親からの話を聞く機会を設けることにより、学びを深める。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 社会的養護における子どもたちの権利擁護について理解する (2) 社会的養護に必要なとされる専門的な知識や技術について理解する (3) 社会的養護の現場における具体的な課題やその対処法について理解する</p>
授業計画	<p>第1回 社会的養護の実施体系と子どもの権利擁護 第2回 専門性に関する知識1：愛着(アタッチメント)について 第3回 専門性に関する知識2：被措置児童等虐待 第3回 専門性に関する知識3：施設内暴力の防止について 第5回 専門性に関する技術1：乳幼児とのコミュニケーション技法(声かけ、言語心理学的技法) 第6回 専門性に関する技術2：暴力を用いないしつけの方法1(子育て支援プログラムの技法) 第7回 専門性に関する技術3：暴力を用いないしつけの方法2(子育て支援プログラムの技法) 第8回 社会的養護の実際を学ぶ(児童福祉施設職員または里親による講和) 定期試験</p>
テキスト	テキストは使用しない。授業に必要な資料はその都度配布する。
参考文献	必要に応じて授業の中で紹介する。
評価方法	成績は、期末試験(70%)、毎回の小テスト等(30%)を基本として総合的に判断する。
自己学習に関する指針	配布資料を用いて予習・復習を行うとともに、理解を深めるため、積極的に授業中に紹介する参考文献を読むこと。
履修上の指導・留意点	

授業科目	子育て支援						
担当教員	山尾淳子						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M7020395
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 保育現場での相談支援の専門性を身につけるために、「育てにくさ」「育ちにくさ」をもった子どもの発達を支援し、きがかりな親子関係と保護者を支援するための、発達臨床の基礎を学ぶ。家族支援と早期対応、早期介入の必要性、福祉領域との連携、保育相談の実務と役割の理解を目指す。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 地域子育て支援の拠点として、保育所、幼稚園、及び認定こども園に期待される保護者支援としての保育相談支援者の役割と基礎的理論・技術を学ぶ。特に乳児期からの「こんにちは赤ちゃん事業」「育児支援家庭訪問事業」「子育て支援センター」などの個別相談型支援事業に対応できる支援者のあり方、保育所での困難な保育を抱える保護者の保育への介入と支援のあり方、さらに地域専門職ネットワークの中での保育専門職の役割を理解するための演習とする。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 保育所の相談支援業務を、送迎時対応から個別相談まで、段階的に把握することができる。</p> <p>(2) 日常の保育業務の「連絡帳」「園だより」「相談記録」を、構造的に把握することができる。</p> <p>(3) 困難事例の発達の介入の時期と方法のあり方を理解することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 保育所保育指針と保育相談支援</p> <p>第2回 困難事例の早期発見と早期対応</p> <p>第3回 日常的な支援と記録のあり方</p> <p>第4回 日常的な支援の見直し（園内の相談支援の実際）</p> <p>第5回 日常的な支援の見直し（情報共有を促す園だより・パンフレット）</p> <p>第6回 日常的な支援の見直し（連絡帳の活用・グループディスカッション）</p> <p>第7回 相談援助のための基本的技術（演習・グループディスカッション）</p> <p>第8回 相談支援のための園内連携・地域連携</p>
テキスト	テキストは使用せず、適宜プリント資料を配付する。配付された資料はファイルして毎回持参すること。
参考文献	<p>笠師千恵・小橋明子著「相談支援 保育相談支援」中山書店</p> <p>永野典詞・岸本元気著「保護者支援」風鳴舎</p> <p>西村重稀・青井夕貴編集「保育相談支援」中央法規出版</p> <p>その他授業中に随時紹介する</p>
評価方法	毎回の授業内容理解の評価・毎回提出の授業レポート課題（40%） 期末レポート課題（60%）
自己学習に関する指針	テキストや配布資料を読み、復習に役立てる
履修上の指導・留意点	毎回、授業の終わりに授業の振り返りレポートを提出する

授業科目	保育教職実践演習						
担当教員	渡辺一弘 梶谷朱美 渡邊寛智 小林美沙子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義・演習	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M7020400
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状《教職に関する科目》 ・教職実践演習 ○保育士資格						

授業の概要	<p>5名～20名以下の小人数グループでの演習形式を原則とする。</p> <p>保育学科での様々な学習や実習を通じた2年間の課程を振り返り、知識・態度・技能などの自らの学びの過程と学習内容を自覚すると同時に、幼稚園教諭・保育士に求められる「使命感や責任感、教育的愛情」「幼児理解や学級経営力」等が修得されているかどうかを確認し、対人関係力や保育の指導法に関する実践力をさらに高める。具体的には、いくつかのグループ活動を行い、自己課題を発見し、模擬保育を準備・発表し、反省と評価を行う。</p>
授業の到達目標	<p>保育学科での2年間の総まとめ的な演習である。学生が意欲的に、保育者としての自己の課題を発見し、主体的に課題に取り組むことを目的とする。</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育者としての自己の特徴や長所を確認するとともに、自己課題を発見できる。 (2) 題材探究や教材研究を行い、保育者としての表現力や子どもの反応を生かした指導計画を立案できる。 (3) 子どもへの指導方法と環境構成の方法などに配慮した模擬保育ができる。 (4) グループで話し合い、役割分担をしながら、協力して活動に取り組むことができる。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーションとグループ分け、保育者に求められる資質・能力の理解（グループ討議）</p> <p>第2回 保育者に求められる資質・能力の理解、自己課題の発見（グループ討議）</p> <p>第3回 保育者に求められる資質・能力の理解、自己課題の発見（グループ発表）</p> <p>第4回 現場経験教員中心による講義・演習・実技—子ども理解について</p> <p>第5回 現場経験教員中心による講義・演習・実技—保育内容等の指導法</p> <p>第6回 現場経験教員中心による講義・演習・実技—教材研究</p> <p>第7回 現場経験教員中心による講義・演習・実技—教材の活用例</p> <p>第8回 現場経験教員中心による講義・演習・実技—教材の作成と実践</p> <p>第9回 模擬保育に向けた教材研究（グループ活動）</p> <p>第10回 模擬保育に向けた指導計画案作成（グループ活動）</p> <p>第11回 模擬保育に向けた準備（グループ活動）</p> <p>第12回 模擬保育の発表と学生による評価—第1グループ</p> <p>第13回 模擬保育の発表と学生による評価—第2グループ</p> <p>第14回 模擬保育の発表と学生による評価—第3グループ</p> <p>第15回 模擬保育の全体反省会と評価、教職実践力の自己評価</p>
テキスト	必要に応じてプリント等を配布する。
参考文献	特になし。
評価方法	模擬保育の取り組みと発表 40%、課題等の提出物 40%、授業中の取り組み等 20%
自己学習に関する指針	積極的に授業に参加すること。
履修上の指導・留意点	欠席する場合、できる限り事前に連絡すること。

授業科目	教育実習指導						
担当教員	小林美沙子 青山啓子						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	2	配当期	通年
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M7020410
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状《教職に関する科目》 ・教育実習						

授業の概要	<p>・実習前の指導では、「教育実習Ⅰ（幼稚園）指導」「教育実習Ⅰ（幼稚園）」を担当する専任教員と教職課程に係る人材育成に実績を有する兼任教員（以下、合わせて「実習担当教員」）により、幼稚園の教育実習に向け、実習生としての心構えを確認するとともに、幼稚園の活動を具体的に知るなどの事前指導を行う。また、実習日誌の書き方や指導計画の作成などの保育文書の実際についても、講義や指導計画の立案課題を通して学ぶ。</p> <p>・実習終了後は、実習担当教員により実習の反省や自己評価などの事後指導を行う。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 教育実習を行うための心構えや実習内容を理解し、責任感と行動力を身につける。</p> <p>(2) 実習日誌などの文書の書き方を理解する。</p> <p>(3) 部分指導案や日案などの書き方を理解し、指導計画を立案する力を身につける。</p>
授業計画	<p>(事前指導)</p> <p>第1回 幼稚園教育実習の概要（青山）</p> <p>第2回 実習に向けての心構え、実習での文書の取り扱い（青山）</p> <p>第3回 実習における実習日誌や指導案の書き方（青山）</p> <p>第4回 実習日誌の書き方、ビデオ視聴（小林）</p> <p>第5回 部分指導案の書き方、ビデオ視聴（小林）</p> <p>第6回 日案の書き方、ビデオ視聴（小林）</p> <p>第7回 実習における保育実践の方法、ビデオ視聴（小林）</p> <p>(中間・事後指導)</p> <p>第8回 実習の報告と事後指導（小林）</p>
テキスト	<p>島根県立大学短期大学部保育学科 編『実習の手引き』と『教育実習実施要領』に基づき、実習指導を行う。</p> <p>また「実習日程表」「出勤簿」「実習日誌」「指導案用紙」などを配布する。</p>
参考文献	<p>参考文献などは授業の中で適宜提示するとともに、必要に応じてプリントなどを配布する。</p>
評価方法	<p>成績は、出席状況、課題レポート、実習に対する意欲なども含め、総合的に評価する。</p> <p>教育実習指導の講義に1回でも欠席した場合は教育実習を受けさせないため、必ず、教育実習指導の欠席した回の補講を受ける。また課題レポートの提出が、単位認定の最低条件となる(提出物の遅れやレポートの未提出については、総合点から減点する。未提出の場合は、単位を認定しない)。</p>
自己学習に関する指針	<p>幼稚園教諭になるための教育実習を行う前の事前・事後指導である。実習中に活かせる知識技能を身につけることを目的とするため、実習に対する意欲を高めるつもりで履修すること。</p>
履修上の指導・留意点	<p>履修対象は、保育学科の幼稚園教諭二種免許取得者のみ。</p>

授業科目	教育実習						
担当教員	小林美沙子						
科目分類	専門科目	授業時間	180	配当年次	2	配当期	通年
授業形態	実習	選択/必修	選択	単位数	4	授業コード	M7020420
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭二種免許状《教職に関する科目》 ・教育実習						

授業の概要	<p>・前半に実施する実習は、見学・観察・参加実習が主となるが、指導的立場で保育を部分的に担う責任実習も行う。</p> <p>・後半に実施する実習では、前半の実習体験と幼児の発達的变化の理解を踏まえ、幼稚園の指導教員の指導の下でより指導的立場での責任実習を行う。</p> <p>・実習担当教員が中心となり、実習期間中に実習先を巡回し、実習生の様子を観察するとともに、幼稚園の指導教員と情報交換を行い実習生に対し必要な助言・指導を行う。</p>
授業の到達目標	<p>実習の目標は、実習園の保育方針の理解、物的環境や人的環境の把握、保育の一日の流れの理解、クラスや幼児の理解、生活や遊びなどの活動の内容や保育形態の理解、保育者の役割や指導・援助の方法の理解、指導計画の立案、部分指導や全日指導の実際、実習の省察と評価である。</p>
授業計画	<p>前半（2週間） 幼稚園の組織、運営、活動の実際を理解する。子ども理解や保育者の援助の方法など、専門科目で学んだ知識や理論を実践する。幼児の把握・理解と具体的な人間関係の中で、指導技術を習得する。</p> <p>後半（2週間） 前半の実習体験から明確な課題意識を持って実習に取り組む。また、2ヶ月間の幼児の発達的变化を理解することによって、幼児の把握・理解を深める。</p>
テキスト	<p>島根県立大学短期大学部保育学科 編『実習の手引き』と『教育実習実施要領』に基づき、実習指導を行う。</p> <p>また「実習日程表」「出勤簿」「実習日誌」「指導案用紙」などを配布する。</p>
参考文献	<p>授業で配布した資料等を参考にすること。</p>
評価方法	<p>大学の実習担当教員が、以下の観点などについて、実習日誌等の文書、巡回指導時の状況、学生による実習の省察、実習協力園の指導教諭・教頭・園長などの評価を踏まえ、総合的に成績評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習を通じた職務内容・専門性の理解 ・幼児への理解や指導 ・教材の研究や作成 ・保育指導案の立案と環境設定 ・実習に対する意欲・態度 ・実習中の出勤状況や勤務態度 <p>最終的には、保育学科会議で協議の上、実習担当教員が成績評価を確定する。</p>
自己学習に関する指針	<p>実習の受け入れ条件として、幼稚園教諭になる強い意志がある、または保育者に必要な知識技能を積極的に学ぶつもりのある学生となっているため、実習に対する意欲や態度も重要になる。</p>
履修上の指導・留意点	<p>履修対象は、保育学科の幼稚園教諭二種免許取得者のみ。</p>

授業科目	保育実習 I A 指導						
担当教員	菊野雄一郎・青山啓子						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	1	配当期	通年
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M7020430
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	保育実習 IA は、1 年夏季休業中（9 月）に実施する保育所での実習である。この実習を通して、保育士の職務、保育所・施設の生活の流れや機能について理解し、保育士として必要とされる態度・知識・技能を習得することを目的としている。また、児童福祉に対するニーズの理解や判断のための力量を向上させることを目標としている。保育実習 IA 指導は、この実習を実施するための事前指導と事後指導である。
授業の到達目標	(1) 保育実習 IA のための諸手続き・検査を主体的に実施する。 (2) 実習生としての心構え、態度について明確な自己認識を持ち、実習保育所に伝える。 (3) 1 年後期以降の学びの基盤としての実習課題を、具体的に見出す。
授業計画	1 年前期科目であるが、第 6 回と第 7 回の事前指導は 9 月の実習前に実施し、第 8 回事後指導は実習終了後の 11 月に実施する。 第 1 回 保育学科 2 年間の 4 ステップ（菊野） 第 2 回 保育所実習とは（菊野） 第 3 回 実習までにしておくこと(1)（菊野） 第 4 回 実習生としてのふるまい（青山） 第 5 回 実習までにしておくこと(2)（青山） 第 6 回 実習日誌の書き方（青山） 第 7 回 実習が始まったら（青山） 第 8 回 実習が終わったら（菊野）
テキスト	民秋言・米谷光弘・安藤和彦・中西理恵著 「保育ライブラリ保育の現場を知る 保育所実習」北大路書房 1900 円 保育学科編 「実習の手引き」をあわせて使用する。
参考文献	授業中に随時紹介する。
評価方法	達成目標(1)の評価:提出物(10 点) 達成目標(2)の評価:事前訪問(20 点) 達成目標(3)の評価:実習日誌と事後自己評価(70 点) ※1 回の欠席につき 3 点減点
自己学習に関する指針	実習に関することについて、授業での内容を照らし合わせながら十分に学習すること。
履修上の指導・留意点	履修の前提条件-保育学科 1 年前期必修科目の単位をすべて取得していること。 1 年前期出席日数を満たし、専門科目の課題をすべて提出済みであること。 実習前の保育学科教室 会議において実習生として認められること。

授業科目	保育実習 I A						
担当教員	菊野雄一郎						
科目分類	専門科目	授業時間	90	配当年次	1	配当期	通年
授業形態	実習	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M7020440
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	保育実習 IA は、保育所での実習を通して、保育士の職務、保育所・施設の生活の流れや機能について理解し、保育士として必要とされる態度・知識・技能を習得させることを目的としている。また、児童福祉に対するニーズの理解や判断のための力量を向上させる。
授業の到達目標	(1) 児童福祉施設の一つである保育所の組織や運営を理解し、保育の知識や技能を体験的に学ぶ。 (2) 保育士としての自覚や態度を身につけ、問題意識をもつ。 (3) 実習中の日誌記録によって体験的な気づきを明確にし、自己学習の基盤とする。
授業計画	保育実習 IA は、1 年前期の 4 月から 7 月まで「保育理解の基礎」にかかわる科目を履修し、「保育実習 IA 指導」において事前指導を受けた上で、1 年夏季休業中に、実習指導委員会に参加する保育所において、10 日間の実習を経験する。実習時間は 90 時間。 ・実習先の保育所における保育方針、物的/人的環境、一日の保育の流れの理解 ・保育活動の内容や形態の理解 ・保育者の役割と援助の方法の理解 ・子どもの理解にもとづく部分指導/全日指導の計画立案および実践 ・実習の省察と自己評価 実習終了後は、1 年後期の事後指導によって実習をふり返り、自身の実習経験に対する理解を深め、次の課題や目標を設定する。
テキスト	「保育実習 IA 指導」授業で、保育学科編「実習の手引き」のほか、「実習日程表」「実習先概要」「実習日誌」「実習の反省と感想」を配布して解説する。
参考文献	授業中に随時紹介する。
評価方法	実習先の指定保育所による成績評価を中心に、実習録、出勤状況、事後指導の課題や面談に基づく短大の担当教員による成績評価を併せて、総合的に評価する。
自己学習に関する指針	実習に向けて、講義で学んだことを振り返りながら、保育者として保育実習で何が大きかさを考えるようにしておくこと。
履修上の指導・留意点	履修の前提条件-保育学科 1 年前期必修科目の単位をすべて取得していること。1 年前期出席日数を満たし、専門科目の課題をすべて提出済みであること。実習前の保育学科教室会議において実習生として認められること。

授業科目	保育実習ⅠB指導						
担当教員	宮下裕一 藤原映久						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	2	配当期	通年
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M7020450
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 保育実習Ⅰ（施設）では、児童福祉施設等（保育所を除く）での実習を通じて、施設へ通所・入所する児童や利用者の実態を知ることにより、施設支援の実際を学ぶ。そこで、本科目では、児童福祉施設等で生活する児童や利用者の特徴を学んだ上、施設種別ごとの役割や機能、施設職員の職務内容等について理解することを目的とする。また、実習への心構え、実習先で必要とされる礼儀等について学び、保育業務・養護業務に携わる者としての自覚を高めることも目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 保育実習Ⅰ（施設）では、児童福祉施設等（保育所を除く）での実習を通じて、施設へ通所・入所する児童や利用者の実態を知ることにより、施設支援におけるケアワークの実際を学ぶ。本科目では、児童福祉施設等で生活する児童や利用者の特徴や入所の背景を学んだ上、施設種別ごとの役割や機能、施設職員の職務内容等について理解する。また、実習への心構え、実習先で必要とされる礼儀等について学び、保育業務に携わる者としての自覚を高める。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉施設等で生活する児童や利用者の特徴について説明できる。 ・施設種別ごとの役割や機能、施設職員の職務内容等について説明できる。 ・実習への心構え、実習先で必要とされる礼儀等に関する知識を習得する。 ・実習の体験を踏まえて、将来への希望と今後の学習への意欲を高めることができる。
授業計画	<p>第1回 保育実習Ⅰ（施設）について 第2回 保育実習Ⅰ（施設）指導の意義 / 児童福祉施設で生活する子どもと職員の職務 第3回 障がい系、養護系、治療系施設の実際 第4回 実習で使用する各種様式の説明 / 実習日誌の書き方 第5回 評価のポイント、注意点、確認事項 第6回 実習生オリエンテーション 第7回 ワーク（どんな時に困りそうか） / お礼状の書き方 第8回 事後指導（実習体験発表） ※第6講義は、実習指導委員会の後に開催され、実習施設職員よりオリエンテーションが実施される。</p>
テキスト	守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵著『施設実習パーフェクトガイド』、わかば社【1400円+税】
参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	レポート提出、実習に関する振り返りの内容等から総合的に判断する。
自己学習に関する指針	事前にテキストに目を通し、疑問点などをまとめておく。実習先についてインターネット等で調べる。実習後は自らその行動を振り返り、得たこと、課題について整理し言語化を試みる。
履修上の指導・留意点	3回以上の欠席は基本的に成績評価の対象外とする。

授業科目	保育実習 I B						
担当教員	宮下裕一 藤原映久						
科目分類	専門科目	授業時間	90	配当年次	2	配当期	通年
授業形態	実習	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M7020460
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 実習生として児童福祉施設等（保育所を除く）における実際の活動に参加することにより、「子どもや利用者の生活実態や施設の役割・機能」、「子どもや利用者の理解と援助のポイント」、「保育士の職務や役割と職業倫理」等について学ぶ。また、保育実習 I（施設）指導等を通じて実習までに学んだ知識や技能に関して、実習を通じて再確認するとともに、その実践的理解を目指す。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 通所または入所型の児童福祉施設、障害者支援施設等で 10 日間の実習を経験する。児童福祉施設等（保育所を除く）における実際のケアワークや活動に参加することにより、子どもや利用者の生活実態や支援のポイント、保育士の職務と役割、施設生活の流れやその機能について体験的に学ぶ。また、保育実習 I（施設）指導等を通して実習までに学んだ知識や技能に関して、実習を通じて再確認するとともに、その実践的理解を促し、深める。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉施設等における「子どもや利用者の生活実態や施設の役割・機能」、「子どもや利用者の理解と援助のポイント」、「保育士の職務や役割と職業倫理」等について体験的に理解し、理解から得た気づきを実習日誌に記した上で、実践に繋げる努力ができる。また、努力の内容が具体的に説明できる。 ・実習までに学んだ知識や技能を再確認し、実践に生かす努力ができるとともに、その内容が説明できる。
授業計画	<p>実習を通じて以下の事柄を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設における児童及び利用者の生活の実際 ・施設の役割と機能 ・子ども及び利用者の観察とそれに基づく考察及び記録 ・児童及び利用者の理解 ・児童及び利用者への援助（環境設定、養護技術等） ・施設における保育士の業務・役割と職業倫理
テキスト	守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵『施設実習パーフェクトガイド』、わかば社【1400 円+税】
参考文献	
評価方法	成績は、実習日誌、実習評価票、巡回指導時の聴取などから総合的に評価する。
自己学習に関する指針	日々の実習の目標を明確に持つこと。実習記録簿等、実習先から指導を受けた事項について、赤字などで修正を行う。実習を通して自己を振り返り、保育者としての資質・力量の向上に努める。
履修上の指導・留意点	実習前に、実習先と関連したボランティアをすることが望ましい。

授業科目	保育実習Ⅱ指導						
担当教員	渡辺一弘 青山啓子						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	2	配当期	通年
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M7020470
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>保育所実習Ⅱにあたり、保育活動の計画、展開、評価の方法について学び、指導計画や観察・記録の重要性について理解を深める。「保育実習ⅠA」の実習経験や他教科における学びを基に、自らの目標と課題をより明確にしながら、保育実践力を培うとともに、保育者としての高い資質を育成することを目指す。具体的には、先ず保育実習Ⅰを振り返り、実習日誌から実習課題の発見と立て方を学ぶ。次に、指導計画案の書き方について学び、保育実習Ⅱについて備える。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 前年度「保育実習ⅠA」の日誌を基に自身の経験を振り返りながら、改めて日誌の書き方について理解を深める。 (2) 振り返りを通じて「保育実習Ⅱ」への課題を明確にする。 (3) 各自の設定した課題を踏まえ、指導計画案の書き方を身に付ける。</p>
授業計画	<p>第1回 「保育実習Ⅱ」のオリエンテーション (渡辺) 第2回 保育実習を振り返るための「記録」と「評価」について (渡辺) 第3回 「保育実習ⅠA」の自己評価および課題の発見① 実習日誌について (渡辺) 第4回 「保育実習ⅠA」の自己評価および課題の発見② 実習課題とその立て方 (青山・渡辺) 第5回 指導計画案の書き方について (実践と課題) (渡辺) 第6回 指導計画案の書き方について (3歳未満児の指導案) (青山・渡辺) 第7回 指導計画案の書き方について (3・4・5歳児の指導案) (青山・渡辺) 第8回 まとめ、総括 (渡辺)</p>
テキスト	『幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド [第3版]』太田光洋、ミネルヴァ書房、2015年(3,200円+税)。本学保育学科編の「実習の手引き」等を配布する。必要に応じてプリント等を配布する。
参考文献	『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館、2017年(149円+税)
評価方法	達成目標ごとの演習課題の内容と取り組む姿勢(達成目標(1):25%、(2):35%、(3):40%)により、総合的に評価する。
自己学習に関する指針	保育実習Ⅱを意識して、受講すること。
履修上の指導・留意点	履修対象は、保育学科2年の保育士資格取得希望者のみである。欠席する場合は、できる限り事前に連絡すること。

授業科目	保育実習Ⅱ						
担当教員	渡辺一弘						
科目分類	専門科目	授業時間	90	配当年次	2	配当期	通年
授業形態	実習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M7020480
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	「保育実習Ⅱ指導」および1年次の「保育実習ⅠA」と専門必修科目の単位を取得した上で、夏季休業中に、原則として実習生が希望する保育所（園）において保育所実習にのぞみ、保育実践力を培うとともに、保育者としてのより高い資質を育成することを目指す。保育実習Ⅱは、本実習の位置づけとして、全日実習（指導）、部分実習、責任実習、など実習生の積極性が求められる。またそれらに応じて、実習の省察と自己評価も求められる。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 保育所（園）の組織や運営のあり方を理解し、体験を通じて保育の知識や技能を実践的に学ぶ。 (2) 保育者としての自覚や態度を身につけ、乳幼児の理解や保育者による援助の方法など、専門科目で学んだ知識や理論を実習の場で具体的に実践する。 (3) 実習中の指導計画案作成によって、保育所における保育計画と保育内容についての理解を深める。 (4) 実習中の日誌記録によって、観察・記録の方法を実践的に学びながら体験的な気づきを明確にし、自己学習の基盤とする。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・実習先の保育所における保育方針、物的／人的環境、一日の保育の流れの理解 ・保育活動の内容や形態の理解 ・保育者の役割と援助の方法の理解 ・子どもの理解にもとづく部分指導／全日指導の計画立案および実践 ・実習の省察と自己評価 <p>実習終了後は事後指導によって実習をふり返り、自身の実習経験に対する理解を深め、次の課題や目標を設定する。</p>
テキスト	「保育実習Ⅱ指導」テキストおよび「実習の手引き」のほか、「実習日程表」「実習先概要」「実習日誌」を配布する。
参考文献	授業中に随時紹介する。
評価方法	実習録、出勤状況、事後指導の課題に基づく短大の担当教員による成績評価を中心に、実習先の保育所による成績評価を併せ、各達成目標の到達度を総合的に評価する。
自己学習に関する指針	実習先の保育所（園）の指導に従うこと。
履修上の指導・留意点	履修対象は、保育学科2年の保育士資格取得希望者のみである。

授業科目	保育実習Ⅲ指導						
担当教員	宮下裕一 藤原映久						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	2	配当期	通年
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M7020490
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 保育実習Ⅲ（施設）は児童福祉施設等（保育所を除く）における2度目の実習であり、児童福祉施設等における支援の実践をより深く理解するとともに、1年次の保育実習Ⅰ（施設）を通じて明らかになった自らの課題に取り組むことが求められる。そこで、本科目では児童福祉施設等の役割と機能を再確認した上で、施設における支援のあり方（知識、技術、判断・思考）に関する理解を高めることと、保育士としての自らの課題及びその課題に対する取り組みの方向性を明確にすることを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 保育実習Ⅲ（施設）における体験と学びをより確かなものとするため、実習対象となる各施設種別について、施設を利用する子どもや障がい者の背景や特徴、各施設の役割と機能、施設職員の職務内容、保育士に求められる役割や実際のケアワーク等について再確認する。また、被虐待児童、非行児、障がい児・者など、その理解と支援に高い専門性を要する児童や利用者の特性と施設における具体的な支援方法についての学びを促し、深める。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉施設等の役割と機能に関する理解を深めるとともに、その内容が説明できる。 ・児童福祉施設等の支援で必要とされる知識、技術、判断力・思考力を養うとともに、その内容が説明できる。 ・保育士としての自己の課題を明確化するとともに、その内容が説明できる。
授業計画	<p>第1回 保育実習Ⅲ（施設）の意義 第2回 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能 第3回 保育実習Ⅰ（施設）の振り返りと課題の確認 第4回 実習対象施設に関する調べ学習① 第5回 実習対象施設に関する調べ学習② 第6回 実習で使用する様式の説明と日誌の書き方について 第7回 実習にあたっての注意点、確認事項 第8回 事後指導（実習体験発表）</p>
テキスト	守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵 『施設実習パーフェクトガイド』、わかば社【1400円+税】
参考文献	
評価方法	授業に対する意欲・態度、実習に対する振り返りの内容等から総合的に判断する。
自己学習に関する指針	事前にテキストに目を通し、疑問点などをまとめておく。実習先についてインターネット等で調べる。実習後は自らその行動を振り返り、得たこと、課題について整理し言語化を試みる。
履修上の指導・留意点	3回以上の欠席は基本的に成績評価の対象外とする。

授業科目	保育実習Ⅲ						
担当教員	宮下裕一 藤原映久						
科目分類	専門科目	授業時間	90	配当年次	2	配当期	通年
授業形態	実習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M7020500
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 保育実習Ⅰ（施設）の体験を下地として、「子どもや利用者の生活実態や施設の役割・機能」、「子どもや利用者の理解と援助のポイント」、「保育士の職務や役割と職業倫理」等に関する理解を更に深めるとともに、保育士としての自らの課題を明確化し、実践を通じてその課題に取り組む。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 各種施設の役割と機能、保育士の職務と役割をより深く・広く理解することを目的として、通所または入所型の児童福祉施設、障害者支援施設等で10日間の実習を行う。特に、社会的養護を担う施設においては、社会的養護の意義、被虐待児童への支援、保護者支援、家庭支援等を含め、これまでの学びを実習体験と繋げながら包括的に学ぶ。また、地域における施設の役割についても、地域福祉の視点から理解するとともに、体験的な理解を促す。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童福祉施設等における「子どもや利用者の生活実態や施設の役割・機能」、「子どもや利用者の理解と援助のポイント」、「保育士の職務や役割と職業倫理」等に関して深めた理解内容を具体的に説明できる。 ・ 明確化した自己の課題及び、実践を通じてその課題取り組んだ内容と成果について説明できる。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育実習Ⅰ（施設）における以下の学びを深めるとともに、保育実習Ⅰの振り返りと本実習を通じて自らの課題を明確化し、その課題に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> * 施設における児童及び利用者の生活の実際 * 施設の役割と機能 * 子ども及び利用者の観察とそれに基づく考察及び記録 * 児童及び利用者の理解 * 児童及び利用者への援助（環境設定、養護技術等） * 施設における保育士の業務・役割と職業倫理
テキスト	守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵 『施設実習パーフェクトガイド』、わかば社【1400円+税】
参考文献	
評価方法	成績は、実習日誌、実習評価票、巡回指導時の聴取などから総合的に評価する。
自己学習に関する指針	日々の実習の目標を明確に持つこと。実習記録簿等、実習先から指導を受けた事項について、赤字などで修正を行う。実習を通して自己を振り返り、保育者としての資質・力量の向上に努める。
履修上の指導・留意点	実習前に、実習先と関連したボランティアをすることが望ましい。

授業科目	音楽 I A						
担当教員	渡邊寛智						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義・演習	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M7020510
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>保育者は子どもと音や音楽と一緒に楽しみ、音楽的活動につなげていくために様々な音楽表現を把握し理解しておく必要がある。また、音楽の基礎知識の理解は様々な楽器を演奏する際に役立ち、多様な音楽表現の基になることから、保育の実践的な場面でも活かすことができる。</p> <p>以上のことから、この科目では、音楽理論を丁寧に学ぶことを前提とし、保育環境における音楽に触れながら、音楽の楽しさを味わってゆく。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 基本的な音楽理論について理解する。</p> <p>(2) 音楽の理解を深め、音楽を楽しみ、親しみを持つことができる。</p> <p>(3) 子どもの音楽環境を理解し、保育で扱われる音楽に関心を深める。</p>
授業計画	<p>第1回 音楽の基礎①—楽譜の読み方、音名、音符の種類</p> <p>第2回 音楽の基礎②—リズムと拍子</p> <p>第3回 音楽の基礎③—音楽記号、音楽標語</p> <p>第4回 音楽の基礎④—まとめ</p> <p>第5回 音階と調の理解①—長音階、長調系</p> <p>第6回 音階と調の理解②—短音階、短調系</p> <p>第7回 音階と調の理解③—日本音階、わらべうた、まとめ</p> <p>第8回 音程の理解①—度数、種別、種類(幹音)、長短系</p> <p>第9回 音程の理解②—増減系、種類(派生音、複音程)</p> <p>第10回 音程の理解③—まとめ</p> <p>第11回 和音の理解①—和音の基本構造、コードネーム、三和音</p> <p>第12回 和音の理解②—属七和音、その他の和音</p> <p>第13回 和音の理解③—まとめ</p> <p>第14回 簡易楽曲を題材とした音楽理論の理解①</p> <p>第15回 簡易楽曲を題材とした音楽理論の理解②</p> <p>定期試験</p>
テキスト	<p>『幼児のための音楽教育』神原雅之・鈴木恵津子 編著 教育芸術社</p> <p>『最新 学生の音楽通論』伴田武嘉津著</p> <p>※その他、適宜資料プリントを配布</p>
参考文献	『楽典—理論と実践』石桁真礼、末木氏保雄ほか著 音楽之友社
評価方法	実技課題 (50%)、定期筆記試験 (50%)
自己学習に関する指針	テキスト、配布プリントを復習に役立てる。
履修上の指導・留意点	<p>動きやすい服装で出席すること。</p> <p>五線譜の用意 (毎回授業で使用します)。</p>

授業科目	音楽 I B						
担当教員	渡邊寛智						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義・演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M7020520
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>保育者は子どもの音楽的発達を理解し、子どもが楽しく音遊びや音楽表現に親しむことができるよう音楽活動の実施をすることが求められる。また、様々な子どもの音楽表現に対応し、子どもの音楽表現に対応し、子どもの歓声を育んでいけるような音楽技能も身につけたい。</p> <p>以上のことから、この科目ではコード伴奏を中心とした音楽技能を学習し、ア・カペラなどの実演を通じ、音楽表現の楽しさを味わい子どもの音楽的表現の支援へと考察を深める。</p>
授業の到達目標	<p>(1) コード伴奏による子どものための楽曲を歌唱し、音楽理論を実践的に理解する</p> <p>(2) 音遊び、様々な音楽活動を体験し、音楽理論の理解を深める</p> <p>(3) 子どもの音楽的発達についての理解を深める</p>
授業計画	<p>第1回 コード伴奏法①ー基本形</p> <p>第2回 コード伴奏法②ー転回形</p> <p>第3回 コード伴奏法③ー両手伴奏</p> <p>第4回 コード伴奏法④ーまとめ</p> <p>第5回 ア・カペラー基本編</p> <p>第6回 ア・カペラー練習</p> <p>第7回 ア・カペラー練習</p> <p>第8回 ア・カペラー練習</p> <p>第9回 ア・カペラー発表</p> <p>第10回 指揮法ー基本編</p> <p>第11回 指揮法ー応用編</p> <p>第12回 指揮法ーまとめ</p> <p>第13回 グループ合奏ー練習</p> <p>第14回 グループ合奏ー練習</p> <p>第15回 グループ合奏ー発表</p> <p>定期試験</p>
テキスト	<p>音楽 I A と同様のテキストを使用する</p> <p>その他、適宜資料プリントを配布</p>
参考文献	必要に応じて紹介する
評価方法	実技課題 (50%)、定期筆記試験 (50%)
自己学習に関する指針	テキスト、配布プリントを復習に役立てる。
履修上の指導・留意点	<p>動きやすい服装で出席すること。</p> <p>五線譜の用意 (毎回授業で使用します)。</p>

授業科目	音楽Ⅱ A (ピアノ)						
担当教員	山城裕子 内田真理子 田中加菜						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	通年
授業形態	講義・演習	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M7020530
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>本科目は幼稚園、認定こども園及び保育所における音楽活動を具体的に想定しながら、教育音楽と音楽表現に関する基礎的なピアノ演奏技能の修得を目的とする。ピアノ実技習得を目的としており、学生の習熟度に応じた個別指導が主となる。授業計画のとおり平均的な習熟度のモデルでバイエル第 100 番までを修得することを目標とし、加えて基本的なコード奏法を学修する。</p> <p>授業は習熟度が同程度の 4~5 人を 1 グループとして編成し、個別指導並びにグループ指導とする。週 1 回各グループ 1 時間ずつ、担当教員 3 名により 3 部屋で同時に行う。なお、ピアノ既習者には到達目標を踏まえた上、習熟度に応じて上位の課題を行う。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 「バイエルピアノ教則本」(以下、バイエルと記す) の第 1 番から第 100 番までの曲目が演奏できる。</p> <p>(2) 指定する歌唱及び童謡について簡易なコード奏法が演奏できる。</p> <p>(3) 表情豊かなピアノ演奏ができる。</p> <p>(4) 幼児教育及び保育におけるピアノ演奏上の留意点が説明できる。</p>
授業計画	<p>【春学期】</p> <p>第 1 回 授業概要の説明・習熟度調査の実施 課題曲の模範演奏-バイエルの弾き方について</p> <p>第 2 回 課題曲の選択及び練習、グループ編成</p> <p>第 3 回 バイエル 8 ~ 22</p> <p>第 4 回 バイエル 23 ~ 36</p> <p>第 5 回 バイエル 37 ~ 47</p> <p>第 6 回 バイエル 48 ~ 52</p> <p>第 7 回 バイエル 53 ~ 55</p> <p>第 8 回 童謡のコード奏について課題曲の提示</p> <p>第 9 回 童謡のコード奏の練習</p> <p>第 10 回 バイエル 56 ~ 57 童謡のコード奏</p> <p>第 11 回 バイエル 58 ~ 59 童謡のコード奏</p> <p>第 12 回 バイエル 60 ~ 61 童謡のコード奏</p> <p>第 13 回 バイエル 62 ~ 63 童謡のコード奏</p> <p>第 14 回 バイエル 64 ~ 66 童謡のコード奏</p> <p>第 15 回 総合復習 指定する童謡のコード奏</p> <p>期末実技試験 バイエル 55 以上の楽曲演奏</p> <p>【春学期】</p> <p>第 1 回 グループ合同レッスンⅢ-課題曲の提示と練習</p> <p>第 2 回 グループ合同レッスンⅣ-童謡のコード奏の練習</p> <p>第 3 回 バイエル 67 ~ 73 童謡のコード奏</p> <p>第 4 回 バイエル 74 ~ 77 童謡のコード奏</p> <p>第 5 回 バイエル 78 ~ 79 童謡のコード奏</p> <p>第 6 回 バイエル 80 ~ 85 童謡のコード奏</p> <p>第 7 回 バイエル 86 ~ 89 童謡のコード奏</p> <p>第 8 回 バイエル 90 ~ 91 童謡のコード奏</p> <p>第 9 回 バイエル 90 ~ 91 童謡のコード奏</p> <p>第 10 回 バイエル 92 ~ 93 童謡のコード奏</p> <p>第 11 回 バイエル 94 ~ 95 童謡のコード奏</p> <p>第 12 回 バイエル 96 ~ 97 童謡のコード奏</p> <p>第 13 回 バイエル 98 ~ 100 童謡のコード奏</p> <p>第 14 回 バイエル 101 ~ 105 童謡のコード奏</p> <p>第 15 回 総合復習 指定する童謡のコード奏</p> <p>期末実技試験 バイエル 80 以上の楽曲演奏</p>

テキスト	標準バイエルピアノ教則本 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育 (教育芸術者出版)
参考文献	個々の能力に応じて担当教員が編曲した楽譜を渡すことがある
評価方法	期末実技試験及び習熟度の伸び等を総合して評価する。
自己学習に関する指針	ピアノは毎日弾きましょう。そうすれば必ず上達します。練習の継続が成果に繋がります。
履修上の指導・留意点	

授業科目	音楽ⅡB (ピアノ)						
担当教員	山城裕子 内田真理子 田中加菜						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	通年
授業形態	講義・演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M7020540
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>本科目は幼稚園、認定こども園及び保育所における音楽領域等の活動におけるピアノ演奏と弾き歌いの適切なあり方について説明できると共に、保育の実際に即応することのできる音楽表現および音楽技能の修得を目的とする。</p> <p>授業は習熟度が同程度の4~5人を1グループとして編成し、個別指導並びにグループ指導とする。週1回各グループ1時間ずつ、担当教員3名により3部屋で同時に行う。なお、ピアノ演奏については、個々の習熟度に応じた課題を行う。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期末において、課題とした弾き歌い楽曲の全てを演奏する事ができる。 2. 保育、幼児教育における、弾き歌いに関する留意事項を説明できる。 3. 前期末において、1~2曲のピアノ独奏曲を演奏する事ができる。 4. 後期末において、ダンパーペダルを必要とするピアノ独奏曲を演奏する事ができる。
授業計画	<p>【春学期】</p> <p>第1回 授業概要の説明 課題曲の模範演奏-弾き歌いについて</p> <p>第2回 課題曲の選択及び練習、グループ編成</p> <p>第3回 独奏曲及び弾き歌い曲(季節の歌:春)</p> <p>第4回 独奏曲及び弾き歌い曲(季節の歌:夏)</p> <p>第5回 独奏曲及び弾き歌い曲(行事の歌①)</p> <p>第6回 独奏曲及び弾き歌い曲(行事の歌②)</p> <p>第7回 独奏曲及び弾き歌い曲(毎日の歌①)</p> <p>第8回 独奏曲及び弾き歌い曲(行進曲①)</p> <p>第9回 独奏曲及び弾き歌い曲(行進曲②)</p> <p>第10回 独奏曲及び弾き歌い曲(季節の歌:秋)</p> <p>第11回 独奏曲及び弾き歌い曲(季節の歌:冬)</p> <p>第12回 独奏曲及び弾き歌い曲(自由曲①)</p> <p>第13回 独奏曲及び弾き歌い曲(自由曲②)</p> <p>第14回 独奏曲及び弾き歌い曲(毎日の歌)</p> <p>第15回 総合復習</p> <p>期末実技試験 弾き歌い曲の演奏</p> <p>【秋学期】</p> <p>第1回 グループ合同レッスンⅢ-歌唱伴奏法について</p> <p>第2回 グループ合同レッスンⅣ-伴奏曲の練習</p> <p>第3回 独奏曲の練習</p> <p>第4回 独奏曲の練習</p> <p>第5回 独奏曲の練習</p> <p>第6回 独奏曲の練習</p> <p>第7回 独奏曲の練習</p> <p>第8回 独奏曲の練習</p> <p>第9回 独奏曲の練習</p> <p>第10回 独奏曲の練習</p> <p>第11回 独奏曲の練習</p> <p>第12回 独奏曲の練習</p> <p>第13回 独奏曲の練習</p> <p>第14回 独奏曲の練習</p> <p>第15回 総合復習</p> <p>期末実技試験 独奏曲</p>
テキスト	<p>幼児のための音楽教育 神原雅之 教育芸術者</p>

参考文献	適宜、個別に課題楽曲を提示する
評価方法	期末実技試験及び習熟度の伸び等を総合して評価する
自己学習に関する指針	音楽技能の修得は、絶え間ない継続が全てです。毎日練習しましょう。
履修上の指導・留意点	